

2021：変

——百周年の再起動 「紅羊劫」の前奏曲？（4）

夏

剛

10.26 射殺，10.9 連打，11.26 下野，2.27 自滅，12.25 極刑，12.27 爆死，11.17 譴責

初代首相伊藤博文の就任（1885.12.22）は一陽来復の日で，退任（88.4.30）は平成終焉の131年前に当る。60年後の終戦直後の新首相（第43代，1945.8.17～10.9）東久邇宮稔彦王（陸軍大将，1887.12.3～1990.1.20）は，4回在職（通算2720日，歴代4位）後68歳で暗殺された伊藤と対照的に，執政が短命（54日，内閣制度史上最短）でも歴代首相の最長寿（102歳）を記録した。

伊藤は首相初就任10周年の前日に初代朝鮮総監と成り，辞任（1906.6.14）後に中国で朝鮮人に暗殺された（09.10.26）。55年後の前日に首相を辞任した池田勇人は，憲政史上唯一の皇族内閣を司る東久邇宮稔彦王の恰度12年後に生れた。彼が創った宏池会（自民党最古の派閥，1957.6結成）から，5人の総裁・総理が出た（他に大平正芳・鈴木善幸・宮澤喜一・岸田文雄）。

2職在任時に非所属の宏池会所縁の麻生太郎は，同会第5代の宮澤派（1986.9.4～98.12.22）から分派し（大勇会〔河野派，99.1.18～2006.12.15〕→為公会〔大勇会を継承・刷新した麻生派〕），菅義偉も小渕派（竹下派の後継，92.10.28～00.7.13）在籍（98.7.17退会）を経て宏池会に入り，分派・後継の3派の間を渡り歩いた後09年に無所属に転じたが，共に由緒有る宏池会が源頭である。

下野中の第16・24代総裁河野洋平（1993.7.30～95.9.22）・谷垣禎一（2009.9.28～12.9.26）は，同じ名門の人材輩出と「公家集団」気質（政策に明るく政争に弱い）を思わせる。前者は羽田孜の次の首相を兼務せず，村山富市からの禪譲も受けず37年組（1937.1.15生）の首相誕生を遅らせ，後者（45.3.7生）は与党復帰直前の2012年総裁選で再選出馬を断念した（9.10表明）。

河野は自民党史上初の首相に就任しなかった総裁で，次の谷垣は在任中終始野党党首であった唯一の総裁（河野は途中で自社サ連立政権の成立に伴って与党に復帰）で，平成年間の任期満了を全うしたのは18人中3人しか居ない（平成～令和に跨った安倍晋三は入らず）。小泉純一郎を除く2人が首相に成らなかった事と合せて，戦後の昭和に増した政界の波乱を物語る。

河野の父一郎（1898.6.2～1965.7.8）は副総理・東京五輪担当大臣（64.7.18～65.6.3）等を務めたが、自ら創設した派閥（春秋会、56～72.7.10）の力不足も有って頂点には登れなかった。長男太郎（1963.1.10生）も2021年総裁選で党員票の最多（422票中169票）獲得に関らず、決選投票で同じ元外相の岸田文雄に負け（170対257票）、麻生派の2人目就任が成らなかった。

野田聖子（元郵政・総務相、旧姓島、1960.9.3生）・高市早苗（前総務相、61.3.7生）の出馬で、13年振り（2008年の小池百合子以来）・2度目の女性候補者参戦（複数は初）と成った。日本降伏文書調印15周年の翌日に生れた野田を始め1960年代生れは3/4を占めるが、女性が中共と同じ「硝子の天井」を破る事も無く、一番の古株（64）が第100代首相の座に就いた。

安岡正篤（陽明学者、吉田茂等の政・財界思想指南役、1898.2.13～1983.12.13）命名の宏池会は、馬融（後漢[25～220]の学者、79～166）の「休息乎高光之榭，以臨乎宏池」（高光の榭に休息して、以て宏池に臨む）が由来である。池田勇人の姓から1字取り「宏」で故里広島「廣」に掛けた組み合わせとも言うが、岸田は始祖と姓の1字が重なり同県生れて恰好の継承者に当る。

岸田と同年生れの石破は2008・12・18・20年総裁選の4連敗後、水月会（15.9.28結成）会長を辞任した（10.22）。臨済宗全生庵の住職に由る派閥の命名は禅語の「水月道場に坐す」に由来し、無心・無私・無欲で時代に対応する理想や、軍陣の水・月相對の様な両軍接近・対峙の形象も有るが、脱退続出の末の解消（12.2）は「水中月、鏡中花」の儚さに暗合する。

第1～100代の首相64人の出身地・地盤の内、広島は4人（加藤友三郎[第21代、1922.6.12～23.8.24在任、元帥海軍大将、1861.4.1～同]・池田・宮澤・岸田）は、山口の8人と東京の5人に次ぎ岩手・群馬と同数3位に並ぶ。戦後に限れば群馬の4人（福田赳夫・中曽根康弘・小渕恵三・福田康夫）に次ぐ2位と成るが、大正・昭和・平成・令和各1名は天の采配と言う当きか。

宏池会本家・分派の領袖の地盤（選挙区[多くは故郷]）は、1・5・9代目会長の池田・宮澤（生地は東京）・岸田の広島が突出し、京都・福岡・東北も多い（2・4・6・8代目の前尾繁三郎[1905.12.5～81.7.23]・鈴木善幸・加藤紘一[39.6.17～2016.9.9]・古賀誠[40.8.8生]は京都・岩手・山形・福岡、分派の麻生太郎・谷垣禎一は福岡・京都、有力者の伊東正義・田中六助[23.1.23～85.1.31]は福島・福岡）。

「宏池会の王子」加藤は内閣官房長官・党幹事長を務め「総理に一番近い男」とされながら、「加藤の乱」（2000.11、山崎拓[山崎派領袖、1936.12.11生]）と共闘した森内閣打倒運動の失敗等で候補から脱落した。彼は外務省の「中国学校」^{チャイナスクール}在籍期の台湾語学研修・中国畑勤務（1964.4～71.12）を経て政界に轉身し、日中友好協会会長就任（2008.7.3）等で親中の姿勢を示した。

彼は大平派に入り（1972.2）衆院総選挙（日中国交正常化の72日後の同年12.10）で初当選したが、政治家志望の契機はニクソン衝撃（71.7.15）で官僚の限界を思い知らされた事である。米国側は大統領に由る訪中予告の電撃発表の僅か3分前に初めて日本大使に電話で通告し、晴天霹靂を受けた牛場信彦（1909.11.16～84.12.31）は「朝海の悪夢が現実になった」と唸った。

元駐米大使の朝海浩一郎（1906.3.15～95.9.9）は転換期の異例の長い在任（57～63）中に、日

本外交の最大の悪夢は与り知らぬ内に頭越しに米中が手を握る様に成る事だと語った。今度の寝耳に水だった米中同時公表の接近宣言で同盟国の日本は蚊帳の外に置かれたが、先見の明が伝説化した彼とその証明で退官を決意した加藤は21年差の同じ命日で繋がる。

加藤の逝去は毛沢東の恰度40年後の35分後(0:45)に巡り合せたが、毛が国交正常化で関った米・日や仲介国の首脳には不幸な末路が多い。訪中の初日に彼と会見したニクソンは、116日後(1972.6.17)の民主党(1828.1.8成立)全国委員会本部への侵入・盗聴との関与が追及され、弾劾に遭う寸前に史上初の大統領辞任をした(74.8.8表明、翌日[長崎原爆29周年]実施)。

訪中の3日目(1972.9.27)に毛と会った日本首相もニクソン失脚の2ヵ月後に醜聞を暴かれ、『文藝春秋』11月号(10.9発売)の「砲弾」2発(立花隆[報道人・記録文学作家・評論家。本名橋隆志、40.5.28~2021.4.30]『田中角栄研究——その金脈と人脈』、児玉隆也[報道人、37.5.7~75.5.22]『淋しき越山会の女王』)の急所連打を躲せず、退陣表明・内閣総辞職(11.26、12.9)に追い込まれた。

建国26周年時(1975.10.1)に余命1年未満の見通しを口にした毛は、ニクソンを再度の訪中(翌年2.21~29)に招待し4年振りに懇談した(23)。同月4日の米国上院外交委員会で浮上したロッキード(社[1912年創業]の航空機売り込みに於ける国際的割り戻し)疑惑の飛び火で、田中は7月27日に受託収賄(全日本空輸[52.12.27前身設立]より5億円)容疑等で逮捕された。

首相経験者の逮捕は芦田均(1948.3.10~10.15在任、1887.11.15~59.6.20)以来の2例目で、昭和電工(39.6設立)疑獄(贈収賄汚職、48.4.27衆院で問題化)で逮捕された(12.7)彼の他、20代後の福田赳夫(時の大蔵省主計局長)も次官を目前に御縄に付いた(9.13)。俱に無罪で後者は禍を福に転じて政界に進出したが、田中は1審・控訴審とも有罪である(1983.10.12、87.7.29)。

田中は保釈(8.17)後の衆院選(12.5、1979.10.7、80.6.22)1位当選で人気の健在を見せたが、有罪判決後も当選を果した(83.12.18)ものの政権への隠然たる影響力は翳りが現れ始めた。竹下登主導の派中派「創政会」結成(1985.2.7)の政変に怒り狂った彼は痛飲で鬱憤を発散し、怒気と酒精の所為で同月27日に脑梗塞で倒れ、言行障害の後遺症で政治生命を損ねた。

次の衆院選(1986.7.6)の首位当選は支持者の選挙活動に負い、1度も登院せず引退に至った(90.1.24)。国交正常化20周年前の再訪中(1992.8.27~31)でも、娘真紀子等に言動の不自由を補わせた。75歳で歿した(毛生誕100周年の10日前の1993.12.16)後、正二位・大勲位菊花大綬章有資格者(首相歴1年超)ながら、有罪判決を受けた刑事被告人の身で貰えなかった。

ニクソンは国連設立25周年祝典の際(1970.10.25・26)、^{パキスタン}バキスタン大統領ヤヒヤー・ハーン(69.3.25~71.12.20在任、17.2.4~80.8.10)・^{ルーマニア}羅馬尼亞国家評議会議長チャウシスク(同67.1.29~89.12.22、18.1.26~89.12.25)と会見し、中国に関係改善の意志を伝えるよう依頼した。志願軍朝鮮参戦20周年記念日に当る時機に、曾て死闘を交した両大国の接近の歯車が動き出した。

翌年のキッシンジャー秘密訪中(7.9~11)は、^{パキスタン}バキスタンで急病の治療に専念すると装って同国の大統領特別機で北京へ飛んだのである。協力を惜しまぬ元首は同年に前陸軍総司令

官の蛮勇を発揮して、東^{パキスタン}巴基斯坦独立運動への武力鎮圧（3.26～12.16）と第3次印巴戦争（12.3～同）に挑んだが、敗北の引責で辞任した後に軟禁されその次の新政権治下で釈放された。

チャウシスクは上記の職位と共に、共産党（1921.5.8 成立）書記長（65.3.22～89.12.22）・社会主義共和国〔前身同 47.12.30〕大統領（初代、74.3.28～同）を務め、独裁権力者の君臨を25年強保ったが、東欧共産圏解体の終盤に妻エレナ（第1副首相〔80.3.29～同〕、16.1.7 生）と共に逮捕され、救国戦線評議会（89.12.22 結成）の軍事裁判で群衆虐殺・不正蓄財の罪に由り銃殺された。

政権崩壊はスターリンの生誕110周年（自己申告に由る当時の定説）の翌日に当り、即座処刑の2年後の聖誕祭^{クリスマス}にソ連が消滅した事と共に天数の現れである。夫妻は毛沢東・林彪が妻も陪席で共に会見した（1971.6.3）最後の外賓で、林は鴉片の禁断症状らしい異常な挙動で外に出て項垂^{うなだ}れて坐ったが、戦時暗号名「101」の彼は101日後に妻と共に悲惨に変死した。

毛が死の105日前（1976.5.27）に病身を押して最後の外賓会見を強行し（夜8時35～45分）、厚遇を得たズルフィカール・アリー・ブットー（72.8.10～77.7.5 ^{パキスタン} 巴基斯坦首相、28.1.5～79.4.4）は、ヤヒヤー・ハーンに次ぐ大統領兼戒厳司令官を経て社会主義的な政策と核開発を進めたが、陸軍參謀長ハク中將の「7.5」政変で失脚し、暗殺の罪を問われて絞首刑に処された。

元外相のブットーは政権掌握の翌年4月、戒厳令を解除すると共に新憲法の起草を命じた。新憲法発効（1973.4.12）直前の軍事政変を鎮圧した後、ハク准將を軍事裁判長に任命したが、今度は彼に由る政変の際の逮捕と釈放（7.29）後の再逮捕（8.17）を経て裁判に掛けられ（10.24）、地方高裁で死刑を言い渡され（78.3.18）、控訴も最高裁で却下された（79.2.6）。

ハクは無血政変後に戒厳令布告（自ら戒厳司令官就任）・国会解散・憲法停止で独裁を固め、大統領（1978.9.16 就任）在職中イスラム化の傍ら経済自由化を推進し核開発を加速させた。アフガニスタン^{アフガニスタン}侵攻のソ連への対抗で国際的地位を高めた軍人（最終階級＝大将）元首は、ブットー再逮捕11周年時の^{パレード}閱兵式後に米大使同乗の飛行機の事故で死んだ（1924.8.12～88.8.17）。

3ヵ月半後に彼が死なせた前任者の娘ベナジルが首相と成り（1988.12.2～90.8.6）、イスラム圏初の女性首相（兼国防・財務相）は2代後も務めた（第14代、93.10.19～96.11.5）。何れも汚職に由り解任され、憲法改正（2002.8.21）の首相2期超不可の制限で再登板できない中で、政界復帰を図る遊説中の狙撃（犯人自爆）で父と同じ50代前半で歿した（1953.6.21～2007.12.27）。

キッシンジャーは國務長官就任（1973.9.22）後の訪中（11.10～14）で毛と9ヵ月振りに会い（12）、帰国前に周恩来との会談でソ連の対中脅威を強調し軍事面の連携・援助を申し入れた。毛は通訳担当の手先（唐聞生・王海容）の密告を受けて、周の態度を軟弱と決め付け17日に呼び付けて咎め、「文革」前哨戦勃発（1965.11.10）の8年後に政争の狼煙が又上がった。

毛の指令で周・葉劍英の対米姿勢を批判する政治局会議が数度開かれ（11.21～12月初）、江青等は「喪権辱国」（主権を喪い国を辱める）と誹り、鄧小平や周の部下も保身の為に加担した。毛は周叩きの目的達成後の12月9日に、^{ネパール}尼婆羅のビレンドラ国王（1945.12.28 生）・アイシュ

ワリヤ王后（49.11.7生）と会見する際、周と熱烈に握手し唐・王等に責任を擦り付けた。

王国の第10代君主（1972.1.31即位）夫妻は2001年6月1日、ディベンドラ皇太子（71.6.27生）に由り他の王族7人と共に射殺された。当人は自殺未遂の危篤状態で即位し3日後に逝き、ギャネンドラ王弟（1947.7.7生）が継いだ（～2008.5.28）が、王宮内の惨劇の「6.1」は35年前の「文革」の「妖怪変化一掃」を連想させ、「6.4」「7.7」も中国では血腥い形象が付く。

ベナジル・ブットーは選挙活動中の自爆襲撃から難を逃れた（2007.10.19）が、69日後の銃撃即死はチャウシスク夫妻の処刑と合せて毛の誕生日（12.26）を挟む。中米接近に寄与した両国の指導者は毛の歿後に非業の死を遂げたが、対米交渉に関り毛の縁戚に当る御蔭で外交部次官に昇った王海容は、毛逝去41周年の命日に亡くなり故領袖の亡霊を思わせる。

7.6 怪死, 4.19 示威, 5.18 決起→27 鎮圧, 4.3 一揆, 3.1/6.29 民主救国 / 民主化宣言

第1次衝撃の「7.15」は20世紀の日本に於いて、1922年の日本共産党成立、38年の40年東京夏季五輪・札幌冬季五輪開催権返上閣議決定、49年の三鷹事件、51年の天竜河バス転落事故、60年の岸内閣総辞職、63年の河野一郎邸焼討事件^{やきうち}が有った。中国の1927年の国共決裂、46年の聞一多暗殺、87年の台湾戒嚴令解除と通じて、関連性が一部見られる。

三鷹事件（日本国有鉄道中央本線三鷹駅構内で無人電車が暴走し、死・傷者各6・20人を出した事件）は、9日前の下山事件（7.6、国鉄総裁下山定則〔前運輸次官〕の轢死体〔前日失踪後の死亡時刻も他殺か自殺かも不明〕が常磐線の線路上で発見された事件）、33日後の松川事件（8.17、国鉄東北本線松川駅附近で故意に軌道^{レール}が外され列車の脱線^{脱線}で3人が死亡した事件）と共に、「国鉄三大怪奇事件^{ミステリー}」を成した。

高率・急激通貨膨脹^{ハイパー・インフレーション}に喘ぐ日本経済を建て直す吉田内閣の緊縮財政政策の一環として、国鉄発足（1949.6.1）後10万もの人員整理が決り（7.1）、3万人の解雇が通告された（同4）。実施者として労働組合との交渉で矢面に立った総裁の翌日以降の蒸発・変死は不可思議で、警視庁内部の見解が統一せず捜査が結果発表も無い儘に終わった展開は黒い霧を印象付ける。

下山（1901.7.23生）の20歳の誕生日に創設大会が開幕した中共の本土制圧が目前に迫り、米国は北朝鮮の脅威も感じて日本支配の足軸を民主化から反共防波堤の強化に移した。日本共産党成立27周年時に起きた三鷹事件は国鉄首切りに抵抗する党員の犯行と喧伝され、党員の組合員10人の逮捕・起訴に続いて、松川事件の同20人も大半が労組員であった。

三鷹事件1審判決（東京地裁、1950.8.11）は共同謀議を「空中楼阁」とし党員を放免し、竹内景助（元運転手、非党員）の単独犯行と断定し無期懲役に処した。竹内は控訴審で東京高裁・最高裁で死刑判決の宣告・確定^{こうむ}を被り（1951.3.30、55.6.22）、収監中に脳腫瘍^{しゅよう}で歿した（67.1.18、45歳）が、自供を翻す当人の無実の訴えは今も認められず、覆せない最終判定は疑問点が残る。

松川事件の1審判決（福島地裁、1950.12.6）は被告全員有罪（内5人死刑）とし、2審判決（仙

台高裁, 53.12.22) は 17 人有罪 (同 4 人)・3 人無罪に変え, 最高裁の破棄 (59.8.10) を受けて差し戻し審で全員無罪と成り (仙台高裁, 61.8.8), 最高裁で確定した (63.9.12)。戦後最大の冤罪は国の賠償責任認定に至った (1970.8.1) が, 真犯人が特定できず迷宮入りの儘である。

新人類歌人 (24 歳) 俵万智の「七月六日はサラダ記念日」が流行った 1987 年には, 49 年「7.6」下山事件は最早人々の記憶から消えた。大量解雇決定・第 1 次通告の「7.1・4」は変事の背景と関る様に, 中共建党 28 周年記念日と米国独立 (1776) 記念日に当る。松川事件の「8.17」は 24・39 年後に, ^{パキスタン} 巴基斯坦前・現首脳の再逮捕・墜落死で破滅の影を現した。

三鷹事件 2 周年時の天竜川バス転落は静岡県磐田郡浦川町 (現浜松市天竜区) で起き, 梅雨前線の長雨に由る飯田線浦川駅～佐久間駅間の不通に対応する国鉄のバス代行輸送で, 1 台が増水中の川に落ち 5 人生還・約 28 人行方不明と成った。濁流に呑まれた車体は 3 年後 (1954.8.17) 漸く発見され中に人骨も有ったが, 同じ国鉄関連の惨事は不気味な因縁を持つ。

第 2 次ニクソン衝撃は 1 ヶ月後の「8.15」(日本時間 16 日) に襲来し, ^{ドル} 米弗と金の^だ兌換を一時停止する宣言は変動為替相場制を志向し, 連合国通貨金融会議の協定 (1944.7.22) に由る固定相場制 (^{ドル} 米弗 [1^{ドル}の金 = 35 米弗]) を基軸とする) の崩壊を意味する。世界経済の枠組みを大きく変える政策転換は, 諸外国への事前通告が無かった故に激震が走り余震も絶えない。

20 世紀日本の同日の出来事として, 1945 年の玉音放送, 49 年の台風第 9 号 (8.7～19, 死者 154 名) 上陸, 63 年の初全国戦没者追悼式, 74 年の津川雅彦 (俳優, 40.1.2～2018.8.4)・朝丘雪路 (女優, 旧姓勝田, 35.7.23～18.4.27) 長女誘拐 (翌日解決), 75 年の現職総理 (三木武夫) 初の終戦記念日靖国神社参拝, 80 年の司ちゃん (5 歳) 誘拐・殺害 (8.2・4) 犯人逮捕が有る。

日本以外では 1947 年の印度独立 (前日の^{パキスタン} 巴基斯坦に続き, 英国より), 48 年の大韓民国成立, ^{ムンセグワン} 74 年の文世光 (在日韓国人, 51.12.20～74.12.20) に由る韓国大統領 (第 5～9 代, 63.12.17～79.10.26) ^{パクチヨンヒ} 朴正熙 (17.11.14～同) 暗殺 (^{ファースト・レディ・ユクヨンス} 元首夫人陸英修 [25.11.29 生] 射殺) 事件, 75 年の^{バングラディシュ} 孟加拉 (71.3.26 ^{パキスタン} 巴基斯坦より独立) 政変・ラーマン大統領 (第 1・4 代, 20.3.17 生) 及び妻子の殺害が有る。

親北朝鮮で赤化統一の為に命を擲って光復節 (独立記念日) 祝賀行事で凶行に及んだ男は, 大阪の派出所から盗んだ (7.18) 拳銃を隠し持ち日本の高官に成り澄まして国立劇場に入った。警察官は正装着用・高級車乗用・日本語使用の外見に惑わされて招待状無しで通したが, 42 年前の上海天長節爆弾襲撃でも朝鮮人が日本語を使い日本人と認識されて潜入できた。

^{スンマン} 李承晩 (第 1～3 代大統領 [1948.7.20～60.4.26], 1875.3.26～65.7.19) は「4 月革命」で失脚し (「3.15」大統領選の不正に抗議する「4.19」示威への弾圧で死・傷各 183・6259 人が出, 李は国民の激憤で退陣・亡命 [5.29, 米国・^{ハワイ} 布哇に]), 辞任を促した^{ホジョン} 許政外相 (96.4.8～88.9.18) の代理を経て, ^{ボソン} 尹潽善 (97.8.26～90.7.18) が次期 (60.8.13～62.3.22) に就任し, 翌年に朴正熙等が軍事政変を起した (61.5.16)。

^{チャンミョン} 張勉 (国務総理 [2 期目, 1960.8.19～61.5.17], 1899.8.28～66.6.4) 内閣の政局安定化の失敗に苛立ち, 革命軍 (最高司令官 = 朴 [第 2 野戦軍副司令官・少将]) が首都を制圧し国家再建最高会議を

設置した。張都暎（^{ドヨン}陸軍総参謀長，中將，1923.1.23～2012.8.3）が議長に擁立され首相・国防相も兼ねたが，朴副議長等の謀略で解任され（7.3）翌月に予備役への編入を以て政界から追われた。

張は翌年に反革命・内乱陰謀容疑で韓国中央情報部（1961.6.13 設立）に逮捕され，軍法会議で無期懲役の判決を受けた後5月に釈放され，以後米国に亡命し李承晩と同じ客死で余生を終えた。朴の政敵排除は金大中（^{デジュン}1925.12.3～2009.8.18）に対して苛烈を極め，大統領選（71.4.27）の辛勝（53.2%対45.3%）後，輪禍を装って暗殺を行った（5.24，金負傷，3人死亡）。

朴は翌年の「10月維新」（10.17 大統領特別宣言で非常戒厳令を布告し，国会解散や政党活動・政治集会中止を命じ，憲法を改正した〔10.27 議決，11.21 国民投票で確定，12.27 公布〕）で独裁を強化し，反体制勢力への締め付けとして亡命中の金を東京から拉致し工作船で連れ戻した（73.8.8）。日本の海上保安庁の空中追跡・照明弾投下の威嚇が無ければ，海に投げ込まれる処であった。

九死に一生を得た彼は軟禁された後，『民主救国宣言』（1976.3.1）の署名者（12人）として懲役5年に処された（12.29）が，1年3ヵ月後に釈放された。一方，光復29周年時に在日朝鮮人の凶弾から身を躲した朴は，元首相・前朝鮮総監の伊藤文博が朝鮮人に暗殺された恰度70年後，中央情報部所有の秘密設宴場で金載圭部長（中將，26.3.6～80.5.24）に射殺された。

第6代中央情報部長（1970.12.21～73.12.3）李厚洛（^{フラク}准將，24.2.23～2009.10.31）は，極秘の平壤訪問（72.5.2～5，金日成と会談），金英柱（^{ジュ}領袖の弟，党中央組織指導部長，後に政務院副総理・国家副主席，20.9.21～21.12.14 頃）と連名の南北共同声明（7.4）で注目を浴びた後，金大中事件との関与で解任され，長年の側近を切った朴は縁故抜擢の第8代（76.12.4 就任）に裏切られた。

共に酒席で射殺された車智澈（^{チナジ Chol}大統領警護室長，1934.11.6 生）は金と不仲で，釜（山）馬（山）民主抗争（「金泳三総裁議員職除名波動」に端を発した学生・市民の反独裁・民主化運動，10.16～20）に対する強硬策が朴に採用された故，穏健派の金の不満爆発の引金を引いた節も有る。3人の死・処刑で中央情報部・大統領警護室の権勢が削がれ，軍部の更なる肥大・暴走を招いた。

朴の歿後に崔圭夏（^{チュ}ハ）國務総理（1919.7.16～2006.10.22）が大統領職務代行を経て，大統領を務めた（79.12.6・8 選出・就任，80.8.16 辞任）。彼の早期改憲の意向表明（11.10）と一部政治犯釈放・金大中軟禁解除の決定（12.8）で，翌年の民主化気運高揚の「漢城の春」の種が播かれたが，世界史上最長級の政変（肅軍政変，12.12～80.5.17）に妨害され芽が早々に摘まれた。

朴暗殺事件合同捜査本部長 全斗煥（^{チョンドゥフアン}国軍保安司令官，少將，1931.3.6～2021.11.23）が12月12日，一心会（^{ハナ}陸軍士官学校〔46.5.1 設立〕卒・主に嶺南〔朝鮮半島の東南部広域，現慶尚南・北道と大邱・釜山広域市〕出身の有力将校の秘密結社〔成立年未詳〕）成員の部隊を使い，鄭昇和（^{チョンスンファ}陸軍参謀総長・戒厳司令官，大將，29.2.27～02.6.12）の逮捕と国防部・陸軍本部の占領で，軍の全権掌握に至った。

鄭は金載圭から飲食を誘われて暗殺現場の近くに居ながら犯人を直ぐに捕えず，彼を目の上の瘤とする全が掛けた内乱幫助容疑で懲役10年に処された（1980.3.13，5日後7年に）。全は朴の軌跡をなぞる如く少将時代に政変を起し成功後お手盛りで中・大將に昇進したが，

軍内派閥組織の私設・暗躍に対する朴の黙認は権力闘争の軋轢と下剋上の反乱を助長した。

戒厳司令官の逮捕に要る大統領の許可は崔代行から拒まれ、崔が必須とした国防部長官盧載鉉^{ヒョン}（大将、1926.8.8～2019.9.25）の認可は、本人が決起軍に屈しなくとも簡単に出した。政権交代を伴わない兵権奪取は軍事独裁の伝統に照らせば、新軍部の成立は政変の所産と言える。超法規的な戒厳司令官逮捕の時点から、法治を否定する反民主の集権志向が窺えた。

元參謀総長（1972年就任、韓国初の非日本軍出身）の国防長官盧と現総長鄭の失脚は、毛沢東時代の国防相・総參謀長聶清と共に2職の危険性を示した。林彪事変時40歳に成った張泰琬^{ワン}（首都警備司令官、少将、1931.9.13～2010.7.26）も、「文革」中の北京衛戍区司令と同じ受難の宿命を負い、鄭柄宙^{ビョンジュ}（特殊戦司令官、少将、26.8.30～89.3.4）と共に拘束・予備役編入と成った。

文民出身の崔大統領が取った公民復権措置（1980.2.28）で反体制派活動が活発に成り、朝鮮大学校（46.11.23創設、全羅南道光州市）での示威（3.27）を始め学生・労働運動が広がった。与野党合意（5.12）の臨時国会召集・戒厳令解除決議採択（同20）・民主化推進共闘の動きに、全（4.14より中央情報部長代行を兼務）等の軍部要人は17日に戒厳令全国拡大で抑圧を図った。

軍は19年前の「5.16」政変と通ずる「～5.17」政変は政治活動・労働運動を禁止し、金大中や学生・労働運動の指導者を戒厳令違反で逮捕し、前政権要人排除の為に金鐘泌^{ジョンピル}（元総理、1926.1.7～2018.6.23）・李厚洛・朴鐘圭（元大統領警護室長、30.5.28～85.12.3）等を不正蓄財で逮捕し、実力行使で再び憲法無視・国会解散（代りに国家保衛非常機構設置）の暗黒を齎した。

直後の光州事件（5.18～27、学生・市民の戒厳令抗議の蜂起と戒厳軍の武力鎮圧）は死者を100名余り出し、濟州島4.3事件（1948.4.3～49.6、警察の島民殺害 [3.1] に抗議する蜂起と当局の弾圧、死者1万人超）・保導連盟事件（朝鮮戦争勃発直後、共産主義からの転向者・家族から成る国民保導連盟 [49.6.5設置] 成員や政治犯の数千～数万人に対する殺害）に次ぐ軍の自国民大量虐殺の惨劇である。

崔大統領は建国32周年の翌日に辞任し、15日後（9.1）に全が統一主体国民會議代議員会で第11代に選出された。改憲案が賛否を問う国民投票（10.22）で9割超の支持を得た後、27日（18年前の10月維新の改憲議決の日）に新憲法が公布・発効した。終りを告げた第4共和国体制に代って、全の第12代大統領当選・就任（1981.2.25、3.3）で「5共」体制は発足した。

「12.12政変」の主力盧泰愚^ウ（第9師団長、少将、1932.12.4～2021.10.26）は退役（81）後、体育（初代）/内務部長官・漢城五輪組織委員長を務めた。1987年に民主正義党（81.1.15結成、初代総裁=全）代表最高委員として、「6.29民主化宣言」（『国民の大団結と偉大な国家への前進の為の特別宣言』）を発表し、16年振りの民主的選挙（12.16）で最後の軍人出身の大統領と成った。

民正党成立6周年の前日、朴鐘哲^{チョル ソウル}（漢城大学 [1924.5.2前身創立、46.10.15設置] の学生運動家、65.4.1～87.1.14）が警察の拷問で歿し、翌日の『中央日報』（65.9.22創刊）特種^{スケープ}で非難が殺到した。関係者処罰の後も続く真相追及の示威（6.9）で、李韓烈^{ハニョル}（延世大学校 [同1885.4.10、1957.1.5] 同、66.8.29～87.7.5）が戦闘警察の催涙弾の破片で負傷し、6月民主抗争（10～29）を触発した。

大統領選（間接 [選挙人団] 選挙制）候補を決める民正党全党大会（6.10）にぶつける形で、民主憲法爭取国民運動本部（5.27 成立）主導の下、拷問虐殺及び隠蔽・催涙弾乱射に抗議し、「4.13 擁護措置」（大統領直接選挙にする改憲の議論の年内中止）の撤廃を求める示威が各地で行われ、本部提唱の「催涙弾追放の日」（18）から国民平和大進行（26）等で衝突が激化した。

時局收拾の為の「6.29 宣言」（要点＝①大統領直接選挙制改憲と1988年の平和的政権譲渡、②公正選挙の実施、③金大中の赦免・復権と時局関連事犯の釈放、④基本的人権の強化、⑤言論制度の改善、⑥地方自治・教育自由化の実施、⑦政党活動の保障、⑧相互信頼の共同体形成）は、盧党首が全大統領に申し入れた翌日（7.1）受け入れられ、中共建党66周年記念日に韓国の民主化が軌道に乗った。

拷問致死事件「7.4」1審宣告公判（漢城地裁）で厳罰が示され（4人に懲役15・8・7・5年）、翌日の李韓烈死亡を受けて「7.9」民主国民葬が営まれ全国160万人が行進等で参加した。同日に金大中（民主化推進協議会 [1984.5.18 発足] 共同議長）等政治犯の赦免・復権が決り、10月に第6共和国憲法は成立した（12・27・29に改憲案国会通過→国民投票9割超に由る確定→公布）。

盧は漢城五輪の成功を目指す挙国の総意の後押しで進歩的な「87 維新」（造語）を実現し、大統領在任中（1988.2.25～93.2.24）前政権の不正への追及、北朝鮮との同時国連加盟（91.9.17）、南北基本合意書締結（同12.13）、ソ・中との国交樹立（90.9.30、92.8.24）等の貢献もしたが、東京五輪の「魔呪」が投影した日本首相の不運とは異次元の悲劇が退任後に降り掛った。

4.26～27 凶行、2.25 「凶呪」、8.26 断罪、12.19 大（統領）選、4.28（一家引責）心中

盧の政界立脚の礎を成した警察首脳（内務長官）就任は、泥酔の警察官に由る大量殺傷事件（1982.4.26～27、57 [又は56・59・62] 人死亡・35人負傷）直後の徐廷和（33.3.4 生）辞任に由る。犯人の禹範坤は海兵隊兵長を除隊後に警察と成り、青瓦台（大統領府）の101警備団に在籍（1981.4.11～12.30）中の暴力沙汰で懲戒を受け、左遷先の地方で自暴自棄に陥って了った。

禹の出生（1955.2.25）33周年の日に盧は大統領に就任し、次の金泳三（93.2.25～88.2.24 在任、27.12.20～2015.11.22）・金大中・盧武鉉（同03.2.25～08.2.24、46.9.1～09.5.23）・李明博（41.12.19 生）・朴槿恵（13.2.25～17.3.10、52.2.2 生）も、李承晩・尹潽善・朴正熙・崔圭夏・全斗煥の就任日（7.20、8.13、12.7、12.8、9.1 [再任日略]）と違って、6代に亘って「2.25」で定例化した。

最初の盧は退任後に収賄容疑で逮捕され（1995.11.16）、肅軍政変・光州事件と併せて裁く1審で懲役22年6ヵ月（96.8.26）に処され、控訴審（12.16 [当選9周年]）で17年・追徴金2629億^㉜（約374億円）納付と成り、大法院（最高裁）上告審判決は在任中の民主化推進の貢献を考慮して支持した（97.4.17）が、特赦（12.22）でも有罪の汚点と投獄の恥辱は消し得ない。

彼は第2次東京五輪閉会（8.8）の翌々月に漢城五輪開催年の下2桁と同じ齢（88）で病歿し、小室圭・眞子の結婚と重なる当日（10.26）は伊藤博文・朴正熙暗殺の112・42周年に当

る。政府は翌日（10月維新の改憲議決と「5共」憲法公布・発効の60・42周年）に最高の厚遇を決め、史上4人目の国家葬が30日にソウルの五輪公園（1988年建造）の平和の広場で営まれた。

後任の金泳三は歿4日後（2015.11.26）に国会議事堂前広場で3人目の国葬に処されたが、彼の受難は在野時代に暴漢の硝酸襲撃（1969.6.20）、国会議員除名（79.10.4）や軟禁の他に、在任中の次男賢哲（59.3.8生）の斡旋収賄に由る逮捕（97.5.17）・有罪判決（懲役3年、10.13）、退任後も遺った経済失政への大衆の怒り（99.6.3に老人が潘瀝青入りの卵で顔面を直撃）が有る。

彼は統一民主党（1987.5.1成立）総裁として初の民主的大統領選で4者競合に加わったが、平和民主党（同11.12）総裁金大中・新民主共和党（同10.30）総裁金鐘泌と共倒れた（得票28, 27, 8.1%）。盧泰愚の首位（36.6%）を許した野党分裂の教訓から、次期選挙では盧・金鐘泌と3党統合の民主自由党を結成し（1990.2.9）、代表最高委員金泳三の当選に成功した。

金大統領は軍事政権に代る文民政権を建て、国軍改造と政界浄化を進め、清廉・質素の形象を保ったが、金家と親しく次男が関与した韓宝集團（財閥14位）傘下の韓宝鋼鉄（1975年発足）の経営破綻（97.1.23）が、金融危機を惹起し国際通貨基金（45.12.27創設）の資金援助を請う（12.3覚書調印）破目と成り、不肖の「小統領」に累を及ぼされ在職を後悔して再選を諦めた。

同じ民主派の金大中は1992年大統領選（12.18）で一歩前進し（金泳三の42%に次ぐ33.8%）、鄭周永（統一国民党を創設した〔同2.2〕実業家、15.11.25～2001.3.21）の16.3%に大差を付けた。一時の政界引退（1992.12.19表明）を経て新政治国民会議（95.9.5結成）初代総裁として復帰し、97年大統領選（12.18）で40.3%を取り「（2回落選の）準備された大統領」の就任を实らせた。

大国家党（新韓国党〔1995.12.5民主自由党より改称〕の後継与党、97.12.11結成）から出馬した李会昌（35.6.2生）は、息子2人の兵役逃れの醜聞で人気急落し僅差の敗北（38.7%）と成った。与党候補者予備選で敗れた李仁済（1948.12.11生）は国民新党を創り推挙を得た（11.4）が、得票18.7%の落選は10年前の野党不共闘と反転した与党陣営分裂の不利益を思わせる。

1992・97年大統領選の日は中共11期3中全会（78）の開幕（改革・開放の起点）と重なり、2回目史上初の選挙に由る野党間の平和的権力譲渡の道が開いた結果は画期的である。金大中は1954・59・60年国会議員選挙で落選後、61年に補欠当選したが軍事政変で無効と為り、当局の暗殺・拉致・投獄・軟禁の対象にされ、大統領選で苦節26年を強いられた。

同年の亜細亜金融危機は泰の通貨に対する欧米の投機筋の空売りに始まり、猛攻（5.14・15）の2日目に65歳と成ったチャワリット首相（大将）は、死守の末6月30日に通貨切り下げをしないと表明した。韓国「6.29民主化宣言」10周年と香港の中国返還の間の日の防戦勝利宣言は、相手の攻勢再開を招き米弗と連動する固定相場制の終結（7.2）を迎えた。

金大中は在任中に打撃を受けた後の韓国の経済の再建で情報産業先進国の地位を築き、「太陽（対北宥和）政策」で初の南北首脳会談（2000.6.13～15〔共同宣言発表〕、平壤）を実現した。彼は韓国人唯一のノーベル平和賞受賞（2000.10.13、韓国・東亜の民主主義・人権、特に北朝鮮と

の平和・和解の為の努力に由る）、史上 2 人目の国葬（09.8.23、国会議事堂前広場）の名誉に輝いた。

彼は軟禁・投獄を約 10 年経験し死刑判決も受けた（1980.9.17。鈴木善幸首相の憂慮表明 [11.21] を含む国際社会の批判に迫られて、82.1.23 閣議決定で無期懲役に減刑、12.23 渡米を条件に執行停止）が、任期末の 2002 年に 3 人の息子が斡旋収賄で拘束された（長男弘一 [48.1.21~19.4.20] は最高裁で懲役 2 年・執行猶予 3 年判決 [06.9.28]）事の衝撃・悲哀は、自身の極刑宣告の時の比ではない。

大統領直接選は初回の「12.16」と 2 回の「12.18」を経て「12.19」で 3 回続き、最初の 2002 年には再挑戦の李会昌は息子の兵役不正が蒸し返され僅差で逆転負けし、新千年民主党（新政治国民会議より改編、00.1.21 結成）の候補一本化で李仁済・鄭夢準（元現代重工業 [1972.3.23 創立] 社長・会長、51.10.7 生）を退けた盧武鉉が、48.9 対 46.6% で事実上の一騎打ちを制した。

盧は人権派弁護士として 1987 年 6 月抗争を主導し逮捕・拘留された事も有り、88 年の国会議員当選後 4 回も国会議員・釜山市長選挙で落ちた後、初の日本統治時代未経験世代の大統領と成ったが、党争（新千年党分裂・下野、開かれた我が党 [2003.11.11 結成] 執政）で弾劾訴追を受けた（04.3.9 大国家党・新千年党より発議、同 12 可決、5.14 憲法裁判所の棄却まで職務停止）。

退任後に側近・親族の逮捕・投獄が相継ぎ（2009.8.25、元大統領府総務秘書官鄭相文 [64 歳] が横領・収賄罪で懲役 6 年判決。10.1.14、異名「慶南大統領」の兄建平 [1942.1.30 生] が斡旋収賄で同 2 年 6 ヶ月）、自身も最高検察庁から包括収賄罪の容疑で事情聴取を受けた（09.4.30）。彼は苦悩の末 23 日後に故郷の私邸の裏山から飛び降り、初の大統領経験者自殺は内外を震撼させた。

2007 年大統領選で当日 66 歳と成った李明博（大国家党）が大勝し（1・2 位は 48.7 対 26.1%）、太平洋戦争勃発の直後に大阪で生れた彼は歴代の中の初の在日韓国・朝鮮人出身である。鄭東泳（元統一部長官、1953.7.27 生）は与党（大統領民主新党、2007.8.5 成立）の利を生かせず、3 位（15.1%）で 3 連敗した李会昌（無所属）と共に、次代から勝算が無いと見て出馬を止めた。

李は学生時代に 1964 年「6.3 事態」（大規模の日韓基本条約反対示威）の推進者として逮捕され、国家内乱煽動の罪を問われ最高裁で懲役 3 年・執行猶予 5 年の判決を受けた（3 ヶ月服役）。首都市長在任中（2002~06）の環境保護・景観美化も民主化闘士の経歴に錦を添えるが、世界金融危機（07~10）と連動する韓国通貨危機（08~09）等で薄氷の政権運営が続いた。

兄相得（実業家・政治家、1935.11.29 生）の逮捕（2012.7.11、斡旋収賄容疑。翌年 1.21 に懲役 2 年判決）で謝罪した彼は、退任後に横領・収賄等の容疑で中央検察庁に逮捕・起訴され（18.3.23、4.9）、有罪判決を受けた（同 10.5、首爾中央地方法院より懲役 15 年・罰金 130 億^{ソウル}・追徴金 82 億^{ソウル}）→ 20.2.19、控訴審で首爾高等法院より同 17 年・130 億→ 同 10.29、上告審で大法院より同 + 追徴 57.8 億）。

大統領候補党内予備選挙（2007.8.27）で李に惜敗した（48.06 対 49.56%）朴瑾恵は 5 年後、新世党（12.2.13、大国家党より改称）の党首（非常対策委員長）として党内予選で圧勝し（83.9%）、大統領選で野党統一候補の文在寅（革新系の民主統合党 [11.12.5 結成] 所属、1953.1.24 生）を小差（51.6 対 48%）で振り切って、初の女性大統領・父（正熙）子 2 代大統領の誕生と成った。

彼女は就任演説で経済復興・国民幸福・文化隆盛を鍵詞に、父の偉業に肖る「第2の漢江の奇跡」への意欲を示したが、出自と統治手法に纏わる専横の形象は亡霊の彷徨を感じさせた。朴正熙暗殺37周年(2016.10.26)の直前に発覚した「朴瑾恵政府に由る崔順実等の民間人の国政壟断疑惑事件」で、彼女は大統領弾劾に由る罷免・失職と逮捕・投獄に遭った。

旧友の崔(実業家, 1956.6.23生)に機密文書を渡し指南を受けた事が暴かれ、朴は翌日(25)に謝罪し側近等18人辞任(28~29)と首相更迭(11.2)で乗り切ろうとした。検察当局に由る崔等容疑者の逮捕(10.31, 11.6・8・11・21), 大規模抗議示威(10.29, 11.5・12・19・26), 歴代大統領の支持率の最低記録(4%, 同25)で、風前の灯^{ともしび}が消える時は刻々と迫って来た。

1987年民主化の際に導入した大統領弾劾制度は幸か不幸か適用の第1号が現れ、12月3日の野党3党弾劾追訴案の国会提出と退陣要求示威(100万人超)を経て、国会の可決で職務が停止された(同9)。翌2017年の罷免・失職(憲法裁判所3.10判決)後に逮捕され(同31), 盧泰愚・全斗煥(1995.12.3, 肅軍政変・光州事件等に由る)に続く元大統領の逮捕者と成った。

全は利権介入と親族逮捕で私財の国庫への上納と隠遁を表明した(1988.11.23)が、盧の15日後に軍刑法の反乱首謀容疑で逮捕され、政治資金絡みの収賄罪も問う合同1審と控訴/上告審で死刑→無期懲役・追徴金2205億^ㄹで裁かれた。盧と同日の特赦後も光州地裁で懲役8ヶ月・執行猶予2年に処され(2020.11.30), 元大統領の初の国葬不実施の不名誉を蒙った。

軍部の妨害で在任が最短(152日)の崔圭夏は電撃下野後、第1~11代(~朴瑾恵, 計68年)中の本人・親族とも難を逃れた例外に成る。大統領経験者の亡命・暗殺・自殺各1人, 実刑罰4人(第1号が尹潽善[国民党(1971.1.6創設)初代総裁就任の5年後, 「3.1宣言」連名の故に懲役5年に処され, 2013.7.4再審判決で無罪]), 弾劾に由る停職2人は、政争の熾烈や追及・報復の執拗を物語る。

朴は有罪判決(2018.4.6, 崔事件1審で首爾中央地裁より懲役24年・罰金180億^ㄹ→8.24, 控訴審で同高裁より25年・200億→11.21, 公職選挙法違反事件控訴審, 1審判決[7.20]と同じ2年→20.7.10, 崔事件差し戻し[19.8.29最高裁破棄]審で20年・180億→21.1.14, 最高裁支持・確定)で、合計懲役22年の囚人に成り下がったが、21年末の特別赦免・減刑・復権措置の対象として釈放された。

民主化時代の大統領は5人が重任禁止の1期を全うした後、変調の途中離職が現れた。次期選挙は失職から60日以内と憲法で定められ、変則の「5.9」は慣例(12.19)を破った。恒例の任期(大統領選の翌年の2.25~5年後の2.24)も大幅に変わった(当選翌日の5.10に就任)が、韓国史上最凶/狂の単独無差別殺戮を犯した禹範坤の誕生日(2.25)の祟りも解き除かれた。

政府が2017年大統領選の日程を決定した「3.15」は1960年の大統領選の日で、与党自由党(51.12.17結成)選定(59.6.29)の正・副大統領候補の李承晩・李起鵬^{ギボン}(元国防相, 1896.12.20~60.4.28)は、官憲・暴漢を動員した露骨な不正工作の結果3日後に当選が発表された(100・79.2%)が、大衆の義憤爆発の4月革命を惹起し「4.26」退陣で李の長期政権が崩壊した。

投票は中国の秦城監獄落成と同じ日に行われ、辞任は41年後の森喜朗政権の末日に当たる。

岸信介の首相就任（1957.2.25）は31年後から6代大統領の就任日と重なり、辞任の60年「7.19」は5年後に李承晩の命日と成った。禹の犯行・自爆（4.26～27）の日は22年前の李起鵬一家心中（同28）と隣り合い、李の避難先の景武台（現青瓦台）は禹の元勤務先である。

李は光復の年（1945）に李承晩の秘書として政界入りし、建国の年（48）に大統領秘書室長と成り、翌年に漢城特別市長（3代目）に就任した。漢城は李明博市長の代（第32、2002.7.1～06.6.30）で首爾に改称され（05.1.19）、脱「漢」（中国）ながら「首都」の漢字を含む表記は首位を示す。彼と尹潽善（2代目）の大統領就任の様に、首都の首長には自ずと大物が多い。

第8代（1957.12.14～59.6.11）の許政は交通/社会部・無任所長官経験者で、外交部長官就任（60.4.25）後に李承晩に退陣を勧め、正・副大統領の実質的な空席の中の内閣首班・大統領代理（4.27～6.15/8.12）、第3次改憲（第2共和国憲法）で復活した国務総理（6人目、6.15～8.18）を務めた後、63年大統領選で民間政治家の候補一本化で出馬を取り止め尹に譲った。

第22・31代（1988.12.5～90.12.26、98.7.1～2002.6.30）の高建（38.1.2生）も、国務総理と成り（第30・35代、97.3.5～98.3.3、03.2.27～04.5.24）、盧武鉉大統領の弾劾追訴期間中に職権を代行した（04.3.12～5.14）。2007年大統領選立候補への期待に反して政界引退を宣言した（1.14）が、首都市長から元首や政府首脳に昇る大出世は東亞諸国に於いて韓国独特の現象である。

『好了歌』、「酒色財氣」、10.17改憲 / 非常戒嚴令、1.30・31迫害心中

国民防衛軍（1950.12.21設置法公布・発足、51.4.30国会決議に由り5.12解体）事件（司令部の幹部等の軍事物資・兵糧米横領で兵員9万人超が餓死）で、李初榮副大統領（48.7.24～51.5.9在任、1868.12.3～53.4.19）が辞任し、申性模国防部長官（同49.3.20～51.5.5、91.10.20～60.5.29）が解任され、第3代国防相（5.7～52.3.29）に任ぜられた李起鵬は李承晩の後継者に成る道を歩み始めた。

李承晩は1期目（国会議員に由る選出、1948.7.20～52.8.15）中の改憲（52.7.4）で3選可とし、次期（改憲に由る直接選挙で選出、52.8.15～56.8.15）中の第2次改憲（54.11.29）で制限を廃した。賛成が1票足らず否決される可き改正案を四捨五入の理屈を捏ねて可決させた展開は、79歳時の李の終身執政への執心と与党の強引が民衆の不興を買い4月革命の遠因を作った。

第3代大統領選（1956.5.15）で与党候補の李承晩・李起鵬（正・副）に対し、民主党（55.9.18結成）の申翼熙（代表最高委員、1894.6.9～56.5.5）・張勉が挑んだ。申の急逝（脳溢血）で現大統領の続投が順当に決った（55.7%対曹奉岩〔無所属、1894.9.25～1959.7.31〕23.9%）が、副大統領は張が僅差（4012654対3805502票）で当選し、与野共存の振れで独裁体制の片隅に穴が開いた。

李は第3期中の高齢（81～85）に伴う死亡や職務遂行不能の危険性を自覚し、副大統領への自動的な権力譲渡を防ぐ為に張の暗殺に踏み切った（就任44日後の9.28）。狙撃で軽傷を負わせた退役軍人と共犯者2名は死刑の確定後4年も執行せず、追加逮捕の元高官（大法院

1961.7.13 判決で無期・15年懲役各2・1名)と共に、国家再建最高会議の特赦で全員釈放された。

曹は第1共和国期の大統領選(1952.8.5)でも2位に終わった(1位の74.6%に次ぐ11.4%)が、前回の4人競合と違う一騎打ちで差を大きく縮めた。進歩党を結成し(1956.11.10)委員長を務める彼と革新勢力への警戒から、第4代民議院(下院)議員総選挙(58.5.2)の前に主要幹部が逮捕され(1.11)、北朝鮮の間諜と接触した等の容疑で政党登録が取り消された(2.25)。

1審判決(7.2)は曹に間諜幫助罪で懲役5年を宣告し国家転覆罪を認めず、同党の非合法化は与党政権の政敵排除の為の政治的陰謀だと喝破したが、2審・終審とも間諜罪で死刑に処し(10.25.59.7.30)、再審請求も却下され翌日に電撃的に執行された。遺族の再審請求(2008.2)は漸く承認され(10.10.29、大法院)、歿後51年も経って遂に無罪が認定された(12.1.20)。

李承晩は4選を狙う次代大統領選でも李起鵬と組み、民主党の趙炳玉(代表最高委員、元内務部長官、1894.5.21~1960.2.15)・張勉に勝つ為、先ず趙の渡米治療(1月末)に乗じて投票日を慣例の5月から「3.15」に定めた。民主党は不公平と異を唱えても変更できず、前回の大統領候補が投票の10日前に急逝した不運の再演で、趙は立候補登録の8日後に客死した。

李承晩の再任が実質的に決った状況で副大統領選が唯一の戦場に成り、現職の続投を阻止する為に形振り構わぬ妨害・欺瞞が行われ、李起鵬の対張圧勝(8337059対1843758票)が丁稚上げられた。当選発表(3.15)の8日後に85歳と成った李承晩は同年齢時の鄧小平の引退をせず、89歳まで元首の座に居続けようとした貪欲の所為で任期満期の儘に追われた。

「多行不義必自斃」(多く不義を行えば必ず自ずと斃れる。『春秋左氏伝隠公元年』の言)の通り、両李は竹筵返しを食い政治生命も命も失った。起鵬は謝罪心中を家族に承知させ、妻朴瑪利亞(梨花女子大学校[1886.3.31前身創立、1948.8.15設立]副総長、06.4.19生)・次男康旭(22)と共に、長男康石(承晩の養子、陸軍少尉、37.2.5生)に射殺され、康石の自決で妹を除く一家が滅びた。

41年後の「6.1」尼婆羅王族殺害事件でも、皇太子が両親・弟妹等を射殺し自決を図った(後日死亡)。国王夫妻がその結婚(相手は敵対家系の出身)の希望を認めず、王位継承権の剥奪に言及した故、彼は王族定例晩餐会を中座した後に泥酔状態で戻り発砲した、とされる。真相は猶不明で王弟に由る政変説も消えないが、李康石の肉親惨殺は政治的な失意に由る。

李承晩は妻(フランチェスカ、韓国名李富蘭、オーストリア、壘太利出身、1900.6.15~92.3.19)との間に子が無く、遠戚で腹心の起鵬の長男を養子にした。康石の養父・実父の絶大の権勢を笠に警察官を殴る等の不埒を働き、彼に成り澄まして道知事等に接待・金品提供を強請る詐欺も起き(犯人は22歳の姜聖柄)、同世紀中国の「太子」に見られない跋扈は民衆の政権への不満を強めた。

『紅樓夢』第1回『甄士隱夢幻識通靈 賈雨村風塵懷閨秀』(甄士隱夢幻に通靈を識り 賈雨村風塵に閨秀を懐う)に、「世人都曉神仙好，惟有功名忘不了！古今將相在何方？荒塚一堆草沒了。」(世人都曉る神仙の好しきを、惟功名の忘れたせざる有り。古今の將相何方に在りや、荒塚一堆の草に沒し了せり)で始まる『好了(の)歌』が有り、俗念の「好」は徒勞の「了」に終ると論ず。

次の3節は「世人都曉神仙好，惟有金銀／嬌妻／兒孫忘不了！」の後に、「終朝只恨聚無多，及到多時眼閉了」（終朝只恨あつむ聚まること多かる無きを，多き時に至るに及び眼まなこは閉じ了せり），「君生日日說恩情，君死又隨人去了」（君生きては日々恩情を説き，君死しては又人に随つい去ゆき了せり），「痴心父母古來多，孝順子孫誰見了」（痴心の父母は古來多きも，孝順の子孫は誰か見了せると続く。

功名に拘る徒勞は李承晩が好例で，不正選挙で統治延命を図った結末が追放・亡命である。朴正熙も自らの大統領3選を可能とする為、連続3期許容の改憲を強行し（1969.10.17 国民投票に由り確定），任期延長（4→6年）・重任制限撤廃の第7次改憲の為に非常戒厳令を布いた（72.10.17）が，達成（同11.21）の7年後に5期目中の暗殺で終身執政の夢が泡と化した。

金銀を逐う不正蓄財の貪欲で元も子も無い破滅に陥る政界要人は，古今・東西の例から漏れず韓・日・中の他に台湾でも首脳を含む（陳水扁 [1950.10.12 生（出生届は51.2.18）] が総統 [2000.5.20 より2期] 退任後に有罪判決を受けた [09.9.11 台北地方法院の1審では機密費横領・収賄・資金洗浄の罪で無期懲役，11.8.26 同高等法院の差戻審さしもどしでは懲役2年8ヶ月]），古人の諷刺の今日的な意義は不滅である。

「嬌（若く美しい）妻」が夫の死後に再婚する例は東亜の要人の妻の場合には尠すくない（ケネディ米大統領 [1961.1.20～63.11.22 在任，17.5.29～同] の未亡人ジャクリン [29.7.28～94.5.19] がオナシス [希臘の海運王，06.1.15～75.3.15] に嫁いだ [68.10.20] 事は，年齢や境遇に関らず中国の伝統から見れば違和感が強い）が，「恐妻」（恐ろしい妻。妻を恐れる）の所為で正しい道を逸れる事は少なからず有る。

陳水扁の在任中に妻呉淑珍（1952.7.11 生）が総統府機密費の私的流用で起訴され（2006.11.3），夫と一緒に1審判決の諸罪に由る無期懲役は，最後の差戻審で夫の機密費流用の逆転無罪に伴う刑期減少に対し，主導者の責任を問われ11年6ヶ月と成った。陳の清廉な形象は愛妻にぶち壊され自身も悪に染ったが，呉の危害は江青・葉群の1万分の1にも及ばない。

娘婿趙建銘（医師，1972.6.29 生）は内部者取引で裁かれ（2006.12.27 の1審判決懲役6年→21.10.14 最高法院5審判決3年8ヶ月確定），父玉柱（元小学校長，48.2.20 生）も同罪で罰せられた（同8年7ヶ月→4年）。陳の長男致中（米国留学中，1979.1.22 生）も資金洗浄で起訴され，有罪と成った（09.9.11 の1審判決2年→22.7.15 の2審再判決1年，11.8.17 偽証罪3審判決3ヶ月確定）。

韓国の一連の要人醜聞も子女に累を及ぼされる事が多く，正・副大統領の養父・実父に寵愛された李康石の不埒は「好＝了」の真理を思わせる。「兒孫自有兒孫福，莫為兒孫當馬牛」（兒孫は自ずと兒孫の福が有り，兒孫の為に牛馬に成る莫れ）という中国古来の警句は，子孫の為に犠牲を惜しまぬ親馬鹿の多さの裏返しで，首脳級の大物の破滅の続出も驚くに値しない。

彼と尼婆羅王太子の親・兄弟殺害は最悪の犯行で，隋（581～618）・唐の律で定められた十惡（國家・社会の秩序を乱す大罪として特に重罰された謀反・謀大逆・謀叛・惡逆・不道・大不敬・不孝・不睦・不義・内乱）の内，4番目の惡逆（祖父母・父母・兄弟等の親族に対する殴打・謀殺）に入る。最後の内乱（親族や祖父・父の妾に対する姦淫）と共に，現代人の感覚でも鬼畜の業と言える。

金載圭の元首射殺と尼婆羅王太子の国王夫妻射殺は，第1の謀反（皇帝殺害・政權転覆の企

図)の性質も帯びるが、憤慨や酒乱の誘因は中国流の「酒色財氣」の害を思い起させる。「十惡不赦」(10種類の重罪は赦さない)と「五毒俱全」(5種類の悪習や悪行を俱に持ち併せる)を合成して、酒乱・色事(性的醜聞)・金錢欲(不正蓄財)・怒氣(意地)を「四惡/毒」と名付けよう。

酒乱に由る失言・失態や一氣飲みに由る急性酒精中毒、意識障害に由る非行・自殺衝動等、不適切な飲酒は致命的な失敗や致死の誘因であり得る。東亞諸国・地域の首脳経験者が酒で命を縮めた例として、退陣後の田中角榮が病み付きの鯨飲の末に脳梗塞けいさいに由る言行障害で政治活動力を失った事が有る。一方、在任中に酒が引金と成って失脚した例は皆無である。

より有害な色は平成初の新首相宇野宗祐の短命(史上4番目の69日)を齎し、就任の3日後に元愛人の芸者の告発が週刊誌に出た事で信用が失墜した。更に有害な金錢絡みの不正・汚職は東亞の要人には多く、薄熙來の妻が英国の実業家を殺したのも経済面の紛糾に由り、相手が後見人と成る英国留学中の息子を守る動機は又子孫の為に牛馬に甘んじる事である。

最も有害な「氣」は言わば「四毒俱全」の角榮が典型で、酒に溺れ愛人を抱え収賄罪を問われた彼の政治生命の終焉に直結した一撃は、竹下登が派中派を作った分裂活動への激怒である。怒氣・意地の「氣」は一般的に殺害や自害に繋がる事も有り、「文革」中の自殺にも短氣の憤死が可く見られるが、それでも李康石の様な親殺しの心中は聞いた事が無い。

中国では余程の怨恨や絶望が無い限り、肉親や配偶者を道連れにする無理心中は余り無く、「文革」中の翦伯贊夫婦等の様に協議自決(「協議離婚/縁」に擬えた造語)が一般的である。最も重い罰が当たる意で最凶の呪い文句にも成る「断子絶孫」(子孫が絶える)への忌避から、子孫繁栄の理想とは逆の跡継ぎまで抹殺する「滅門」(一門撲滅)自裁は国民性に合わない。

上海交響楽団の著名な女性洋琴奏者ピアニスト顧聖嬰(1937.7.2~67.1.31)は批判集会で面罵・殴打に遭い、当夜に母・弟と共に瓦斯で自殺した。父高地(元国民政府軍事委員会国際問題研究所京滬[南京・上海]区少将主任, 1908~80)は、潘漢年事件(55)の波及に由る無期懲役(58年判決)服役中で難を逃れ、3人以外の非同居家族が他にも居れば未だ「断後」(家系断絶)とは言えない。

稀有の例として郭興福(南京軍区高級歩兵学校教員, 1930~85.8.27)一家無理心中(67.1.30)が有り、彼は第12軍(軍長=李徳生)の中隊長(中尉)時代の訓練教学法が军委推奨(64.1.3)と成った後、推進者の羅瑞卿の失脚で迫害を受け、妻李淑珍(28歳)の合意を得て息子鋼鋼・小久(同6・2)と娘煉煉(4)を殺し、妻の跳び降り後に感電と包丁の滅多斬りで自害した。

羅前総参謀長の前年「3.18」投身自殺と同様に、2人とも未遂に終わった。許世友(南京軍区司令)の加護で造反派の共に死刑・即執行に処す要請(2.5)が却下され、軍区政治部の判決案(11.12)に基づいて、李は懲役2年・執行猶予2年付きに処され(1969.11.26)6日後に釈放され、郭は死刑・同と成り(70.5.28)、減刑(→15年, 72.5)を経て出獄した(77.5.19)。

名誉回復を求める訴えを審議する軍区党委常委会(1979.2.4)で、廖漢生政委(土家族, 11.11.14~2006.10.5)・聶鳳智司令(同じ中將, 13.9.7~92.4.3)は支持し、昔の労苦大衆の已むを得ぬ集

団自殺と同じく被害の側面が大きいと強調した。殺人罪の判決の不当を認める名誉回復の改正決定（2.22）の翌月に、南京軍区歩兵学校戦術研究室副主任（連隊長待遇）に昇進した。

谷開来殺人の恰度100年前に生れ「4人組」逮捕30周年の前日に歿した廖は、賀龍の同郷（湖南桑植県）・部下である故に5年半も監禁された。迫害・自裁体験で同病隣れむ羅の尽力が郭の冤罪主張の承認に最も寄与し、彼が退役の翌々年の輪禍（安全運転100万^キ超の運転手の時速10^キ徐行の貨物自動車に引っ掛けて転倒）で即死後、衣囊から^{ポケット}恩人の羅の写真が出た。

「新中国成立後、国防・軍隊の建設の為に重大な貢献をし、重要な影響を持つ先進的模範人物100傑」（主催者・選定経緯未詳、2009.7）に、子供への迫害を危惧する余り思い詰めて一家皆殺しに走った悲劇的な英雄も入る。鼠が獲れる猫は黑白を問わず好いと言う実力・実績主義に適う榮譽であるが、不問に付された汚点は「文革」の暗愚・陰惨の現れに他ならない。

彼は軍事法廷再審判決の意見聴取に対して3ヵ所の文言変更を要求し（「郭興福は3人の実子を殺害した故」→「林彪・“4人組”の迫害に由り、3人の実子が死に至らせられた」、「主に林彪・“4人組”の彼等に対する迫害が齎したのである」/「当初殺人罪と判定したのは不当である」の下線部分→「完全」/「誤り」）、原案の儘なら開催日が決定済みの名誉回復大会に参加しないと強気に出た。

軍区政治部は一旦拒否したものの予定開催の為に譲歩し、数回の討議を経て数日後に決定版を発出した（1・2点目の部分は「郭興福及び其の妻李淑珍の一家の1967年1月に遭遇した事は、完全に林彪・“4人組”の残酷な迫害が齎したのであり、実質的には逼られた一家全員自殺の性質に属する」に直し、3点目も日付も元の儘）が、政治的な判断で実子の殺害乃至死亡の事実が抹消された。

郭夫妻の実子殺害・自裁と顧聖嬰・母・弟の自殺は日が続く、顧の父の建国前の勤務範囲の両市で起きた。前者の「1.30」には山西の衛恒が省委第1書記自殺の2人目と成り、「文革」被害に由る要人・著名人を含む自殺の大量・密集が窺える。中国では自殺を敗北と捉える考えが根強い為、胡耀邦の指示で名誉回復の際に死因は迫害死として糊塗する事が多い。

同じ20世紀世界の最悪級の時代に算え得るナチス独逸の一家無理心中の有名な例は、ゲッベルス（国民啓蒙・宣伝相、1897.10.29～1945.5.1）が妻マクダ（01.1.11～同）と共に、世紀的な犯罪の立役者の父親の烙印が付いて回らないよう、6人全員（長女32.9.1生、次女34.4.13、長男35.10.2、三女37.2.19、四女38.5.5、五女40.10.29）を毒殺し、又自害し血筋を絶った事である。

彼はヒトラー自殺の際の指名で首相と成ったが、後任を全うせず直ぐ後を追った。ヒトラーは13年来の愛人エバ（1912.2.6生）と結婚し、翌日（4.30）其々拳銃と毒薬で自決した。エバは主君の女性関係で2回自殺を試み（1932.1.11、35.5.28）、ヒトラーの姪（異母妹の娘）ゲリ（本名アンゲラ、08.6.4～31.9.18）も感情の^{もつ}纏れで自害したから、歴史の罪人は情婦にも罪深い。

独裁者の心に影を落したゲリの自殺は満州事変と同日で、彼と新妻の自殺の四半世紀後の「4.30」に東埔寨内戦が国際抗争に発展した。政変（1970.3.18）で北京訪問中の国家元首シハヌーク（41.4.25～55.3.2国王を経て60.4.3就任）を廃したロン・ノル（首相兼国防相→元首、

中将→元帥, 13.11.13~85.11.17) を支援する為に, 米国と南越が出兵し反共勢力圏を広げた。

越南共和国 (1955.10.26~75.4.30) は^{ゴティンジェム}呉廷琰 (初代大統領, 01.1.3~63.11.2) 殺害の政変の後に, 中・ソ支援の南越南民族解放戦線 (60.12.24 結成)・越南民主共和国 (45.9.2 成立) に敗れた。米国介入の冷戦後最大の戦争は首都西貢^{サイゴン}の陥落 (勝者側の称 = 「解放」) で終わったが, 30 年前の独逸国防軍 (1935.3.16 設立) 無条件降伏文書調印 (5.7) 前の元首自殺と同じ日である。

ヒトラーは初婚の翌日に自殺し, 新首相のゲッベルスは翌日に一家で無理心中した。子供殺しの深層に考え得る転生願望は実り様が無く, 寧ろ「4.30 → 5.1」の生死連環が意義を持つ。次の「5.2」は 66 年後, 「9.11」襲撃の黒幕ビン・ラーディン^{サウジアラビア} (沙特亜刺比亚出身のイスラム過激派恐怖分子, 1957.3.10 生) が潜伏先の^{パキスタン}巴基斯坦で米軍特殊部隊に殺される日と成った。

李康石に由る一家心中の「4.28」は, 15 年前のヒトラー結婚・自殺~ゲッベルス一家無理心中と隣り合う。李承晩の右腕李起鵬は絶大の権勢から邸宅が「西大門景武台」の異名が付くが, 景武台 (李氏朝鮮 [1392.8.5~1897.10.12] の創始者李成桂^グ [~98.10.14 在位, 35.10.27~1408.6.18] の意向で建造) は, 青瓦台に改名した (60.12.30) 尹潽善以降も歴代大統領の不運に付き纏う。

2 人目の大統領 (1960.8.12, 両院合同会議にて当選) の尹は「5.16 政変」の翌 62 年, 軍政制定の政治活動浄化法に抗議して辞任した (3.22)。民政党の候補者として結成 (1963.9.12) 直後の第 5 代大統領選 (10.5) に出馬し, 朴正熙に僅差で負けた (45.1 対 46.6%)。新民党 (1967.2.7 成立) から立候補した第 6 代大統領選 (67.5.3) では, 朴に大きく引き離された (40.9 対 51.4%)。

彼は「3.1」訴求 (独裁打破・朴退陣等) で有罪が確定した 3 年後, 再び民主化運動の為に刑罰を受けた (1980.1.25, 反政府集会に由る戒厳布告令違反で懲役 2 年と成り, 3 日後に刑執行免除と決定)。李承晩死去 (歿年 90) の 25 年後の前日 (1990.7.18) に他界した (同 92) が, 李の命日は 23 年後の^{ソウル}漢城五輪開会, 26 年後の韓・朝同時国連加盟, 71 年前の日清黄海海戦と重なる。

7.21 即殺, 3.12 自決, 3.13 不発, 3.21 逸機, 3.27 生→歿, 10.14 服毒, 6.6 大吉 / 不吉

続く「7.20」は年始から 201 日目 (閏年では 202 日目) に当り, 101・301 (同 102・302) 日目の「4.11・10.28」より 20 世紀に劇的な出来事が多い。ヒトラーに関しては執政後 42 回の暗殺計画の中 1944 年の当日の実施が最も成功に近く, シュタルフェンベルク (国内予備軍参謀長, 参謀大佐) が総統大本営「狼の砦」^{ホルフスシャンプフェ}の会議室に持ち込んだ爆弾が至近距離で炸裂した。

英・米・仏連合軍のノルマンディー (仏蘭西西北部, 英吉利海峡に臨む地方) 上陸作戦 (6.6 完遂), ソ連軍の東部戦線大反攻 (白露西亜より, 6.22 [独ソ戦争勃発 3 周年] ~8.19) の挟撃を受けて, 独逸の劣勢に苛立つ反ヒトラー集団「黒い楽団」^{オーケストラ} (秘密国家警察^{イギリス} [1933.4.26 創設] の事後命名) が, 軍内外で形成 (38) 後に繰り返した暗殺・政変の企みを加速させ乾坤一擲の勝負に出た。

一連の決行は「好事多磨」(好事魔多し) の通り何度も踏み切れずに逸機し, 先ず軍服発表

会の前日（7.6）準備の為に集まるヒトラーの別荘で、件の刺客が初めて爆弾を持ち込めたが、シュテューブ（参謀本部編成部長、少将 [国防軍史上最年少・身長最低の将軍]）が囑望の決行を拒んだ。ノルマンディー上陸時に43歳と成った彼は結局、協力がばれて8月8日に処刑された。

白羽が立ったシュタルフェンベルク（1907.11.15～44.7.21）は伯爵であるが故に尊敬され、戦傷（43.4.7、左目摘出、右腕と左手の指2本切断）も身体検査免除の要因と成った。彼は14・15日の会議でも機会があったのに、ヒムラー（警察長官・内務相、1900.10.7～45.5.23）の欠席に由り見送られ、両者の一挙爆死を狙う上層部の欲張りは二兎を逐って一兎も得なかった。

20日の彼は凶器を鞆に忍ばせ起爆装置を起動させた上に机の下に置き、頃合を見て電話を掛ける口実で退室し一撃必殺の結果を待ったが、ブランド（陸軍総司令部作戦課主任参謀、大佐 [歿後少将]、1907.3.11～44.7.21）が邪魔に思い鞆を机の脚の裏に押し込んだ為、用意した2個中1個しか持ち込み得なかった爆弾の炸裂で、数人を殺傷しながら標的は軽傷で済んだ。

ブランドは伯林五輪の障碍飛越競技金牌獲得（騎兵学校特別部所属の中尉時代）で殊勲を立て、今度は元首の命を救った結果が歴史に遺り、左足を失い命も落した後に特進を受けた。偶然の挙動で助かったヒトラーの生き残りは大悪人ほど悪運が強いという法則に想到させ、抵抗勢力の「斬首行動」標的のヒムラーも引き続き不在の為に主より僅かながら長生きした。

ヒトラーは直ぐ国内予備軍司令官を更迭し新任にヒムラーを充てたが、解任を知らないフロム（上級大将、1888.10.8～1945.3.12）は独断で簡易軍法裁判を行い、シュタルフェンベルク等4人の死刑を即決し深夜0時過ぎに銃殺した。叛逆者への容認を隠す為の口封じとも疑われる措置はヒトラーを怒らせ、軍籍剥奪（9.14）を経て人民法廷で極刑判決が下された。

彼は「7.21」処刑のオルブリヒト（予備軍兵局長、歩兵大将）の4日後、ヘフテン（実行犯の副官、中尉、1908.10.9生）の20年と1日前に生れ、クイルンハイム（オルブリヒトの幕僚長、予備軍中佐）の生誕（05.3.25）40周年の13日前に後追いした。ベック（元陸軍参謀総長、退役上級大将、1889.6.29生）は、彼の黙認に由り拳銃で自決した（失敗で重傷、兵士の止めの一発で歿）。

反体制派のトレスコー（中央集団軍参謀長、少将、1901.1.10生）は43年3月13日に、シュラーレンブルフ（副官、中尉、07.7.1～80.9.3）に爆弾をヒトラーの搭乗機に仕掛けさせたが、露西亜の極寒と雷管の欠陥の所為で不発に終わった。「7.20」行動には多忙の為に参加しなかったものの、裁判の屈辱と拷問の受難を避ける当く翌日に前線に赴いて手榴弾で自決した。

彼が画策した「閃光行動」の8日後の続行はゲルスドルフ（情報担当参謀、大佐）に託され、クイルンハイムの2日後に生れたこの貴族（男爵）将校（最終階級=少将）は決死の覚悟で、ヒトラーが伯林兵器保存館で戦利品（ソ連軍の武器）展示会を視察する際の解説役を利用して、外套の洋囊コート ポケットに隠し持つ時限爆弾に由る自爆襲撃でナチス党・軍首脳陣の一網打尽を図った。

ゲーリング（空軍総司令部・国防閣僚会議議長・航空/森林/狩猟相、帝国元帥、1893.1.12～1946.10.15）・ヒムラー・カイテル（国防軍最高司令部総長、元帥、82.9.22～46.10.16）・デーニッツ（海軍総

司令官、海軍元帥、91.9.16～80.12.24）・ボック（前南方軍集団司令官、元帥、80.1.23～45.5.4）・ミルヒ（航空機総監、空軍元帥、92.3.30～72.1.15）等、一石数鳥の恰好の獲物^{えもの}が都合よく一堂に集まった。

ヒトラーが丁寧に見回るのなら刺客には案内の出番が有ったが、律儀に動く類型^{タイプ}でもない総統は立ち止らずに会場を通り抜け、彼は用足しを装って10分の起爆設定を解除した。標的は越南戦争終結の30年前に自決する運命を負わされた様にこの日も死神^{しにがみ}に召されず、ナチス党の親衛隊（長官＝ヒムラー）の独立（1934.7.20）10周年の爆殺をも奇跡的に逃れた。

1943年の「3.21」はナチス治下の第1次大戦英雄記念日（34年制定、11年中10回が3.8～21、1回が2.21）で、同月の第2弾不発で暗殺者はシュタルフェンベルクと違って戦後に英雄化されなかった。「7.20」暗殺で爆弾・時限装置を保管した彼は仲間が口を割らぬ御蔭で生き延びたが、裏切りとの捉え方も有る故に独逸連邦軍（1955.11.12創設）へ復帰できなかった。

彼が斃せなかったグリーングはニュルンベルク裁判に由る死刑執行の前日に服毒自殺し、終戦時に対ソ降伏文書に調印したカイテルは他の9人と共に絞首刑に付され、回顧録で「7.20」に英雄として爆死すれば好かったと述懐した。ボックは乗車中に英軍機の機銃掃射（5.3）で妻・娘・運転手と共に死亡し、ヒムラーは英軍の捕虜と成った後に服毒自殺した。

ヒトラーが遺書で後継者のグリーングの代りに総統に指名したデーニッツは、逮捕（政府解散・ヒムラー自殺の5.23）・懲役10年（1946.10.1判決）と成った。ミルヒはニュルンベルク継続裁判（12の軍事裁判所、1946.12.9～49.4.13）の単独裁判（12件中2件目、47.1.2～4.14）で無期禁錮刑と成り、服役中の精神不安定に由り51年に恩赦で15年に減刑し、54年に出獄した。

ゲルスドルフの生誕75周年時の死去（1905.3.27～80.3.27）の他に有る奇妙な天数は、パボー（瑞西の神学生、16.1.15～41.3.14〔処刑〕）に由るヒトラー射殺未遂（38.11.9）と、エルザー（独逸の家具職人、03.1.4～45.4.9〔同〕）に由る時限爆弾暗殺未遂（39.11.8）の日付の隣接である。後者は恒例の民頭一揆^{ミンテン}記念大会に狙いを定め、前年の同日の下見を踏まえて準備・決行した。

ヒトラーは都合で演説を早く切り上げて退場し、13分後の爆発の被害（死・傷各7・63人）を免れた。取り調べを担当したネーベ（国家保安本部〔同年9.27発足〕第5局長、1894.11.13～1945.3.21）も、国家保安本部長官・国際刑事警察委員会総裁を歴任後（最終階級＝親衛隊/警察中将）、「7.20」暗殺に関する謀叛で逮捕され（45.1.16）、2年前に暗殺未遂が有った英雄記念日に処刑された。

共に政権転覆を画策したオスター（元防課部中央部長、少将、1887.8.9～1945.4.9）・カナリス（前国防軍情報部長、海軍大将、1887.1.1～同）・ボンヘッファー（牧師・基督教神学者、06.2.4～同）・ドホナーニ（法律家、ボンヘッファーの義兄、02.1.1〔カナリスの15年後〕～同）は、単独犯のエルザーと同じ不吉な節目の日（年始から99日目、日本語の語呂合せで「死苦」）に一括で始末された。

ヒトラー暗殺に加担したシュテュルプラーゲル（仏蘭西軍政長官、大将、1886.1.2～1944.8.30）は、「7.20」直後の拳銃自殺未遂（失明）を経て人民法廷の判決に由り絞首刑に処された。関与を疑われたクルーゲ（元帥、1882.10.30～1944.8.19）も西方軍司令官の更迭（8.17）後、伯林の召

還で帰る途中で名誉を守る当く服毒自殺し、8月から本格化した粛清の犠牲者に成った。

容疑者の処罰は国防軍最高司令部名誉法廷の軍籍剥奪で始まるが、議長レントシュテット（元帥、1875.12.12～1953.2.24 [建党23周年]）は講和進言（6.30）の所為で、ヒトラーから西方総軍司令官を罷免された（7.2）直後である。軍法会議を抜く変則的な手続を踏んで8月7日から、反逆・売国行為を裁く人民法廷（1934.4.24 法律成立、8.1 発足）に由る審理が行われた。

法廷長官フライスラー（1893.10.30 [クルーゲの11年後]～1945.2.3）は無法な特別裁判で、自称「司法の装甲突撃隊」の猛威を振るって約5千人の見せしめ処刑を決めた。自ら裁判長を兼ねる小法廷で2600件の同判決を宣言した死神は天誅に遭い、米軍の空襲で裁判所の瓦礫の下敷に成った彼の死亡確認は、因果応報の様に彼が極刑に処した犠牲者の兄に由る。

死体にその裁判資料集が抱えられたシュラードレンブルフは、穏健派の後任クローネ（1880.7.14～1945.4.26）の裁決で罪状が取り消され、5月に釈放された。法律家でもある彼はニュルンベルク裁判で米軍の戦略情報局（1942.6.13）の顧問を務め、独逸連邦共和国（49.5.23 成立）連邦憲法擁護庁初代長官の就任を辞退し、終戦35周年の翌日に天寿を全うした。

「7.20」暗殺の翌日から計画・帮助容疑者と親類縁者等700人近く連座逮捕され、拡大摘発の反ナチス分子拘束はその10倍に上る。ビッツレーベン（元西方軍司令官、元帥、1881.12.4 生）・ヘプナー（元第4装甲軍司令官、上級大将、86.10.14 生）・ハーゼ（伯林防衛司令官、中將、85.7.24 生）・シュティーフ等8人が、裁判の2日目（8.8）に予定の死刑宣告・絞首刑執行で歿した。

ヘルドルフ（伯林警察長官、突撃隊大将、伯爵、1896.10.14 [ヘプナーの10年後]～1944.8.15）・フェルギーベル（国防軍最高司令部・総統大本営通信部門責任者、通信兵大将、86.10.4～44.9.4）・ホーフアッカー（シュタウフェンベルク [従兄弟] の副官、空軍中佐、伯爵、96.3.11 [プラントの11年前]～44.12.20）・ゲルデラー（元ライプツィヒ市長、84.7.31～45.2.2 [法廷長官爆死の前日]）も、順次に処刑された。

「砂漠の狐」（阿フリカ戦線での戦績に由る異名）ロンメル（B軍集団司令官、元帥、1891.11.15～1944.10.14）は、加軍機の掃射で重傷を負い3日後の「7.20」暗殺に参加しなかったのに、ヒトラーが異端排除の為に差し向けたブルクドルフ（陸軍人事局長兼総統副官、中將、95.2.14～45.5.2）の強要で青酸加里を呑み、裁判・処刑の汚辱の代りに国葬（4日後）の榮譽を得た。

チャーチル（第61・63代英首相 [1940.5.10～45.7.26、51.10.26～55.4.5]、53年ノーベル文学賞受賞、1874.11.30～65.1.24）は、敵ながら天晴のロンメルをナポレオン（仏蘭西の軍人・第1帝政の皇帝 [1804.5.18～14.4.11、15.3.20～6.22]、1769.8.15～21.5.5）以来の戦術家と称えたが、「智者も千慮の一失有り」の通り、彼は気象班の不備な予測を信じて敵のノルマンディー上陸を油断した。

「6.10」まで可能性が無いと踏んで妻の誕生日を祝う為に帰国したのは不覚で、当日の敗北は中国で縁起が好い「6.6/8.8」（シュティーフの生誕・処刑日）のナチスにとっての不吉を思わせる。16年後の同日に生れたシュタルフェンベルクも「11.15」を婚約の日にした（満23歳時の1930年）が、習近平の党首当選日は中国と無関係の両者の誕生日と不意に繋がる。

ロンメルに引導を渡したブルクドルフはゲッベルス一家無理心中の5月1日、クレープス(陸軍参謀総長, 大将, 1898.3.4 生)と共に総統官邸地下壕で自決した。中共政権樹立より131日早い西独成立の「5.23」はヒムラー自殺4周年で、直後の東独(独逸民主共和国)建国(1949.10.7)はヒムラー生誕49周年に当り、フロム・ヘフテンの同61・41周年(10.8・9)と繋がる。

連邦憲法擁護庁(防諜機関)初代長官ヨーン(1909.3.19~97.3.26)は、航空会社の法律顧問として「7.20」暗殺に関った後、英国に亡命し反ナチスの心理戦に携わった。彼は庁内のナチス分子の専横への不満から東独に亡命し、ソ連滞在を経て翌年に帰国し(1955.12.12)、国家反逆に由る禁錮4年の1年半後に恩赦されたが、脱出は「7.20」10周年の日の事である。

7.19 尖鋭化, 5.31/6.2 游泳, 6.3・4 雷撃 / 惨劇, 7.1 「党慶」, 7.13 新設, 11.24 解消

ヒトラーが暗殺で直撃された唯一の例は、奇しくも23年後の武漢「7.20」事変と同日である。毛沢東に対する暗殺は建国前後とも国民党側が幾度も企てて失敗に終わったが、内部の反対派からは林立果集団の机上の空論(計画を捏造とする説も有り)を除いて無い。毛は超絶の権威に自信満々の故に突発の騒動に動転し、狼狽^{うろた}えて軍用機で危地から脱出した訳である。

第2次ニクソン衝撃の当日(1971.8.15)に毛沢東は専用列車で11ヵ月振りに北京を離れ、最後(以降は療養が目的)の南方視察で林彪閥への包囲網を拡げる追い詰め作戦に取り掛った。武漢到着の日(16)単独接見した劉豊(武漢軍区政委・湖北省委第2書記, 少将, 1915~93.3.9)は、武漢軍区空軍副司令在任中の「7.20」事変に対処した手柄で直後に大出世した男である。

1967年「南巡」(1年振り, 7.14北京発・武漢着, 後に上海・杭州・南昌・長沙・鄭州を経て9.23帰京)は、威勢を誇示する為の長江横断游泳(武漢, 66.7.16)の1周年を意識して初日が設定された。毛の快挙に肖って「武漢地区革命造反派百万雄師聯絡站(所)」(5.16「文革」発動1周年)成立)が15日に集団横断を催し、記念行進を行う対立組織と武闘を起し死傷者が多数出た。

4年後のニクソン衝撃(米国時間)と重なる「7.15」は中国でも大事件が多く、40年前の武漢政府の豹変に由る国共決裂、20年後の台湾首脳の決断に由る戒嚴令解除が有る。今度の同日の激突から、其々「百万雄師」と「毛沢東思想戦闘隊武漢地区工人総(本)部」(1966.11.10「文革」前哨戦発動1周年)成立)を支持する武漢軍区と「中央文革」の対立が急に表面化した。

周恩来・毛は18日に別々で軍区指導部に指針を示し、保守的「百万雄師」に肩を入れ革命的「工総」を解散した事(3.21)は誤りだとし、陳再道(司令, 上将, 1909.1.24~93.4.6)・鐘漢華(第2政委[第1は空席], 中將, 09.1.30~87.1.2)に反省を促した。鐘は下達不可の禁則を破って湖北省軍区独立師での伝達を認めた為、「百万雄師」寄りの同師団の反感を刺激した。

毛は13日に15日の百万人游泳の話聞いて、休養を兼ねての武漢行きを思い立ったが、迎賓館の従業員も2派對立の政争で協力せず部屋の清掃を疎かにしている状況に直面した。

陳・鐘への訓示で事態は好転すると楽観論を変えなかったが、周焯京（当夜）後の中央指示漏洩と謝富治・王力の煽動で、19日に両派の正当性主張が尖鋭化し翌日の爆発を導いた。

湖北公安総隊が前身と成る8201部隊（独立師の対外名称）は「中央文革」等への不服から、牛懷龍師長（大佐、1922～75.5.25）・蔡炳臣政委（少将、15～78.8）の許可や黙認の下で反乱した。数百人の将兵・「百万雄師」成員が謝・王の宿泊先（東湖客舎百花2号）に闖入し、銃口を向けた上で王を軍区機関所在地に連行し、武漢問題に関する偏向の態度の撤回を強要した。

数百台の貨物自動車トランプに乗る軍人・「百万雄師」の武装行進で反対派への襲撃・発砲も有り、独立師の将兵は周へ直訴する為に空軍管轄の空港の管制塔に乱入して情報提供を求めた。王が第29師（8199部隊）の張昭劍政委（大佐、1923年生）の保護で司令部かくまに身を匿った後、彼等は友軍の指揮機関に行き渡しを迫り、王は山野に避難し露天で1夜を過した。

軍人等が謝・王を引っ張り出した棟の至近距離に、毛が同迎賓館の梅嶺1号に泊っていた。中央首長の安全を守る為20日明け方に現場に駆け付けた29師の1個小隊は、軍・民造反派の多勢に敵わず張政委も殴打で肋骨を1本折った。省軍区独立師が反旗を翻し大軍区の師団と対抗する姿勢を取った事態は、毛に「兵変」（軍隊造反。軍事政変）の脅威を与えた。

周は毛の北京→武漢の汽車旅（3～21時）の30分前、李作鵬と空・海軍の作戦部長を携えて飛んだが、武漢軍区への不信から両者の到着時は告げなかった。彼は先ず武漢空軍に毛の滞在中の警護を託し、帰京前に劉豊・蕭前政委（政委、少将、1916～2001.3.18）に万全の安全保障を念押ししたが、劉は19日に謝・王と共に片聶眞の講話をする一方その重責を果たした。

周は20日の午前中に林彪邸で緊急対策協議に参加し、午後には武漢中心部から60^{km}離れた武漢空軍管轄の山坡空港に着き、同日に武空傘下の空降（挺）兵第15軍（本部＝湖北孝感地区）の2個連隊が武漢警備に投入された。午後には別の専用機で来た邱会作が毛に林・江青の脱出勧告を伝え、毛は夜8時に同意し未明2時に武空の車で劉に護送されて賓館を離れた。

毛の1956年の第2次「南巡」（5.3北京→武漢→広州、6.4武漢→北京）は空路を使い、長江游泳（武漢、5.31 [2時間・15^{km}]・6.2 [同距離]・3 [1時間]）堪能後の帰京で雷雨に遭った。先導機で到着した劉亜楼（空軍 [1949.11.11 創立] 初代・終身司令）は、河北衡水地区からの航路変更後の交信不通（30分超）で恐怖に陥り、危うく卒倒しそうで人に支えられながら無事を祈った。

15年前に陝甘寧辺区県長合同会議（1941.6.3、延安・楊家嶺講堂）の会場に雷が落ち、延川県長代理李彩雲が打ち断たれた柱の直撃で死んだ（歿年未詳）。同日の雷撃で牛を喪った農民が不運を嘆き、毛主席を撃ち殺さないのは何故だと愚痴を零した。毛は関係部門に彼への理解を求め処罰を禁じたが、今回も雷は親父に勝てず特別機が間もなく危険空域を切り抜けた。

空軍司令の36歳の誕生日に起きた「4.8空難」が再演すれば、歴史は塗り替えられ33年後の「6.4」惨事も無かろうが、毛は軟な玉やわたまでなく「不落的（沈まぬ）太陽」の賛辞の通り落ちない。無事着陸を見て劉はもっと乱気流の起伏で毛を懲らしめれば可かったのにと口

走り、彼と安全面の懸念を共有する政治局はこの事が契機で毛の空路移動を原則的に禁じた。

官製伝記に有る後の飛行機搭乗は翌年の第2次訪ソの他、1958年の杭州会議閉幕(1.4)後の長沙経由・南寧着(6)、南寧会議閉幕の翌日(23)の広州行きと帰京(26)、東北視察(2.12~14、済南→瀋陽→長春→北京)、成都会議の5日前(3.4、北京→成都→西安)、武漢会議閉幕(4.9)後(12・13、武漢→長沙→広州)、広州会議閉幕(29)後(5.1~2、広州→武漢→北京)である。

官製年譜に記された次の空路利用は、北戴河会議の前日(8.16、北京発・直達)、閉幕の4日後(9.3、帰京)、「南巡」(9.10~20、湖北・安徽・南京・上海・杭州)初日(北京→漢口)である。最終回は到着後に直ぐ長江で泳ぎ、以後6日連続で視察・移動の傍ら長江游泳を楽しんだ(15日は湖北黄石市に停泊した「江峡」号で安徽へ行く途中、翌日は安徽安慶市に到着直前の停船休憩中)。

『毛沢東伝』は1958年2月の東北視察の移動手段の理由として、時間を節約し効率を高める為であるとし、同年に毛は経済の建設に曾て無い精力の集中的な投入をしたと述べる。『毛沢東年譜』所載の最後の3回は全国製鉄運動発動(8.30決議、9.1公表)の前後に当り、それ以降の空路回避(代りに列車・船・車使用)は泡沫崩壊で熱狂が冷めた展開と連動する。

長江游泳が日課と為った武漢滞在中の定番宿は、9年後に「7.20事変」の舞台と化した。乱心の「大躍進」以来の慣例破りの飛行で遁れた事は、誇り高い彼には痛恨の極みであった。彼は脱出した途端に冷静を取り戻し、上海到着(11時)後に一睡もせず沈黙思考に浸った。陳再道等が本当に政変を起したのなら我々には出られない筈だ、という当然の結論に至った。

彼が起草した武漢軍区党委宛の中央返電(7.25)は陳を「同志」と呼び、主要将領は免職を経て林彪事変後に復権し(陳は1972年福州軍区副司令→78年鉄道兵司令、鐘は72年広州軍区副政委→77年装甲兵政委→79年成都軍区政委、牛は73年省軍区副参謀長、蔡は73・76年河南省軍区政治部副・正主任→78年鉄道兵政治部副主任)、「7.20事件」は「文革」後(78.11.26)名誉回復と成った。

軍内衝突の片方の29師は張政委が負傷後に部下を率いて王力を「百万雄師」から奪還し、毛の東湖客舎脱出と同じ時刻に司令部に押し掛けて来た同組織の再拉致の攻勢を退けた。張が王に付き添って山坂(中国語の「山坡」は武空所管空港の名)の野外と中隊駐屯に隠れた後、午後2時に劉豊が張緒(29師長、階級・生年等未詳)等の護衛で王を武空司令部に送った。

22日未明3時に王は李作鵬・劉の御伴で山坂空港に移り周と再会し、周は抱擁・頬擦りで迎え感涙を溢した。20世紀中国の政界切つての名監督・名優は帰京の際に、先発の謝・王搭乗機を着陸前に周辺で旋回させ、後発の自機を先着させて歓迎の場面を作った。「中央文革」擁護を印象付けた彼は35日後、我が意を得た毛の指令で王・関鋒の逮捕を執行した。

政界でも1930年代の上海在勤期と同じ三流女優の江青は、同日に河南の造反派組織が唱えた「文攻武衛」(文で攻め武で衛る)を公然と肯定し、武器で武器に対抗して可い論調は翌日の上海『文匯報』掲載で武闘を激化させた。同じ「7.23」(中共「1大」開会46周年)に空挺15軍の主力が武漢に進駐し、陸軍29師と共に省軍区独立師担当の要地警備を取って代えた。

林が主導した陳・鐘解任（27）の3日後に、曾思玉（瀋陽軍区副司令、中将、1911.2～2012.12.31）・劉豊が武漢軍区司令・政委に抜擢された。毛が批准した（28）独立師の政治整頓訓練の実施で、事件直後から将兵が社会への謝罪を強いられた同師団は言わば半閉店休業に入り、8月1日（建軍40周年）に東湖客舎の警備からも外され、撤去の際に武器の携帯まで禁じられた。

独立師の独立反乱に対し、空降兵15軍は「空降」の転義（上級機関から直接官吏を派遣する）を現した。空降兵は歴史が浅い（1950.9.16、空軍陸戦第1旅設立〔開封〕→翌月、師に昇格→55年、〔落下〕傘兵に改称→57.4.28、空軍空降兵師成立→61.3.14、空降兵15軍設置〔陸軍15軍軍部及び第44・45師+空軍空降兵師〕→6.1、空軍・武漢軍区空軍に帰属）が、軍の最精鋭として危局を凌ぐ切札に成る。

空軍編入後も番号が残る陸軍15軍（1949.2、中原野戦軍第9縦隊〔48.5発足〕より改称）は、秦基偉軍長（55・88年中・上将、14.11.16～97.2.2）・谷景生政委（少将、13～2004.11.28）の指揮の下、朝鮮戦争の上甘嶺戦役（52.10.14～11.25）で大功を立て、黄継光（31.1.8～52.10.19）・邱少雲（26.7.12～同10.12）等の特級英雄が輩出し、「^{あかいDNA}紅色基因」が殊に濃い伝説的な部隊である。

空挺15軍は1961年「7.1」に建党40周年・本軍成立祝賀会を開いたが、6年後の同日に発足した第2砲兵の第1・4代司令（7.4任命→43日後取消、75.4～77.9）向守志（55・88年少・中将、17.11.28～2017.9.2）は、陸軍15軍44師長・軍長（第4代、56.7～57.8）を務めた。彼は「文革」中4年半（～1972年初）の迫害を受け、最後に南京軍区司令（82.10～90.4）に昇った。

陸軍15軍の当初の代名称「0925」は建国直前～後に好い事が多い月・日に暗合し、初代軍長（～1953.4）秦は昆明/成都/北京軍区司令（57.9～67.1/73.7～75.10/77.9～80.1）を経て、国防相に栄転した（88.3～93.3）。名門の同軍を母体の主力と成す空挺15軍の優位性と免疫力が頼もしい故か、「7.20」の「叛軍」独立師は同軍に吸収され（8.3）省内に分散させられた。

軍委「8.15」命令で武漢警備区が設置され、空挺15軍軍部が同司令部を兼ね、29師が同軍に編入され、論功行賞の昇進も決った（趙蘭田〔1955年少将、18～2004.4.17〕軍長→武空副司令、方銘〔同大佐・64年少将、21.11～81.8〕副軍長→軍長兼警備区司令、張純青〔55・60年上・大佐、21.8.4～99.2.18〕軍政治部主任兼副政委→軍・警備区政委、張緒→副軍長・警備区副司令、張昭劍→軍・警備区副政委）。

元軍政委の王新（1964年少将、19.8～91.8.8）は抗日戦争勝利22周年の発令に先立って、6日に武漢軍区副政委兼河南省軍区第2政委と成り、河南の軍政治工作の実質的No.1として省委書記・省委副副主任も務めた（第1政委は劉建勳第1書記・主任が兼務）。激突の「兵変」は玉突き「変兵」（軍隊・上官異動を表す造語）で着地し、空挺15軍の独り勝ちと見て可かろう。

毛は「南巡」終盤の武漢滞在（8.19～21）で初日に曾思玉・劉豊を接見し、翌日に方銘・張純青を含む4人と面談したが、湖北と省都の首長が軍人で固まる事がその顔触れから分る。武漢市革委会（1968.1.20成立）の主任は方、当初の副主任4人中の1・2位は張昭劍・張緒で、9月任命の7人目（孫錫成、経歴未詳）も市人民武装部（地方政府の軍事部門）部長であった。

「文革」前半の中央官庁・地方に於ける軍事管制を端的に反映して、市革委は空降兵15軍

党委兼武漢警備区の起案・指示要請に対する武漢軍区臨時党委の決裁（1.18）で誕生した。鉄砲から政権が生れるという毛が40年前この地（1927.8.7. 漢口）で発した論断の通り、湖北の各級党・政機構の機能停止後の地区級政府の初設立は、軍が生みの親及び産婆を成した。

「南巡」開始1周年の前日（1968.7.13）、軍委は武漢軍区に陸軍第17軍を組成させた。29師・河南省軍区第1独立師・湖北省軍区独立師（其々番号不変〔翌年12月より49師〕・51・50師に改称）から成り、張治銀（空挺15軍副軍長、空軍大佐、1920～2008）が軍長、独立師と闘った張昭剣が政委に充てられ、軍事・政治工作首長の組み合わせは「7.20 事変」処理の実績に由る。

張純青は米軍機の銃撃で車が転落し肋骨4本を折り、張昭剣は造反派の殴打で1本折った。後者の負傷も内戦の勲章として急出世を齎したが、林彪事変後の反転で仕途が暗転した。17軍は無発展解消（「発展的解消」を振った造語）に終り（1972.11.24 軍委決定）、49師は武漢軍区所属に戻り（76.3.20より蘭州軍区19軍所属）、51師は湖北省独立師に復帰した（同4月解体）。

9.7 起動, 9.10 脱出, 8.14 空戦, 10.31 授賞

毛の1971年「南巡」の武漢滞在中の接見対象は初日の劉豊に次いで、翌日（8.17）の劉建勳・王新、25～26日（夜10～未明3時）の華国鋒（湖南省委第1書記・省革委主任）が居た。最終日（27）に劉への個別訓話で、自ら軍隊を指揮し重大な問題では譲らないと告げた。劉が列車内まで送ると一緒に革命歌を歌わせ、団結・歩調一致でなければ行けないと力説した。

毛は当日の長沙到着後に華国鋒・卜占亜（湖南省委書記・省革委副主任・省軍区第1政委、1955・60年上・大佐、18.5～99.2.13）を接見し、28日に劉興元（広東省委第1書記・省革委主任・広州軍区第2政委、中將、08.10～90.8.14）・丁盛（広州軍区司令、少將、13.11.7～99.9.25）・韋国清（広州軍区第1政委・広西自治区革委主任、上將、^{ネワン}13.9.2～89.6.14）、30日にこの5人と話し合った。

彼は前年の廬山会議で林彪派が掛けた奇襲攻撃を、組織的・謀略的な分裂活動と断罪した。5大將（黄永勝・呉法憲・葉群・李作鵬・邱会作）への糾弾に止らず、林彪の責任をも明言した。呉が林立果を「超天才」と持ち上げた事等に就いて、副統帥には有り難迷惑だと皮肉った。黄（総参謀長の前職が広州軍区司令）と関係が深い劉・丁に、黄の失脚を仄めかして戒告した。

南昌滞在の初日・最終日（8.31. 9.2）に其々、許世友・韓先楚（福州軍区司令・福建省委第1書記・省革委主任、上將、1913.1.30～86.10.3）・程世清（福州軍区副政委兼江西省軍区政委・江西省革委核心領導小組組長〔省委第1書記〕兼主任、少將、18.4～2008.4.29）と面談を重ねた。官製伝記では官製年譜に有る2回目が出ていないが、「江西省負責人（責任者）」の情報提供が詳述してある。

7月に周宇馳（空軍司令部辦公室副主任、1935～71.9.13）が2回江西に来て秘密活動を行った；廬山会議の間に葉群が「国家主席を設けないと、林彪を何処に置くか」と言った；林の娘立衡が「林彪の家人と付き合えば最悪の場合は斬首（処刑）が有り得る」と警告した、とい

う程の報告は毛の注意を引き、次の杭州滞在中（9.3～10）も林派の不審な動きが耳に入った。

第1・2次ニクソン衝撃後の中国の政・軍界では日本の二十～二十日辺りの台風常襲や、前・翌年の海外の恐怖事件（9.6旅客機乗っ取り・9.5五輪襲撃）の「黒い9月」と重なる頃に、「親父」（家父長制統治の頭の毛）の「雷」（衝撃的な糾弾や電撃的な行動）が激震と地殻変動を起し、緊急避難の脱出に走る林は「9.13」（立春から221日目）に不時着失敗で火の球に包まれた。

林派に関する程の密告があった毛との2回の密談の間の9月1日、毛の武漢滞在中に大連で療養に専念した曾思玉が職務に復帰し、劉豊から毛の2回の談話の内容を伝えられた。毛は各地の要人に北京（林彪一味）への通報を厳禁した為、この2人も口外しなかったが、毛は林に近い劉を通じて林に伝わる事を期待した節が有り、寧ろ有り難迷惑かも知れない。

杭州到着の日に呼んだ南萍（20軍政委）・熊応堂（同軍長兼浙江省軍区司令）・陳勵耘（空5軍政委）は、南の首位（省委第1書記兼省革委主任）と熊・陳の要職（省委書記兼副主任〔陳が第1〕）は、浙江の軍人統制と軍内の政委の重みを現す。最終日の接見で追加された白宗善（55・60年空軍上・大佐、空軍第5軍軍長、1919～？）と、熊の空4軍軍長の経歴は空軍の強い権勢を物語る。

「第2の故郷」杭州での滞在は今回だけ、政敵と化した林の勢力圏に居る危険が伴う。毛は汪東興に南等に「南巡」講話を傳達させ、踏絵を迫る様に座談会を開かせた（4～5）。彼等も建前の箝口令に囚われると懸念したのか、5日に広州軍区の劉・丁に師団級以上中将2千人超大会で傳達させ、その結果6日間続く杭州滞在中の静観の内に大魚が餌に跳び付いた。

記録・伝達・北京への漏洩は不可とする禁令に違反して、顧同舟（広州軍区空軍參謀長、空軍大佐、1920～2007）が秘かに鍵詞を書き留め、当夜に電話で周宇馳へ伝え、更に詳細な書面に整理して妻に空路で北京へ届けた（9日）。同じ空軍の劉豊は6日に外賓の御伴で武漢に来た李作鵬に少し漏らし、彼の副総參謀長兼海軍第1政委は当日帰京後に黃永勝へ急報した。

林立果は7日に私党集団「聯合艦隊」（1970.10結成）の成員に「1級戦備」への突入を命じ、林彪の8日の指示書（「立果・宇馳同志が傳達した命令に従って取り計らうよう望む」）を受けて、同夜に周・江騰蛟（南京軍区空軍政委、少将、1919.11.2～2000.5.8）・李偉信（空4軍政治部秘書處副處長、34年生）を集めて、「B-52」（米軍の戦略爆撃機に因んで毛を指す暗号名）殺害を共謀した。

当局の発表に拠ると、林立果は王飛（空軍副參謀長兼空軍司令部辦公室主任、階級未詳、1922.10～？）を呼んで父の命令書を見せ、南方と北京に居る反林勢力（毛・江青等）への排除は江と王・周が責任を負うと言った。于新野（空軍司令部辦公室副處長、？～1971.9.13）が当夜に杭州に赴き、陳勵耘から毛の談話の内容を訊き出し、杭州・上海・南京一帯で毛を殺害する計画を伝えた。

「9.8」の夜に毛は杭州で一部の人が飛行機の装備に取り掛ったり、笕橋空港の支線に停った専用列車が邪魔だと言ったりした異常事態を知ると、9月未明に紹興に近い専用線路に移させた。同日に于が上海で王維国（空4軍政委、1960年大佐、19～93）と毛殺害の実施案を協議し、当日帰京後の報告を受けて林立果は北戴河に居る両親に画策を報告した、とされる。

毛は一昨年の「9大」開幕式を司会する際に、林を議長団主席に推し自分は副主席に成ると冗談を言った。林は慌てて主席は偉大な領袖に他無いと唱え、慣例への挙手賛成を促して可決させた。「愚人節」(4月馬鹿)の寸劇で林を小馬鹿にからかった毛は、今度も股掌の上に**もてあそ**ぶ余裕**しゃくしゃく**の感が有ったが、狡猾な「鼠捕り」で追い詰めた窮鼠に嘸まれて了った。

襲撃防止の為に専用列車(滞在中の要人接見や執務等の場)の位置を急遽変更した時点から、天のみぞ知る毛の寿命は5年後の病歿(9.9, 0:10)に向けて秘かな「**カウント・ダウン**」倒計時」を始めた。翌日に杭州で党・軍・政首長4人へ訓話し、30分後の旅立つ時わざと陳の見送りを断った。上海着後に列車で王洪文と会い、連絡が取れぬ許世友の同席を持つ為に予定を繰り下げた。

彼は10日4時に届いた周恩来の指示要請文書(①国慶節前の3中全会開催、②全会に於ける陳伯達の党籍永久剥奪、③中央委員の数名追加選出[例えば姫鵬飛]の当否)に、全部同意し常委の増員も必要だと応えた。周は第4期全人代での『政府工作報告』の初稿を11日から10日間修正し、主席・林副主席に審査して貰うと述べたが、林の失脚で全人代も3年間延期した。

8月16日に周・張春橋・紀登奎・黄永勝が北戴河に向いて林彪を訪ね、毛の建議に由り国慶節の前後に3中全会、その後4期全人代を開き、既に準備が進んでいる旨を伝えた。毛が同日からの地方遊説をせず全会を開催すれば、絶大の威信で林派抑制の目的が十分に達成できる筈で、林を帰らぬ国外逃亡まで追い詰め自身が返り血を浴びる事も無からう。

「9.10」杭州講話で陳伯達失脚の要因に有る華北での反革命的な遊説を引き合いに出して、毛は党・军委主席として革命的な遊説の権利が有ると説いた。翌日の許・王接見の際に廬山会議での林派の造反を「陰謀詭計」「分裂」と非難したが、自ら掲げた「正大光明」「團結」の理念とは裏腹の秘密工作に励み、2中全会での反対派の異論の公開表明より質が悪い。

毛の人氣が極まった「1966.8.18」紅衛兵大会「天覽」(天皇の觀覽を表す和製漢語の借用)と、歿27日後の「76.10.6」毛派「4人組」逮捕との間の中点(71.9.12)は、「文革」前期の党・独裁体制の正・副統帥が袂を分つ折り返し地点と成った。上海で慣例の顧家花園(別荘)でなく専用列車に起居した毛は、同日13時12分に虹橋空港の専用鉄道線路から発車させた。

11日午後林立果・周宇馳が江騰蛟・王飛・関光烈(第43軍127師[司令部=洛陽]政委、階級未詳、1926~2008)を北京の西郊空港の拠点に呼び、「南(部戦)線」→北京の順で反林派要人の除去(殺害)を執行すると告げた。専用列車攻撃の為の火焰発射器中隊の調達を関(林彪の元秘書)に頼んだ処、军委主席の決裁が無い兵員の移動・使用は出来ないと一蹴された。

林・周は20時半に魯珉(空軍司令部作戰部長、空軍上佐、1926.11.12~2000.12.21)を呼び、林彪は3中全会を開くと優勢を失うから攻撃を決意した為、江(暗号名「殲-7」[戦闘機])が上海で先陣を切り、不発なら魯の第2波に頼り、爆薬が幾らでも有り第2の皇姑屯事件(張作霖爆死)が作れる;又駄目なら陳勵耘に「伊爾-10」(爆撃機)で行らせる、と狂想を喋った。

22時頃に林立果は王維国からの電話で毛が上海を離れた事を知り、暗殺計画の失敗を悟っ

て落胆し密議を御破算にした。拳銃で射殺の機会を伺うよう頼まれたとされる王は抑々動機・覚悟とも無く、魯も罪人に成るまいと妻（看護婦）の投薬で目の炎症を起して犯行を回避し、「南線」統率者に指名された江も領袖殺害に手を染めるのは土台無理な相談である。

前衛・後衛車に挟まれた毛の専用列車は、南京（18時35分到着、停車15分）・蚌埠（21:45, 5分）・徐州（12日0:10, 10分）・（山東）兗州（2:45, 通過）・済南（5:00, 50分）・德州（7:40, 20分）・天津西站（11:15, 15分）を経て、上海発から23時間58分後（13:10）豊台に着き、李徳生・紀登奎・呉徳・呉忠を15時過ぎまで接見し、36分発で16時5分に北京駅に入った。

毛は唐代詩壇の「3李」（盛唐の李白 [701~62]・中唐の李賀 [90~816]・晩唐の李商隠）を好み、筆頭の「詩仙」作七絶『早発白帝城』（早に白帝城を発す）の「朝辞白帝彩雲間、千里江陵一日還。兩岸猿声啼不住、輕舟已過萬重山。」（朝に辞す白帝彩雲の間、千里の江陵一日に還る。兩岸の猿声啼き住まざるに、輕舟已に過ぐ萬重の山）は、上海～北京の3千里・1日帰還と妙に重なる。

副統帥の「太子」推進の「斬首」作戦の策定が煮詰まらない儘に空回り中、100人の幹部隊（精銳部隊）將兵が警護する専用列車群は驀地に北上した。密議参加者の名に含まれる電光石火の急発進と飛騰の勢いの奔馳で、「聯合艦隊」の猿真似じみた「紙上談兵」（紙上の用兵談義。机上の空論）の伏えが已まぬ内に、高度な警戒を保つ統帥一行は軽快に安全圏に入った。

毛の杭州入り（第2次大戦終結26周年時）は「不入虎穴、焉得虎子」（虎穴に入らずんば虎子を得ず）の気合が有り、現地警護責任者の陳勵耘が林彪に近い事は百も承知であった。専用列車停留の笕橋空港は軍・民兼用で林派の空5軍の勢力圏に在り、紹興近辺の移動先も揮発油倉庫と150リしか離れていないから、敵が本気で潰しに来るなら無事で済む保証が無い。

笕橋空港は開港の翌年（1931）の軍政部（32年の改称で中央）航空学校の設置で「中国空軍の搖籃」と呼ばれ、国民党時代の「8.14空軍節」（39.9制定）は日中戦争初年の笕橋上空の死闘に由来する。高志航（第4航空駆逐大隊長、上佐 [戦死後少将追授]、1907.5.14~37.11.21）等が「8.13」上海事変の翌日、この戦場で対日本軍初撃墜（海軍航空隊の爆撃機2機）の快挙を遂げた。

高は劉粹剛（第5航空駆逐大隊長、上尉→追授少佐、1913.2.4~37.10.26 [死因は燃料尽き後の不時着失敗]）・楽以琴（第4大隊22中隊副隊長、同、14.11.11~37.12.3 [被弾後の脱出で敵機の掃射を避ける為に開傘遅延]）・李桂丹（同21中隊長、同、13.12~38.2.18 [敵機撃墜後の被弾]）と共に、「王牌飛行員」（花形操縦士）「4大金剛」と並称され、短期間内の犠牲は南京・武漢保衛戦等の熾烈を体現した。

日中戦争勃発40周年時（1977.7.7）に映画『笕橋英烈伝』（中央電影事業股份有限公司 [53.11.13成立]）が公開され、第14回金馬獎の最優秀作品・監督（張曾沢 [31~20.10.9]）・脚本（何曉鐘 [34.2.1~90]）・撮影（非記録 [劇] 映画）・編集・録音賞に輝いた。台湾及び中国語圏の最高荣誉とされる授賞の初/今回は、蒋介石の75歳の誕生日（1962.10.31）と90歳に成る前日に当る。

映画では又、閻海文（5大隊25隊隊員、少→中尉、1916~37.8.17 [上海で敵の陸軍司令部を爆撃中に被弾、落下傘で敵の陣地に陥り自決]）・沈崇海（2大隊9隊隊員、中→上尉、11.7.20~37.8.19 [敵艦「出雲」へ

の玉砕攻撃失敗)・譚文(4大隊21隊分隊長, 同, 12.5.16~37.9.3 [空戦中に被弾・墜落])・李有幹(4大隊22中隊隊員, 少→中尉, 13~37.9.18 [上海で敵の旗艦を爆撃中に被弾・墜落])等の事績も称えられる。

「8.14」空戦の日本軍機は台北から飛んだが、12年後に国民党は内戦で敗れて台湾に立脚した。高志航は24年後(1971.8.16), 蒋介石に由る「空軍志航基地」(台東県台東市)の命名で顕彰された。当日に毛沢東は空軍出身の劉豊に初の「南巡」訓話をし、正・副統帥の内争で空軍は後者の主力に見えるが、戦闘英雄経験者を始め空軍の高官は殆ど叛乱を拒んだ。

6.23 撃墜, 3.23~24 政変構想『「五七一(=武起義 [武装蜂起]) 工程」紀要』, 8.21 絶縁

空5軍(1953.3.20組成, 司令部=杭州)政委陳勵耘・空4軍(同=52.8.1, 上海)政委王維国は、林家との関りが深く毛の両市滞在中に露骨に警戒された。陳は毛に面と向って呉法憲との関係や廬山会議での騒乱関与を追及され、王(兼市革委副主任 [公安・検察・法院担当])は王洪文(張春橋・姚文元に次ぐ市委/革委No.3)に随いて列車に上ろうとした時、汪東興に止められた。

軍長の白宗善・鄭長華(空軍大佐, 1926.5生)は陳・王逮捕(71.9.20, 17)後に政委を兼ね、鄭は空軍2級戦闘英雄・1等人民功臣(朝鮮で麾下連隊が38機撃墜 [2機が自己戦績])である。魯珉は1級・特等(1952.12, 米軍F-86戦闘機5機撃墜)で、解放軍本土防衛の初夜間撃墜(56.6.23, 江西広豊県, 台湾空軍特種任務組機 [操縦士葉拯民(21.12.23生, 追授上佐)等11人全滅])を遂げた。

魯は「9.13」後2日間不眠不休で空軍司令部を監督した李徳生の処に出頭し、自分は毛暗殺の陰謀に関り滔天の死罪を犯し、人民には絶対赦して貰えないと号泣しながら白状した。毛は後に彼を例に林一味から命じられても行らない人が居ると言ったが、声が掛らなかった呉法憲等も仮に企図を聞かされても、万死に値する罪を犯して破滅する事は絶対しない。

林立果は上海で「3国4方会議」(1971.3.31)を催し、江騰蛟・王維国・陳勵耘・周建平(南京軍区空軍副司令, 64年少将, 19~2016)と政変計画を議論したが、元空4軍長の周も9月には深入りしなかった(上海・杭州・南京の4人を指す名称は、北越・南越民族解放戦線・東埔寨民族統一戦線 [70.3.23結成]・^{フランス}老樹愛国戦線 [同56.1.6] 参加の^{インドシナ}印度支那人民最高級会議 [70.4.24~25, 広州]に由来)。

『毛沢東年譜』の同日の記述はその秘密会合のみで、同月22~24日の出来事も毛の行動(22日に黄永勝・呉法憲・邱会作の廬山会議での誤りを謝る反省文に処置を指示し、24日に黄の反省文に論評を書き、周恩来・康生・黄・呉・李作鵬・邱・紀登奎・李徳生・汪東興と陳伯達批判・整風を議論し、林彪への報告を要求した)の前に、22~24日の林立果等の武装政変綱領の制定に紙幅を割いた。

林立果は于新野と共に杭州~上海着(18)後、空4軍招待所(巨鹿路889号)で李偉信を交えて協議し政変計画を構想する事にし、周宇馳を加えた会合(20)で林彪の承認を伝えた。22~24日に林・周・于が『「五七一工程」紀要』(「五七一」は^{wǔ qǐ yì}「武装起義 [蜂起]」の語呂合せ)の草稿作成し(執筆=于, 23~24), 軍事政変の実動部隊として空4軍内の教導隊設立を決めた。

『紀要』の「(一) 可能性」(目次表記)は、政局の不穏、軍隊への抑圧、経済の停滞、大衆の不满、上層部の腐敗・無能を列挙し、後継者の交代を狙う文人集団の「平和的変容」式の政変に対し、暴力革命の突発的変易^{えき}で阻止す当きで、未来の指導権は我等「艦隊」に在り、空軍主体の決行は全国政権奪取の可能性が大きく、確率が10月革命に勝る、と豪語する。

「(二) 必要性」(文中＝「必要性・必然性」)は、毛が数年内に死後の諸事を手配するよう焦り、我々には安心して任せない故、「束手待斃」(手を縛った儘で死を待つ)より「破釜沈舟」(釜を破り舟を沈める)の決死が益しだ；文人集団の「継統革命」はトロツキーの「不断革命」に他ならず、標的は人民であり、軍隊や異見の持主が真っ先に打撃を受ける、と断言する。

「(三) 基本条件」は「有利な条件」(国内外の対立の激化、危機多発の下地、期待できるソ連の支持、林彪の名望・権力と「聯合艦隊」の勢力、国土が広い故に大きい周旋の余地、空軍の強い機動性)と、「困難」(勢力の準備不足、毛に対する群衆の根強い個人迷信、毛の分割統治に由る複雑な軍内対立と統一掌握できる勢力の形成困難、毛の外出僅少の引き籠り傾向・行動保秘・警備厳重)を併記する。

「(四) 時機」は「你死我活」(伸るか反るか)の闘争に就いて、「戦略上の2種の時機」(敵を潰せる準備が完了の時、準備未完でも敵に潰される危機が到来の時)と、「戦術上の時機と手段」(毛の所在は我が陣営の掌握中、自滅形式[集会時一網打尽、手先を斬って毛に従わせる]、宮廷政変形式[毒瓦斯・細菌兵器・爆撃・543誘導弾・輪禍・暗殺・拉致・都市遊撃小分隊に由る襲撃等の特種手段使用])を提示する。

「(五) 勢力」は文中の見出し(「基本的勢力と借用可能の勢力」)の通り、2種類に分けられる(前者は聯合艦隊と各分艦隊[上海・北京・広州]、王・陳・江[空]4・5軍主要成員、[空軍]9・18師、21戦車連隊、民用航空局、[空軍]34師。後者は20・37軍、黄軍委辦事処^{ママ}[組]、国防科委、広州・成都・武漢・江西・済南[軍区]・新疆・西安、農民・紅衛兵・青年学生・国家機関幹部・労働者、ソ連・米国)。

「(六) 標語と綱領」(文中は「群衆動員の標語・綱領」)には、激越な雄叫びが一杯並ぶ(「当代の秦始皇“B-52”[毛]を打倒し、社会主義の看板を掲げた封建王朝を転覆し、真に無産階級と労働大衆に属する社会主義国家を建設せよ」「反革命叛乱と一切の反革命破壊活動を断固・峻厳に鎮圧せよ」「全軍将兵/全党/全国人民/全世界人民団結せよ」「全世界の真のマルクス主義者/無産階級と被抑圧民族連合せよ」)。

「(七) 実施要点」は「準備段階」([1] 計画 [記述無し]。[2] 勢力 [指導部＝江・王・陳、手兵・関連部隊一覧、艦隊拡大・根拠地建設加速]。[3] 物質準備 [武器受領・自製等]。[4] 情報保障 [収集・分析・報告])、「実施段階」(奇襲、上層部の連携を整えてから奇襲、又は奇襲を掛けてから上層部の連携を図る、或いは上・下同時進行)、「第三段階」(陣地を鞏固にし、戦果を拡大し、全国政権を奪取する)と想定する。

「(八) 政策と策略」は、毛(原文＝「B-52」)の旗印を掲げて集中的に毛と一握りの独裁者及び側近を攻撃し、大衆の輿論を緩和させ、団結・連合できる全ての人・勢力と団結・連合し、大多数の人(対外敵防衛・民族統一等の必要や専制の圧力、内情不明等の為に毛を擁護した人々も含めて)を理解・保護し、冤罪で迫害された人に一律に政治的解放を与える、と規定する。

「(九) 保秘と紀律」は本工程(事業)を無許可で他者に漏洩できない特級極秘と指定し、一

切の行動は指揮に従い、「江田島」（大日本帝国海軍兵学校〔広島県江田島市, 1876.8.31 発足, 1945.12.1 消滅〕精神）（剛健・果敢・頑強）を発揚し、「不成功便成仁」（功を成さねれば〔身を殺して〕仁を成す）、機密漏洩・責務怠慢・意志動揺・裏切りの者に対して厳しく制裁する、と念押しする。

毛は党主席就任 28 周年（3.20）の頃に軍人小集団の政変綱領で断罪・殺害の対象とされたが、彼が接見・称賛した事が有る首謀者の林立果は公定後継者の林彪の私設後継者である。「太子」の親の七光に依る権勢と親に害を与えた結末は多くの韓国大統領の息子と似通い、その暴走は制御できぬ父母と自身を死地に落とし、意外な集団自滅で毛も連鎖打撃を受けた。

林彪の次女（第 2 子）立衡は清華大学電子工学部に入学（1962）後、特権を利用して北京大学中文（国語・国文学）学部に移籍し（64）、翌年に休学して『空軍報』（空軍党委機関紙, 58.3.10 前身『人民空軍』紙創刊, 59.2.13 改称）に配属され、弟立果の空軍 2 要職任命の当月（69.10）に副編集長と成り、林・葉群の 2 子は揃って空軍の上層部への「直昇飛機特進」^{ヘリコプター}を果した。

呉法憲司令は立果に大権を与える布石として、声価を高める成果の量産を側近に命じた。全国向けの業績顕示の先鞭として、周宇馳・劉沛豊（空軍司令部辦公室副主任, ?~1971.9.13）作成、「空軍司令部 紅尖兵」名義の論説（『政治上・思想上で党内の一握りの資本主義道路を歩む実権派を徹底的に打倒せよ』）を、『人民日報』の第 1 版の最上部^{トップ}~6 版中第 3 版に発表した（67.7.22）。

3 年後の翌日（建党 49 周年・大暑の 7.23）に、林彪は妻・息子と「4 大金剛」を携えて国防尖端科技展覧会を視察した。王秉璋（国防科委党委書記兼第 1 副主任, 中將, 1914.1.14~2005.9.25）が集めた 1 万人超の歓迎堵列の間を、炎天下で 1^キも歩いて歓呼に応じた。風や日差しが苦手^{サービス}で汗を掻く事にも用心する彼は、長男の御披露目の為^{サービス}に出血奉仕を惜しまなかった。

最前列中央の林は立果を左腕の如く左側に付き添わせ（右は黄永勝, 王は立果の左）、呉・李作鵬・邱会作や胡敏（邱の妻, 1922~2015.11.24）等を一纏まりで背後に従わせた。沿道でこれ程の人が中央首長を歓迎する場面は 4 年余り無かった盛況で、正・副総参謀長 4 人と同じ政治局委員の葉群は、林父子を取り巻く「御林軍」（近衛軍。親衛隊）を嬉々として務めた。

第 3 弾は空軍司令部幹部大会（31）で林立果が行う毛沢東思想「学用」（学習・活用）報告で、8 時間に及ぶ演説（王飛・周宇馳等起草）は毛思想の威力を礼賛し自身の才知を顕示した。呉は「政治的衛星の発射」に譬え、取り巻きはマルクス主義・レーニン主義・毛沢東思想に次ぐ「第 4 の道標」と位置付け、彼に「万能の才・統帥の才・抜群の才」の賛辞を送った。

彼は北京大学物理学部 1 年生時の「文革」勃発後、最高の就職と成る入隊の内の最も誇れる空軍に入り党委辦公室秘書から仕途を始めた。毛は彼の才覚を褒め懇談の礼遇も与えたが、呉等の「第 3 代後継者」の鼓吹で気分を害した。長男岸英の戦死と次男岸青（1923.11.23~2007.3.23）の精神疾患で男子跡継ぎを失い、林の息子の活躍を平静に眺める事が難しい。

毛は翌年「南巡」で葉群が林彪辦公室主任と為る事を槍玉に上げて、妻を自分の職場の事務所責任者や秘書にすぎないとはないと斬った（8.16~17, 対劉豊・劉建勳・王新）。妻を公的個

人事務所の長に据える毛時代の慣習は劉少奇も同じであるが、毛も江青を秘書にし「中央文革」第1副組長・政治局委員まで押し上げたから、自分の事を棚に上げた非難は公平を欠く。

毛は林立衡の要請で『空軍報』の紙名を揮毫し、「送給林彪同志的女兒林豆豆」（林彪同志の娘林豆豆〔父親の好物に因んだ幼名〕に贈る）も書いた。彼が25歳の彼女の副編集長就任を非難しないのは当然の事で、江青との間に生れた四女（第10子）李訥^{とつ}（1940.8.3生）も北京大学歴史学部（59年入学）卒後、25歳で『解放軍報』（軍総政治部主催、56.1.1創刊）編集長と成った。

軍の「喉舌」に配属された編集者の彼女は翌1967年1月13日、「革命造反突撃隊」を結成し胡痴（編集長/新華社社長代理、大佐、17.5.4~2001.12.10）等を叩いた。毛が劉少奇と最後の面会をした当日の行動は、4日後に林彪の軍報社宛の書簡（毛承認済み）で肯定された。同月の中央文革辦事組組長就任と並行して、軍報総編領導小組組長（編集長相当）の座に着いた。

『荀子子道』『孔子家語三恕』に見える「昔者江出於岷山，其始出也，其源可以濫觴」（昔者江は岷山より出で、其の始めて出づる也、其の源は以て觴を濫ぶ可し）の通り、長江も源頭に溯れば觴を濫べる（又は觴を僅かに濫れさせる）程の細流である。昨今の「太子党」の濫觴（起源）は突き詰めれば、毛夫妻の独り子が全軍の「喉舌」と「中央文革」事務局を司る事に溯れる。

林彪は前妻（1937.6結婚）張梅（19~）との間に長女晁霖（41.5.13生）が居り、葉群の嫌悪・阻害の所為で疎遠し続けた。彼女は生母・継父（1954年再婚）徐介藩（55・61年大佐・少将、01~83）在住の瀋陽に居所・戸籍を移され、哈爾濱軍事工程学院（53.9.1設立）入学の志願も徐が同学院装甲兵工程学部主任である故、解放軍軍事電信工程学院（52.6.1前身発足）に変った。

徐は翌年（1961）に所在地の西安に転勤し解放軍装甲兵工程学院の設立（同年）に取り組み、私情や不正の嫌疑を忌避する為に親族が同じ部門に所属しない軍内の不文律に由り、晁霖は哈軍工導彈工程学部に編入し当初の希望が適った。「文革」初期の保守的な言説と「8.8紅旗造反団」の結成で父から絶縁が宣告され（8.21）、新疆の馬蘭核実験基地に押し込まれた。

李敏（毛の三女・第8子）も継母江青の排除で1964年（28歳、結婚5年後）に中南海から出て、毛の歿まで12年中3回だけ面会が許された。同年の入隊後に国防科委8局参謀・政治部副主任を務め、「文革」中に反聶榮臻派に入り父の死後も不遇が続いた。林家と同じく前妻所産の長女は運命に翻弄され、主流派の上昇気流に乗った妹と逆に傍流で下降を辿った。

毛の2女の姓は戦争中の暗号名「李得勝」に由来し、名前は『論語里仁』の「君子欲訥於言而敏於事」（君子は言に訥にして、行に敏ならんと欲す）、同『学而』篇の「敏於事而慎於言」（事に敏にして言に慎む）から取った。李訥の軍報責任者・「中央文革」裏方総管の重役とは裏腹に、変名^{Xiǎo Lǐ}「肖力」（「小^{xiǎo} [若い] 李^{lǐ}」の語呂合せ）の使用は林立果の実名露出と比べて謙抑的である。

建軍43周年の前日の長大演説と軍内学習用の7万部印刷・配布は派手過ぎる宣伝で、「立果」の名前通りの「急功近利」（「建立・樹立」「立即・立刻 [即刻] + 「成果・戦果」「果敢・果斷」）は、同じく毛と共通の「好大喜功」「輕視過去」「迷信未来」と共に自滅を招いた。日本流の

「能有る鷹は爪を隠す」韜晦の逆を行く鷹派の妄動は、無謀な兇戯に過ぎず命取りと成った。

毛は「南巡」の中盤に（呉法憲等が）20代の若者（林立果）を「超天才」と絶賛する事に触れ、実は何の利点も無く寧ろ彼に害を与える事だと喝破した（8.28, 対劉興元・丁盛・韋国清）。日本語の「出る杭は打たれる」より厳酷な「槍打出頭鳥」（頭を出す鳥は鉄砲で撃たれる）は、「尾大不掉」（尾大掉わず）程に制御できぬ林派の出姿張りの出端を折る毛の打撃に当て嵌る。

11.25 切腹, 10.24~29 大暴落, 1.11 断行, 11.11 誅殺, 9.28 航空機乗取・強請

ローレンツ（米国の気象学者, 1917.5.23~2008.4.16）が米国科学振興協会（1848.9.20 創設）で、『予測可能性：伯刺西爾の1匹の蝶の羽搏きはテキサスで龍巻を引き起すか』と題する講演をし（72）, 「蝶 効果」（力学系の状態に僅かな変化を与えると、その変化が無かった場合の後の状態と大きく違う）の提起で、混沌運動の予測困難・初期値鋭敏性を表す寓意の熟語が生れた。

グリック（米国の著述家, 1954.8.1 生）は『混沌——新しい科学を創る』（87）で、今日の北京で1匹の蝶が空気を掻き混ぜれば来月の紐育で嵐が一変すると場所を換えた。米国映画『ハバナ』（ボラック監督 [1934.7.1~2008.5.26], 90.12.14 公開）の主人公の台詞も、1匹の蝶が北京で羽搏けば、カリブで熱帯低気圧を起すと言ひ、北京発の設定で米・中の存在感を思わせる。

主役（職業西洋骨牌賭博師）を演じるレッドフォード（男優・監督）は、毛沢東の初紅衛兵「天覧」の30年前（1936.8.18）に生れた。34歳と成った日の香港『大公報』『文滙報』（1948.9.9 創刊）載論説（『米日反動派の迷夢を撃砕せよ——日本の反動的映画《山本五十六》《日本海大海戦》と《あゝ海軍》を評す）で、東京発の戦争映画が香港発の「口撃」を経て本土の政争賭博に影響した。

秘密集団「聯合艦隊」と林立果の暗号名「康曼徳」（英語の commander [司令官] の音訳）は、同年に内部参考として小範囲で上映した3作中の『連合艦隊司令長官 山本五十六』に因む。『「五七一工程」紀要』で唱えた「“江田島”精神」も『あゝ海軍』から汲み取り、同作監督が拡声器を取った『海軍兵学校物語 あゝ江田島』（大映, 1959.9.6 公開）の影響も考えられる。

『あゝ海軍』は中国で右翼が図る軍国主義復活の為の兵員募集用の広告として受け取られ、周恩来の指示に由る「陶第（“声討帝国主义” [帝国主义を糾弾する] の語呂合せ）文」名義の論難（『掲穿佐藤政府搜羅炮灰の騙局 [佐藤政府が徒死の兵士を捜し集める欺騙を暴く]——評日本反動影片 [映画] 《啊, 海軍》』）が、『光明日報』に発表され（1971.7.14）『人民日報』に転載された（20）。

日本の軍国主義復活の危険を感じた契機として、三島由紀夫の政変未遂（1970.11.25）が大きい。彼は私設民兵組織「楯の会」（政治結社「祖国防衛隊」 [1968.2.25 成立] を経て 10.5 発足）隊員4名を率いて、陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地を訪れ東部方面総監益田兼利（陸将, 13.9.17~73.7.24）を監禁し、露台上で政権転覆の蹶起を呼び掛ける演説の不発後に割腹自決を遂げた。

森田必勝（学生長・第1班班長, 1945.7.25 生）・古賀浩靖（第5班副班長, 47.8.15 生）が介錯し、

後者は前者の追隨自裁の介錯を務めた後、小賀正義（第5班長、47.7.31生）・小川正洋（第7班長、47.5.15～2018.11.26）と共に、総監を解放し自害防止の護衛もしたが、3人の私兵残党は「楯の会事件」裁判で懲役4年の判決を受けた（72.4.27、監禁致傷・職務強要・囑託殺人等の罪）。

三島は当日に4部作『豊饒の海』（『春の雪』『奔馬』『暁の寺』『天人五衰』）の最終巻を出稿し、自伝的な『仮面の告白』（長篇2作目）の起筆日（1948.11.25）との連環は自己完結を思わせる。擱筆日（1949.4.27）は23年後に「楯の会」反乱を裁く第18回（最終）公判に巡り合せるが、3被告とも彼の45歳10ヵ月余りの人生（1925.1.14より）の midpoint（47.12.20）の手前に生れた。

三島・森田は自衛隊説服の失敗で切腹を決行する前「天皇陛下万歳」を三唱したが、脱稿・自死の「11.25」は大正天皇の病気に由る皇太子の^{せつしやう}摂政就任（1921）49周年に当り、100年後に至る史上最後の摂政を務めた昭和天皇は同日に臨時国会で「御言葉」を述べた。歴史上の出来事の日付を能く作中に活用した彼は、律儀にも自死の日に寓意を持たせた様に映る。

第1巻『春の雪』（『新潮』[1904.5.5創刊] 65.9～67.1号、新潮社69.1.5刊）の中で、堂上華族の綾倉家の娘聡子と洞院宮治典王の婚約に関する宮内大臣通知が13年「5.15」に出された。小川出生の15年前の同日に海軍青年将校の起す政変が有り、陸軍士官候補や愛郷塾（橋孝三郎 [農本主義思想家、1893.3.18～74.3.30] が31.4.15創立）生も参加し、政党内閣制を強制終了した。

1929年の「暗黒の秋」（9.4に始まり10.24～29に決壊した米国株大暴落）に世界大恐慌が起り、世界の域内総生産は同年～32年の間に推定15%も減少した。30年後の中国大飢饉（1959年後半から3年間）も世紀最多の餓死者を出す激甚人災であるが、奴隷化された人々の「坐以待斃」（坐して斃を待つ）と違って、昭和恐慌（30～31）は過激な反抗・犯行の多発を引き起した。

大凶行第1号の濱口幸雄首相（1929.7.2～31.4.14在任、1870.5.1～31.8.26）遭難（30.11.14）は、金輸出解禁（金本位制復帰）断行（30.1.11）で加速した通貨収縮・^{デフレーション}大不況が暴挙の引鉄である。愛国社（右翼団体、1928.8.1結成）社員左郷屋留雄（08.12.1～72.4.14）の発砲で彼は重傷を負い、体内の放射菌の侵入で傷口が化膿し容態が悪化した末、辞任を余儀無くされ死亡に至った。

橋本欣五郎（陸軍参謀本部露西亜班長、中佐 [最終=大佐]、1890.2.19～1957.6.29）等「桜会」（超国家主義的秘密結社、30.9下旬発足）成員の陸軍将校が、大川周明（国家主義思想家、86.12.6～57.12.24）等の協力で画策した政変は、宇垣一成（陸軍大臣、大将、68.8.9～56.4.30）の変心で執行（31.3.20予定）が中止した（17）が、政府転覆・軍事政権樹立を目指す企図は後も再三繰り返された。

3月事件後の10月事件も橋本等「桜会」の幹部将校と大川等の右翼勢力に由る政変計画で、首相・閣僚殺害と荒木貞夫（陸軍教育總監部本部長、中将 [最終=大将]、1877.5.26～1966.11.2）首班の内閣樹立を企む「錦旗革命」は、発動日（10.24）の1週間前に発覚し主犯等が逮捕されたが、若槻禮次郎首相（濱口の後任、66.3.21～49.11.20）は閣内の亀裂で退陣した（12.13）。

内閣の経済失政と政党・財閥の支配体制に業を煮やした陸軍中堅層の「昭和維新」に対して、海軍では海軍軍縮条約の締結（米・英・日・仏・伊、1930.4.22、倫敦）への不満が^{くすぶ}熾り続け

た。海軍尉官・陸軍士官候補生等 18 人と大学生 1 人・農民決死隊 7 人が 5 月 15 日に、首相官邸・内大臣邸・立憲政友会（1900.9.15 成立）本部・警視庁・銀行・変電所等を襲撃した。

三上卓（海軍中尉，1905.3.22～71.10.25）が頭と為る第 1 組は靖国神社に集合し，表・裏門組 5・4 人が乗客運送貸切営業用自動車 2 台に分乗して首相官邸へ向った。呑気にも車内で武器の分配と計画の最終確認を行った処，指揮官の拳銃未携帯に気付いた為，一旦停車させて裏門組から受け渡された。更に間抜けな事に，それは故障で全弾装填が出来ない代物である。

拳銃の不備が作戦の失敗を招く例は 3 年前の中共中央特別行動科（1927.11 成立）でも有り，周恩来（中央軍事部長）所管の特務組織は上海潜伏中の要人の護衛と叛徒の制裁を担い，通/俗称「紅/打狗（犬〔敵〕撲殺）隊」は「神槍手」（^{カリスマ}神格的な射撃名手）が勢揃いで，情報収集力と相俟って隠匿中の裏切り者の暗殺を何度も遂げたが，1 回の疎漏に由る遺恨も語り継がれる。

老舎自殺・李達迫害死の「文革」元年の「紅（色恐怖）8 月」と同じ日（24），「白色恐怖」下の上海で中央軍委が史上最悪の破壊に遭った。楊殷（政治局常委候補・軍事部長，1892.5～1929.8.30）・彭湃（政治局委員候補・農民運動委員会書記・江蘇省委軍委書記，96.10.22～同）等が，軍委秘書白鑫（03～29.11.11）の寝返りに由り上海の公共租界で逮捕され国民党に引き渡された。

江蘇（上海・浙江も統括）省委軍委会議の欠席で逃れた周は移送車への襲撃を計画したが，部下が現場に届けたモーゼル拳銃 20 丁は未試射の新品で，潤滑油を取るのに手間が掛った所為で待ち伏せに間に合わなかった。救出の機会を失った楊・彭は懲役 8 年の発表に反して秘密裡に処刑され，報復を恐れて極秘拠点に引き籠った白は「紅隊」に発見・銃殺された。

三上に拳銃で運転手を脅かし首相官邸の表門を突破して表玄関前に到着し，官邸に入った後に守衛へ発砲し手当たり次第に部屋の扉を破って標的を捜した。首相の居所（日本館）に続く扉を蹴り破った彼等は，其処に居る田中五郎巡查に首相の在り処を訊き，応じられなかった故に銃撃した。被弾第 1 号の殉職者（1892.1.23～1932.5.26）は，2 人の犠牲の後者と成った。

2 組合流後に三上は日本館内の食堂で犬養毅（若槻首相の後任，1955.6.4 生）を見付け，直ちに引鉄を引いたが単発装填のみで発射済みだから空砲であった。一同が取り囲む中で両者が遣り取りし，首相が「話せば分る」と言った処，山岸宏（海軍中尉，25 歳）が突然「問答無用（一説に“無益”），撃て！」と叫び，黒岩勇（同予備役少尉，同）・三上が頭部を銃撃した。

即死と思い込んだ 9 人は退出の際に平山八十松巡查（生歿年未詳）に木刀で立ち向われ，黒岩・村山格之（海軍少尉，25 歳）が 1 発ずつ撃ち負傷させた上で裏門から去った。附近の警官が近付いて来ると拳銃で脅かし，その怯んだ隙に逃げて乗客運送貸切営業用自動車で警視庁へ直行した。内外とも銃器で対抗される事無く，官邸は彼等が楽勝できる程に脆弱過ぎた。

古賀清志（海軍中尉，1908.4.10～97.11.23）が率いる第 2 組（5 人）は泉岳寺から発ち，同じ手段で牧野伸顕内大臣（1861.11.24～49.1.25）邸に着き，古賀・池松武志（元陸軍士官学校 [1874.11.2 設立] 本科生中退，23 歳）が手榴弾を投げ込み（後者は不発），古賀は橋井龜一巡查（生歿年未詳）

を銃撃し怪我させたが、警視庁制圧の決戦を優先する考えから独断で殺害計画を放棄した。

第3組の4人は新橋駅から同じ手段で立憲政友会本部に赴き、頭目の中村義雄（海軍中尉、25歳）と中島忠秋（陸軍士官候補生、24歳）が、日曜日で人影が無い建物の玄関に向って手榴弾を投擲した（前者は不発）。第4組（1人）の奥田秀夫（明治大学 [1872.9 前身発足, 1920.4.1 設置] 本科生、23歳）は、三菱銀行（19.8.15 創業）本店の裏庭へ手榴弾を投げたが届かなかった。

第1組の三上等先発5名は決戦の気合で殴り込んだ警視庁本部は特に警戒体制が無く、拍子抜けの余り予定通り憲兵隊本部へ自首に行った。次に来た第2組は手榴弾の投擲で電柱の破壊に終り、一足遅い第2組の同2発は俱に不発であった。池松の発砲で書記・記者に負傷させたが、最後の第1組後発4人と相継いで出頭し、無謀の個別妄動は終了した。

憲兵隊本部に先着した三上等は戦果の不足を感じ、自首前に日本銀行（1882.10.10 設立）正門前に駆け付け4人が手榴弾を投げた。各組の手榴弾投擲は不発が有り器物毀損しか出来ず、深入りせず在宅の牧野を見逃したのも中途半端であるが、激情・劇場型の小集団叛乱は現役軍人に由る首相殺害（当夜死去）を以て、空前絶後の重大犯行として歴史に刻まれる。

海軍軍人と陸士本科生は海/陸軍の軍法会議で両軍刑法（1908.3.24 成立）の反乱罪を問われ、民間人は東京地裁で刑法の殺人罪・殺人未遂罪と爆発物取締罰則違反の容疑で裁かれた。海軍横須賀鎮守府軍法会議の論告求刑（9.11）で山本孝治検察官（1885.6.18～1934.7.27）は、古賀・三上・黒岩/中村・山岸・村山/他3・1人に死刑/無期禁錮/同6・3年を言い渡した。

海軍兵学校の在校・卒業生等の助命運動で減刑嘆願書100万通が殺到し、高須四郎判士長（大佐 [最終は大將], 1884.10.27～1944.9.2）は、古賀・三上/黒岩/山岸・中村・村山を同15/13/同10年に処した（11.9）。政治腐敗・生活窮乏・外交不調を怒る国民感情や世論に屈した温情処置は、濱口首相暗殺の犯人の死刑判決後の恩赦減免よりも恐怖活動への寛容を示した。

中国では元首・首相邸への突入が有り得ず、殆ど無い暗殺も成功せず刺客の落命に終った。国民党4期6中全会（於南京・中央党本部）期間中の1935年11月1日、集合写真撮影の際に記者孫鳳鳴（30歳）が3発の銃撃で汪精衛を負傷させた。偶々不在だった蒋介石の厳命で関係者が大量に逮捕され、護衛兵に撃たれて翌日に歿した彼の妻・義妹等10数人が殺された。

45年後の日本赤軍（1971.5.30 設立）に由るダッカ日航機乗っ取り事件（77.9.28）で、福田赳夫が「人の生命は地球より重い」と呟き、身代金（約16.2億円）の支払いと収監成員の引き渡しが決った（翌日）。国民と同乗の外国人を守る為の超法規的措置は時の首相の情理を思わせるが、犬養首相と警護巡査の命を奪った犯人に対する超法規的な寛大は不条理である。

「一命償一命」の理念が無い故に違和感が薄く、寧ろ穏和な落着と見られたろうが、陸軍11名の禁錮4年と同じ過軽（「過重」を振った語）量刑は、首相官邸襲撃も要人殺害も万死どころか一死にさへ値しない事を示唆した。濱口首相を死なせた男の死刑判決（1933）→無期に減刑（34）→仮出所（40）も、模倣/踏襲犯の安心材料として追随・膨脹・激化を手伝った。

5.14 「斬奸」、4.13 梟首、4.6 武勇譚、2.11/6.21 「裏切り」、5.11 涉外傷害、2.9 挟撃

昭和初の「5.15」襲撃・殺害は明治初の近代要人暗殺第1号(1878.5.14)と日付が隣り合い、島田一郎(武士・軍人、48~78.7.27)・長連豪(武士・政治活動家、56~同)等石川・島根県士族6人が、西南戦争(77.1.29~9.24)で政府に叛乱を起した薩摩軍の敗北の怨念を晴らす為、斬奸状を携えて大久保利通(初代内務卿、内閣制度発足前の事実上の首相、1830.9.26生)を殺した。

大久保は西郷隆盛・木戸孝允(33.8.11~77.5.26)と共に「維新の3傑」を成し、薩摩藩首領の西郷は幕府を打倒し戊辰戦争で江戸城の無血開城(68.4.11)を実現し、新政府(同1.3成立)の陸軍大将・参議を務めた後、征韓論政変で下野し(73.10.23)、私学校(74.6創設)党に担ぎ出されて拳兵したが、政府軍の反撃で西南の役の終りと成る城山決戦に敗れ自刃した。

木戸は長州藩の指導者として薩摩藩と共に幕府を倒し、維新後に参議等を歴任し政府内の改革派の中心と成り、版籍奉還・廃藩置県に尽力し、岩倉(具視[前外務卿、1825.10.26~83.7.20]特命全権大使引率)遣米欧使節団(71.12.23~73.9.13)副使官(他に大久保・伊藤博文・山口尚芳[外務少輔、39.6.21~94.6.12])を務め、西南戦争中に西郷軍討伐に当る希望が叶えず痛で夭折した。

2人の死で権勢が強まった大久保は「勝って兜の緒を締めろ」の警句に従わず、馬車で太政官へ向う際に通常携帯の拳銃を点検の為に持たず、素手の馭者・馬丁各1名の無防備体制で刺客の狙上の魚と化した。50余りの斬り傷・刺し傷が出来4本の刀剣が突き立てられた屍は、西郷との格闘で谷底に落ち脳味噌が露出するという先日の夢の暗示を示現させた。

大久保は「日本警察の父」川路利良(初代大警視[警察總監]、1834.6.17~79.10.13)に、帰郷後に悠々自適の狩猟・詩作を楽しむ西郷の抹殺を命じた。川路は密偵・離間の為に20余人の部下を鹿児島に派遣したが摘発され、頭目の中原尚雄(警視庁少警部、1845.11.5~1914.1.15)が拷問に屈した供述で、西郷暗殺の計画が明るみに成り、私学校徒の激憤が叛乱に直結した。

征韓(朝鮮侵攻)論政変は西郷の朝鮮遣使の当否を巡る対立に起り、西郷・板垣退助(土佐藩士、討幕運動・戊辰戦争後に参議、1837.5.20か21~1919.7.16)・江藤新平(佐賀藩士、左院[立法院]副議長・文部大輔・司法卿[俱に初代]・参議、37.3.18~74.4.13)等の主張は、内治優先・戦争回避派の岩倉・大久保・木戸等に抵抗され、閣議合意(10.15)の無効化で政府の分裂に至った。

4参議(板垣・江藤・後藤象二郎[土佐藩士、伯爵、1838.4.13~97.8.4]・副島種臣[佐賀藩士、外務卿、同、28.10.17~1905.1.31]辞任(10.24)後、板垣・副島等は愛国公党を結成し『民撰議院設立建白書』を政府に提出した(翌年1.12,17)。連名上申者の江藤は征韓党の主宰(党首)に擁立され(2.14)、2日後に士族反乱の佐賀戦争に挑んだが、政府軍の鎮圧に潰され呆気無く幕を閉じた(3.1)。

自ら制度を作った写真手配の逮捕者第1号と成った(3.29)彼は除族(士族除籍)・斬罪に処され、生首が梟首台に曝される写真の全国配布で死後まで辱められた。前原一誠(長州藩

士、尊王攘夷運動に参加、参議・第2代兵部大輔を歴任後に下野、1834.4.28～76.12.3）も、殉国軍を率いて敢行した萩の乱（76.10.28～12.8）が頓挫し、42歳（江藤より5年長命）で斬首刑を受けた。

「紀尾井（大久保暗殺現場の清水谷が在る町）坂の変」は、憎悪・抗争・報復の連鎖の一環である。島田と従犯（同じ加賀藩士の杉本乙菊・脇田巧一・長・杉村文一 [29・28・22・17歳]、鳥取藩士出身の浅井寿篤 [25歳]）は直後に宮内省に自首し、73日後に裁判で死罪と成り直ぐ斬に処されたが、11年後の帝国憲法発布に伴う大赦（1889.2.21）で西郷・江藤等と共に対象に入った。

忠君・信義・尚武・名誉を重んじる武士道の顕現で暗殺の美化に繋がったが、玉乃世履判事（1825.9.3～86.8.8）に拠れば従犯は趣意を知らず主犯の国益貢献論に同調した。玉乃も暗殺未遂（1872.8、代言人 [弁護士]・油問屋経営の服部喜平治 [生年未詳] が短刀で斬り付け）に遭い、犯人は翌月に最後の首斬役（首斬り役人山田浅右衛門の9代目吉亮 [54～1911]）に由って処刑された。

潔く引責した島田等は凶手の梟首を免れたが、執行の48日後（1878.9.13）大審院長（最高裁判長官）代理から初代院長（～79.10.25）に昇った玉乃は、6刺客処刑3周年時に就任した第3代の在職中に謎の頸動脈切断自殺をし、同じ谷中霊園（東京都台東区、74.9.1開設）に埋葬された。大久保の配下で西郷排除に動いた川路は、更に短命の45歳で病死した（毒殺の臆測有り）。

征韓論政変の負け組の板垣退助は参議復帰（1875.3）の7ヵ月後に再下野し、国会開設の請願活動の達成（天皇が『国会開設の詔』 [81.10.12] で90年を期して開設すると表明）後、自由党を結成し総理（党首）に就任した（同10.18、11.9）。日本最初の近代政党の勢力拡張と自由民権運動の展開の先頭に立つ彼は、反彈圧の抗議集会（1882.4.6、岐阜県岐阜町）での演説後に遭難した。

犯人の相原尚褻（小学校教員、1854頃～89頃）は尊王愛国者で自由民権運動に反撥し、国体破壊の逆賊に天誅を下すよう人込みから飛び出て右胸に短刀を突き立てた。意外な反撃で躊躇の一瞬を突かれ、内藤魯一（自由民権家、晩年に衆院議員、1846.11.24～1911.6.29）に引き倒された。板垣の助命嘆願で死一等を減じ無期徒刑と成り、更に恩赦で釈放された（1889.3.29）。

武勇譚の主人公が血みどろながら刺客を睥睨して叫んだ「板垣は死すとも自由は死せず」は、未遂に終わった暗殺の自由・民主への公然たる挑戦の悪質性を喝破した。彼は命に及ぶ危害も恐れぬ気概で「国会（東亜初の帝国議会）を創った父」と成り、伊藤博文・大隈重信（佐賀藩士、政治家 [晩年に首相]・教育者、1838.3.11～1922.1.10）と共に「憲政の三巨人」と併称される。

『大日本帝国憲法』発布の日（1889.2.11）の森有礼（薩摩藩士、初代文相、47.8.23生）暗殺は、功臣（枢密院の憲法審議会の担当閣僚）として宮中の大典へ赴く前に大臣官邸で起きた反乱である。彼を欧化主義者として敵視する国粹主義者の西野文太郎（不平士族、1865.10.28生）の一刺しで、包丁の刃が腹を突き抜け腸を抉り出した瀕死の重傷が治らず翌日に41歳で歿した。

西野は森の伊勢神宮内宮参拝（1887.11下旬）時の不敬（土足厳禁の拝殿に靴の儘で昇り、洋風杖で内扉の御帳を掲げて中を覗く）の報道（真偽不明）を基に、当日持参の斬奸状で「皇室を蔑如」^{ステッキ}「立国の基礎を傷り、国家を亡滅に陥る」と断じ、「帝国臣民の職分」で「宝剣を以て其の

首に加ふ」と決意を表し、駆け付けて来た護衛の仕込み杖の脳天一撃で即死し本望を遂げた。

23歳の彼は山口県の士族・神官を名乗って面会を要請し、秘書官に応接間に案内され代りに聴くと言われても粘った。出発時(8:15)に合わせて森が2階から降りると秘書官が見送りに行き、犯人は彼の背後に貼り付き森の脇の場所を取った。裏から切る「裏切り」に無防備な脇の甘さは大久保・板垣被害と通じるが、森の断腸失血と凶手の粉骨碎身は凄惨過ぎる。

憲政の三巨人の不可避な多難を現す様に、10月18日の閣議後に大隈重信(外相)が爆弾攻撃を受けた。外務省正門の脇に待ち伏せした来島恒喜(不平士族、右翼活動家、1860.1.31生)が、巡査の不審尋問を躲した後に鉄葉缶爆弾を標的の馬車へ投げた。大隈の膝の上を掠めて石垣に当たった爆発で破片が右足に食い込み、一命を取り止めた代りに右足を切断された。

彼の命拾いは負傷した馭者に由る加速脱走と共に、乾坤一擲の賭けや一発必殺の自信からか第2弾が無い事にも負う。犯人は何喰わぬ顔で再び正門の脇に佇まい、急行して来た先刻の巡査に有らぬ追跡経路を示した。意の儘に操ってから皇居へ頭を下げ、短刀を高く挙げて近くに潜伏中の同志に成功を伝え、次に首に刺し込み喉を掻き切り瞬く間に絶命した。

彼は玄洋社(旧福岡藩を地盤に創られ、頭山満[国家主義・大亜細亜主義者、1855.5.27~1944.10.5]が中心と成る日本初の右翼団体、81.2~1946)の元社員で、遺骨が同社墓地(福岡市崇福寺)に安置される際(11.1)に5千人超が会葬した。一死殉道の玉碎は大罪なのに称賛を浴び、勝海舟(海軍卿等歴任、伯爵、1823.3.12~99.1.19)も著名人の墓が林立する谷中霊園に彼の墓を建てた。

被害者の大隈は敵ながら天晴の口吻で、苟も外務大臣である吾輩に爆裂弾を食わせて世論を覆そうとした勇氣は、蛮勇であろうと何であろうと感心すると語った。決して気違ひの人間で憎い奴とは寸毫も思わず、華巖の滝に飛び込む弱虫(藤村操[厭世で自殺した旧制第一高等学校<1886年創立>2年生、86.7.20~1905.5.22])よりは余程偉い、という後年の評価も異様に高い。

同事件で投獄され無罪と成った小久保喜七(自由民権家・政治家、1865.4.17~1939.12.17)は、憲法発布日の森暗殺と対を成す様に立憲自由党結成の日(90.9.15)に刺客の魔手に掛った。彼は大隈の(幕末~明初の欧米との間の不平等)条約改正案に反対し、来島の年忌を行い続けた。大隈は法要に欠かさず代理人を送り、「徳を以て怨に報いる」「汝の敵を愛せよ」を実践した。

条約改正に反対し墓碑を寄贈した広田徳平(石工・石材店[現福岡市中央区]経営)は、大隈と同じ外相・首相を務めた広田弘毅(1878.2.14~1948.12.23)の父親である。暗殺の共謀者月成功太郎(玄洋社幹部、1858か59~1913.3.5)は弘毅の岳父で、頭山満の葬儀委員長(副委員長は緒方竹虎[新聞人・政治家、戦後に閣僚・副総理・自由党総裁、88.1.30~56.1.28])として存在感が大きい。

弘毅の妻静子(1885~1946.5.18)は東京裁判開始の15日後に服毒自殺し、広田家と国粋団体の関係の係累を消す捨身も空しく、夫はA級戦犯処刑の列に加えられた。次男忠雄が旧制高校に2浪後、三男正雄と一緒に早稲田の予科に受験し、弟のみ合格した故に自殺し(1930.命日・歿年未詳)、翌日に補欠合格の通知が来た結末と共に、不吉な宿命が一家に纏わった。

暗殺は露西亜皇太子ニコライ（後2世皇帝 [1894.11.1~1917.3.15], 68.5.18~18.7.17) に及び、訪日中（91.5.11）に滋賀県大津で沿道警戒中の津田三蔵巡査（55.2.15~91.9.30）が^{サーベル}帯剣で斬り付けた。顔面負傷の皇太子は馬車から跳び降りて路地に逃げ、犯人は同乗の希臘王子ゲオルギオス（1869.6.24~1957.11.25）に竹の杖で打たれ、車夫にその剣で斬られ警察に制圧された。

精神病歴の持主が凶刃を揮う狂人的な犯行の動機は、北方諸島に関する露西亜の強硬姿勢への不快等だと言う。国賓襲撃は外交問題を起し天皇は謝罪慰問を重ね（翌日に京都市行き13日に見舞、19日に神戸港に停泊中の露軍艦で送別）、「房州の烈女」畠山勇子（針子、1865年生）が京都府庁前で自裁を以て詫び（20日）、露西亜は感化の効果か報復せず賠償も求めなかった。

大審院長児島惟謙（後に貴族/衆院議員、1837.3.7~1908.7.1）は松方正義首相（薩摩藩士、財政家・政治家、公爵、35.3.23~24.7.2）の圧力に抵抗し、津田への大逆罪適用・死刑判決をせず謀殺未遂罪で無期徒刑にした（5.27）。「護法の神様」が貫いた罪刑法定主義と司法権独立の堅持も画期的な意義を持つが、破天荒の涉外要人傷害事件の凶手は収監の翌々月に病歿した。

獄死の場（北海道標茶町に在る釧路集治監）への移送・収監（7.2）は、松方と児島の逝去の33年前と17年前の翌日に当る。1932年「5.15」首相射殺と1878年「5.14」最高実力者斬殺から引き出した「5.11」国賓殺傷は、1966年「文革」勃発と89年天安門事件の5月中旬と似た不穏を印象付けるが、自国首脳抹殺と違って海外要人への攻撃は同情を得なかった。

10年後の新世紀初の要人暗殺は1901年6月21日に東京市庁参事会議事室で起り、伊庭想太郎（元四谷区学務委員・私塾文友館館長・心形刀流剣術第10代宗家、1851.10~07.10.31）が、市長・助役等と懇談中の市会議長星亨（英学者・弁護士、元衆院議長・前通信大臣、50.5.19生）に對し、「天下の為に奸賊を殺す」と絶叫しながら短刀で急所を6回も強く刺し忽ち命を奪った。

彼は斬奸状で星の汚職・収賄関与を国賊誅殺の理由に挙げたが、無期徒刑（1902.4.19確定）服役中に星の蓄財が無い実態を知り憂鬱に陥った。市議会の長を殺しても死刑に成らない事や、立派な肩書や服装で受付の巡査や市長等に疑われず、背後に回って短刀を抜いた経過も、19・12年前の板垣退助・森有礼暗殺や30年後の上海天長節日本軍将領爆殺と重なる。

12年後の大正初頭の「黒い9月」の阿部守太郎（外務省政務局長、1876.7.10~1913.9.6）暗殺は、対中軟弱を嫌う岡田満・宮本千代吉（18・22歳）に自宅前で挟撃・刺殺され翌日に歿した。岡田は私怨ならぬ国家の為の犯行で国家の威信失墜を防ぐ等と弁明する遺書を用意し、自首の相談で訪れた角岡知良（頭山満の顧問弁護士、生歿年未詳）邸で切腹を果たした（9.9）。

2.9 「一人一殺」、6.17 ^{ラングム}手当り次第刺傷、10.12 狂奔突刺、11.2 「狂信少年」自死

15年半後の昭和初期の山本宣治（生物学者・左翼社会活動家、1889.5.28~1929.3.5）暗殺は、代議士（労働農民党より出馬）として反対した『治安維持法』改正案の衆院可決の日起きた。

反対討論を封じる与党立憲政友会(1900.9.15創設)の動議に由る強行採決は、初当選(28.2.20)の直後に結社禁止処分で解散した元母体政党(26.3.5~28.4.10)の成立3周年に巡り合せる。

彼は東京市議選立候補者中村高一(弁護士, 1897.7.31~1981.7.27)の応援演説の後に、黒田保久二(日雇労働者・右翼活動家, 93.9~?)に辞職・赤化運動中止を迫られ、拒むと頸動脈を切断され、格闘中の第2撃で心臓を刺されて歿した。大山郁夫(政治学者・旧労働農民党委員長, 1880.9.20~1955.11.30)葬儀委員長の仕切りで、盛大な告別式・労農葬が営まれた(3.8, 15)。

犯人は七生義団(荷役業兼右翼団体, 1928.7結成, 本部=福岡県門司市[現北九州市門司区])に属し、国家・社会への秩序破壊及び煽動者に挑戦する等の綱領を最も過激な暴力犯罪で実行した。彼は山本に突き付けた『辞職勧告書』で諸々の断罪(背広姿で開院式に臨んだ不敬等)を並べ、返り血を浴びた儘に現場から逃げ、自首後の取り調べでも斬奸状を懐中に忍ばせていた。

山本は産児制限の提唱で当局に睨まれ大学講師の職を失った事が有り、初の無産政党政権候補者の衆院選当選(改選466席中8席, 内社会民衆党[第7党, 1926.1.25結成]4, 労働農民党[第9]2, 日本労農党[並列第10, 同26.12.9]・九州民憲党[同, 25.2.22]各1)で、政府が『治安維持法』(25.4.22成立・公布)を発動し(3.15)、無産政党の一部解散や共産主義者の検挙の打撃も諸に受けた。

黒田の警視庁巡査の前歴や七生義団総裁木村清(木村組組長, 1890.5.7~1967.1.17)と警察の癒着も一因か、犯人と面識が有る有松清治(警視庁特別捜査課長, 生年等未詳)は傷害致死の見解を公表した。松阪広政(東京地裁次席検事, 1941~45検事総長・司法相, 1884.3.25~60.1.5)の判断で殺人罪と成ったが、私怨が無い等の認定に由る懲役12年(翌年7.12判決)は軽過ぎる。

主犯岡田が自決した外務官僚暗殺事件の判決(1914.5.9)では、被害者を羽交絞めにした共犯者は無期懲役に処され、両者が思想上の影響を受け警察が逮捕に動く前に自首した岩田愛之助(右翼活動家, 1890.1.3~50.3.15)も、殺人教唆罪で同じ処罰を受けた(25年に恩赦釈放)。惨殺の償いの大差は穿った見方をすれば、反体制派の遭難に対する差別的な冷淡も窺える。

昭和0年代に起きた日本初(海外・未遂を除く)の閣僚経験者射殺は、井上準之助(財政家, 日本銀行総裁・蔵相歴任, 1869.5.6~1932.2.9)が衆院選(2.20)前、立憲民政党(27.6.1創立)候補駒井重次(大蔵官僚, 95.2.23~73.11.12)演説会への応援に出た時の事である。小沼正(国家主義者, 1911.12.29~78.1.17)が背後の至近距離から拳銃で3発撃ち、10数分後に落命に至った。

応援演説絡みや背後への無防備は山本や板垣・阿部暗殺と通じるが、拳銃を持つ彼は柔道の達人駒井(同月当選)に投げ掛けられ群衆に痛打された。故郷で痛感した農村の疲弊を井上の責任に帰し殺意が立った彼は、無期懲役判決(1934)後の2度減刑・仮出所(39, 40)→特赦(43)と戦後の公職追放を経て、業界公論社社長就任・右翼活動再開(49, 53)に至った。

凶行は「血盟団事件」(当日, 翌3月5日)の嚆矢として日本暗殺史と右翼運動史に刻まれ、血盟団は井上日召(僧侶・右翼運動家, 本名昭, 1886.4.12~1967.3.4)が頭と為るテロリズム集団で、国家主義の改造企図と「一人一殺」主義に基づいて政・財界要人等の抹殺を計画・実行した。

正式名称が無い暗殺団の首領直系「大洗組」5人男の内に、最年少の小沼が先陣を切った。

井上は微温で迂遠な大衆運動でなく激烈で即効的な国賊排除に由る国家革新を提唱し、住職を務める日蓮宗立正護国堂（茨城県大洗町）で殉国志向・捨身覚悟の刺客群を養成した。彼は共鳴され易い「一殺多生」（1人を殺して多くを生かす。仏典『瑜珈師地論』の言）を敷衍して、「一人一殺」の理念・戦法を編み出し、一点豪華（派手な標的・手口）の一点攻撃を企てた。

5人中の古内栄司（1901.5.27～?）・黒沢大二（24歳）・菱沼五郎・川崎長光（10.11.10～201?）は其々、池田成彬（銀行家、三井合名 [1867年確立の三井財閥の中核会社、09年設立] 理事。67.8.15～50.10.9）・郷誠之助（実業家、日本商工会議所会頭、男爵。65.2.3～42.1.19）・団琢磨（工学者・実業家、三井合名理事長、男爵。58.9.7～32.3.5）・西田税（陸軍予備役・思想家、01.10.3～37.8.19）暗殺の任に当たった。

25日後に菱沼（1912.8.20～90.10.3）が三井合名本社前で最大財閥の総帥を射殺した第2弾は、同じ右翼に由る丸3年前の左翼政治家暗殺と異なる民間経済枢要への斬り込みである。標的選定の目利きを現す様に1番目の池田は同・翌年に理事・筆頭常務理事（実質的な財閥責任者）に昇格し、板垣の後を行く形で1937・38年に日銀総裁・蔵相兼商工相に就任した。

小沼・菱沼は茨城県那珂郡南浜小学校の級友で、同校の訓導古内（右翼過激派、大池組の中心人物）の影響を受けた。凶器も藤井斉（海軍少佐。1904.8.3～32.2.5）から調達した同型の物で、彼の昭和維新の海軍側指導者と海軍搭乗員の最初の戦死者は、井上の兄二三雄（海軍少佐→歿後中佐特進、1883.12.25～19.3.5）と繋がり、後者の事故死は山本・団暗殺の10・7年後に当る。

菱沼は無期懲役（1934.11.22判決）放免（紀元2600年祝賀恩赦、40.2.11）後、養子入りに由る小幡への改姓、戦後の公職追放・右翼離脱を経て大洗町で漁業会社を営み、自民党推薦当選の県議（59～90）・県議会議長（73～75）も務めた。『欧州の原子力発電施設をたづねて』（1968）は、小沼正著『一殺多生——血盟団事件・暗殺者の手記』（74）とは別世界の硬派である。

井上日召は無期懲役から恩赦で復帰した翌年（1941）、三上卓・菱沼五郎・四元義隆（右翼活動家、08.3.8～2004.6.28）等と共にひもろぎ塾を設立し、近衛文麿（33～39年の貴族院議長・首相・枢密院議長に次ぐ首相、公爵。1891.10.12～45.12.16 [自殺]）邸に寄食した。日米交渉の進展次第に起る恐怖襲撃への警戒から、元恐怖主義者に用心棒を頼むのは毒を以て毒を制す策か。

四元は血盟団の大学現役・卒業生集団（東京大学6人、京都大学・國学院大学 [1882年前身創設、1919・20年改称・昇格] 各1人）の頭で、牧野伸顕（文相・農商務相・外相・宮内相を経て内相、伯爵。61.11.24～49.1.25）暗殺を分担し、検挙され15年懲役に処された（小沼等と一括判決）が、他の団員と共に恩赦出獄後、近衛・緒方竹虎の側近顧問を務め右翼思想の最高代表に成った。

8人衆の標的は特権階級の西園寺公望（元政友会総裁・文相・首相。公爵。1849.12.7～1940.11.24）・牧野等3人、民政党の若槻礼次郎総裁（官僚・政党政治家、蔵相・内務相・首相・拓務相を経て前首相、男爵。66.3.21～49.11.20）・幣原喜重郎（外交家・政治家、元・前外相、男爵。72.9.13～51.3.10）、政友会の犬養毅総裁・床次竹二郎（官僚・前内務相・現鉄道相、67.1.6～35.9.8）等3人である。

担当未定の対象者は特権階級1・政官界2・財界8名を含め、三井系の他2名と三菱（財閥、1873年確立）系3、住友（同、75）系・安田（同、80）系・大倉（同、93）系各1名から、3大（三井・三菱・住友）を頂点とする15大・中堅財閥への敵意が一目瞭然である。軍閥の将領や学閥の大物にも照準を合せた危険人物一覧表は、実権・思想に渉る破壊の野望を窺わせる。

未実行者の犬養毅は団暗殺の71日後の「5.15」事変で射殺され、牧野伸顕・2代目安田善次郎（安田財閥総帥、初名善之助、1879.3.7～1936.11.23）は無事で、大久保利通・初代安田善次郎（安田財閥の祖、幼名岩次郎、38.11.25～21.9.28 刺殺）と合せる父子犠牲は回避されたが、牧野は4年後の「2.26」政変でも襲撃され、機転で脱走した代りに護衛の警官が殺害された。

血盟団事件は右翼活動家の一人一殺や憂国将校の多人多殺を誘発し、戦後にも河上丈太郎（日本社会党顧問、1889.1.3～1965.12.3）暗殺未遂（60.6.17）を皮切に擡頭した。日米安全保障条約改定の自民党単独強行可決（衆院、5.20）後、安保阻止第2次実力行使（6.15、全国580万人参加）中の全日本学生自治会総連合（48.7.6 結成）派の国会突入が、犯人の殺意を呼んだ。

河上は無産運動に参加し第1回普通選挙（1928）で日本労農党より当選し、大政翼賛会（40.10.12 設立）総務（同年）・右派社会党委員長（52～55）を歴任した。衆院議員面会所で請願受付中に戸潤真三郎（工員、1939.11.18 生）に背後から洋風小刀で刺されたのは、暴力を使嚇する党の幹部4人中1人の殺害を狙う犯人（12.10に懲役5年判決）の肆意な選択に由る。

第2撃を待たず関係者が制止した御蔭で助かったが、27日後の岸信介（1896.11.13～87.8.7）暗殺未遂は手加減の結果である。河上遭難の直後に33万人の国会包囲の中で新安保条約は自然承認と成り（19日0時）、岸首相は批准・発効日（23）に退陣を表明し、内閣交代の4日前（7.14）に新総裁就任祝賀招待会で荒牧退助（薬局経営者、1895.2.16～?）に6回刺された。

翌々日で逝去41周年に成る暗殺被害者の板垣と同名の暴漢は、曾て右翼団体「大化会」（1920.4 結成）に属し、43年に過激派仲間と共に「2.26」政変処刑者の北一輝（国家社会主義者、本名輝次郎、1883.4.3～37.8.19）・西田税の分骨を食べた。西田は「5.15」で血盟団員川崎長光に銃撃され重傷を負ったが、「2.26」で加害側に立ち今回も変哲の形で亡霊を覗かせた。

荒牧は安保改定の混乱と岸のいい加減への立腹から政治家の反省を促す為に行ったとし、院外団で応援する大野伴睦副総裁（元衆院議長、1890.9.20～1964.5.19）への禪譲が無いのも事由かと噂された。左腿以外に腹を抉らぬ数撃の手際が良く懲役3年（翌々年5.24に確定）で済んだが、党員徽章で首相官邸に入り護衛警官2名の眼前で正面から果したのは訝られる。

河上暗殺の犯人は社会党4幹部の1人だけ消せば目的が達成できると考え、浅沼稻次郎（中央執行委員長・衆院議員、1898.12.27～1960.10.12）・鈴木茂三郎（前委員長・同、93.2.7～70.5.7）・勝間田清一（政策審議会長・同 [後に委員長・衆院副議長]、08.2.11～89.12.14）は、その蜂の一刺して難を免れたが、浅沼は岸刺傷の90日後に右翼少年山口二矢（43.2.22～60.11.2）に刺殺された。

犯人は陸上自衛官の父晋平（1909～?）と小説家の祖父（母方）村上浪六（本名信、1865.12.18

～44.12.1）を持ち、赤尾敏（右翼活動家・元衆院議員，99.1.15～90.2.6）の左翼糾弾の演説（60.5.8）に感化されて、兄朔生（17歳）に付いて大日本愛国党（51.9結成，初代総裁＝赤尾）に入った。以来、『公職選挙法』（1950.4.15制定）違反等で14回も逮捕され猛進が最過激の評を博した。

彼は「日本主義愛国維新」を街頭宣伝でなく一人一殺で進めようとし、浅沼・松本と野坂参三（共産党中央委員会議長・参院議員・元衆院議員，1892.3.30～1993.11.14）・小林武（日本教職員組合〔47.6.8成立〕中央執行委員長，06.11.3～87.4.4）・河野一郎（衆院議員〔後農林相・建設相・副総理〕，98.6.2～65.7.8）・石橋湛山（衆院議員・元蔵相・通産相・郵政相・首相，84.9.25～73.4.25）に目を向けた。

自民党内容共派の2人の豪邸・警備の侵犯困難，松本・小林の住所不明と野坂の旅行中で，3党首（池田勇人・浅沼・民主社会党〔1960.1.24結成〕中執委委員長西尾末広〔衆院議員，元内閣官房長官・副総理，1891.3.28～81.10.3〕）立会演説会に出る浅沼が選定された。彼は訪中（前年3.7～21）時の反米言動が「媚中・売国奴」と見られ，戸潤も当初狙った様に右翼の共通の敵と化した。

1929年の山本宣治暗殺は中村高一の応援演説の後に起き，中村は東京市議当選後の30・36年に労農党・社会大衆党の中執委員と成った。労働農民党の後継政党（1929.11.1～31.7.5）は全国大衆党（30.7.20～同）との合同で解散し，後継の全国労農大衆党と社会民衆党（26.12.5～32.7.24）の合同が社大党であるが，新党は大政翼賛会への合流の為に解散した（40.7.6）。

彼の社会運動・人権推進派弁護士が中央入りした両党は9年を隔てた隣接の日に解散し，近衛内閣治下の新体制運動に由る政党解体で大政翼賛会が結成された。浅沼は中村の衆院選（1960.11.20）立候補の応援演説の翌日（10.12），この国民統制組織の創設20周年時に殺され，現場の日比谷公会堂は暗殺犠牲者の初代安田善次郎の寄付で建てられた（29.10.19完成）。

中村は1937年から衆院選で8回当選し，正木清（同党・同7期，00.5.30～61.4.12）の辞任（安保強行採決への反対に由り，60.1.30離職）後の副議長も務め，山本刺殺の31年後に囚らずも再び暗殺と絡んだ事は不穏な時代の再来を思わせる。犯人の消去法で白羽の矢が立った抹消対象は講演中に，河上・岸暗殺より数段も強固な決死の殺意で3回刺され命を落した。

入口で面通しされた右翼18人中の大半を占める愛国党員の連続宣伝紙片撒きで，私服刑事30名の注意は愛国党の一団が陣取る場所に注がれた。党首の生温さに苛立って5月末に脱党した山口は，浅沼護衛の担当巡査が場内で騒擾する右翼を裏に引き摺り込む数分間の隙を衝いて，反対側から衆人環視の演壇に駆け上がり短刀で立て続けに致命傷を与えた。

浅沼の家族は彼が重視したテレビ出演の為に，着古した背広を少し新しい物に替えた。常に手帳・名刺・資料印刷物を内衣囊に一杯入れた普通の洋服なら，硬い表紙の手帳と厚い紙類等が溢れ返った其処は，錆びた短刀で刺し貫かれずに済んだ公算が有る。左脇からの一刺し（深さ30糎，大動脈切開）だけで命取りに成ったが，家族の心残りは多重な悲運を思わせる。

三多摩（東京西部の西/北/南多摩郡）から出馬する中村への声援を終えた帰途に，国会派遣の老練な運転手は事も有るうに道を間違え，多磨霊園（府中市多磨町・小金井市前原市に在る都

立霊園)に迷い込んだ。浅沼の納骨(百日祭の1961.1.19)の場がこの日本初の公園墓地(23.4.1開園)で、中国語の「好事多磨」に当る「好事魔多し」から魔訶不思議の変事多発を連想する。

警視庁の見立てを覆した単独犯は少年鑑別所に移った日、30分毎巡視の隙間に設備の自殺防止上の不備を利用して首を吊った。歯磨き粉を水に溶いて壁に書いた「七生報国、天皇陛下万歳」が遺言で、山本暗殺の刺客が属した七生義団と2字が重なる。殉死しなければ前例通り無期懲役に成ろうが、社会的影響の無い罪に限る戦後の恩赦には与らない筈である。

2.1 無辜「妄殺」、2.6 流刑懺悔、2.24 変則所感、5.26 肆意訓示

8日後(11.10)発売の『中央公論』(1899年に現名称で発刊)12月号に、埴谷雄高(小説家・評論家、本名般若豊、1909.12.19~97.2.19)の『暗殺の美学』(新聞広告の主旨は「私達が/暗殺されるか、/長く生きつ/づけてきた/暗殺をつい/に殺してし/まえるか!!」)、『浅沼刺殺をめぐる国会議事録』(同「山口二矢の自殺をもってこの事件は解決しない。右翼と政・財界のつながりを追及する!!」)と有る。

全21篇の表題中の最大の活字で、深沢七郎(小説家、1914.1.29~87.8.18)の短篇『風流夢譚』(諷い文句=「この作者が描く革命の日のイメージを、単に白昼夢/と笑うことができるだろうか。深沢文学久々の登場」)が宣伝されたが、主人公が皇太子夫妻の処刑や皇太后との喧嘩を夢で見、自身も辞世の歌を作って拳銃で自殺する処で目が醒める、という物語は非難の嵐を招いた。

保守派の反撥と右翼の示威の傍ら、『朝日新聞』の短評欄『天声人語』は「人道に反する」と指弾し(12.1)、宮内庁も名誉毀損と抗議した(11.29)。竹森清編集長(1994.7.6歿、74歳)は翌日に宮内庁に謝罪し、掲載誌は61年新年号(60.12.10発売)に『お詫び』を出し、編集長も中央公論社(1886年創業、14年より現名称)社長嶋中鵬二(23.2.7~97.4.3)兼務で更迭された。

『文學界』(1933.10.1創刊)2月号(1.8発売)に大江健三郎(小説家、94年ノーベル文学賞受賞、35.1.31生)の中篇『政治少年死す セヴンティーン完結編』が発表され、山口二矢を原型に右翼青年の性と天皇崇拝を絡めた意欲作は右翼を再び酷く刺激した。作者が26歳と成った翌日に、同じ17歳の元大日本愛国党党员小森一孝(1943.5.25生)が嶋中邸で狼藉^{ろうぜき}を働いた。

少年(当時実名報道)は皇室への冒瀆に憤慨し社長を刺す目的で夜に侵入し、不在と聞いて洋風小刀^{ナイフ}で身代りに妻雅子(1925~2004.8.18)に重傷を負わせ、主人を守る当く揉み合いになった家政婦丸山かね(50歳)を死なせた。彼は動揺して逃走し自首予定の翌朝に派出所前で職務質問を受けて逮捕され、所持の手巾^{ハンカチ}に山口の遺言と同じ「天皇陛下万歳」と書いた。

浅沼刺殺の81日後に同年齢(山口の92日後に生れ)の右翼少年の短絡的で理不尽な凶行は、暴力排除に関する前国会両院決議の可決(解散日の10.24)から間も無いだけに衝撃が大きい。翌々日の参院本会議で池田首相は国家公安委員会の責任と自身・内閣の政治的責任を明言し、安井謙(自治相兼国家公安委員長、1911.3.22~86.3.10)も社長宅の警戒の欠落を暗に認めた。

浅沼暗殺の翌日に自治相兼国家公安委員長（山崎巖，1894.9.16～1968.6.26）が更迭され、今回も責任無しと当初された警視總監（小倉謙，11.4.21～77.7.23）は23日に辞任した。警視庁警務部長から昇った後任（原文兵衛，1913.4.29～99.9.7）は後に環境庁長官・衆院議長を務め、前任者と違って引責を免れた安井も後に参院（50年より議員6期）副議長・議長に選ばれた。

参院の緊急質問で責任を追及した西郷吉之助（元貴族院議員，侯爵）は後に法相と成ったが、自裁した西郷隆盛の孫である彼（1906.7.20～97.10.12）の死は浅沼歿37周年に当る。中央公論社に押し掛けて抗議した右翼には、社長との団体交渉（1.28）を主導した左郷屋留雄が居る。濱口幸雄首相暗殺者の暗躍ならぬ公然たる跳梁も、この事件が帯びた変死の匂いを放つ。

雅子夫人の父蠟山政道（政治学者・行政学者，1942～45年に衆院議員，1895.11.21～80.5.15）は、先代社長（28年に就任）嶋中雄作（出版人，87.2.2～49.1.17）に継ぐ鵬二（次男，26歳時）より早く、同社・誌の要職を務めた（副社長・編集主任，45～46）。居合せた家政婦2人の内の犠牲者も準社員（大学卒業後正社員に昇格予定）の息子（悟，21歳）を持ち、4日に社葬が営まれた。

小森は深沢の所在不明を聞いて標的を嶋中に切り替え、自宅への侵入までは女を殺す心算は無かったと言う。当の作者は逃避生活中の「2.6」記者会見で事件の責任を痛感し、人を侮辱する様にとられた下品な表現を猛省し、死者の話に及ぶと涙が溢れ出し言葉に成らなかった。護衛の刑事等に囲まれて消えた後、5年間も各地を転々とする放浪を強いられた。

翌日に警視庁は要身辺警護の野党首脳・国会議員・労組幹部・作家・評論家等40数人に就き、巡回警戒を強化し必要に応じて私服員を配置する事とした。大江健三郎も熱が冷めるまで保護されたが、深沢は流刑じみた流転（京都・大阪・広島県【尾道・広島市】・東北・北海道）の末、『風流夢譚』発表5周年の前々日（1965.11.8）に終の棲家（埼玉県南埼玉郡）に到着した。

彼は憲法保障の表現の自由を奪われず著述を発表し続けたが、『みちのくの人形たち』（短篇，1979）の川端康成文学賞（74.11.25創設）受賞（80）を辞退し、理由の「殺生の罪」と関る様に死去は切傷被害の嶋中夫人と14年差の同日である。右翼寄りと見られる石原慎太郎は天皇批判の見地から『風流夢譚』を称えたが、巡り巡って嶋中事件61周年時に逝った。

深沢と21歳下の大江・27歳上の嶋中雄二の誕生日（1.29・31，2.2）は2日置きに並び、前の2人の筆禍は後者の後継者に公私とも打撃を与えた。鵬二社長の判断に由り社告・『お詫び』（2.5，7）で不適切掲載を謝り、右翼が介入した編集方針の「中正」回帰・自主抑制が為され、終いに業績不振で讀賣新聞社に身売りされた（事件38周年の1999.2.1に商号変更）。

竹森前編集長の退職（2.6）に先立って、犯人の父義雄（長崎地検諫早支部副判事，53歳）も山口二矢の父の依願免官（1等陸佐，事件の3日後）と同じく辞任した（同2日後）。親に迷惑を掛けた「狂信少年」（『朝日新聞』の辞）は東京地裁判決（1962.2.26）で、性格の歪みの背景（生母の病苦・自殺や姉の精神分裂病・自殺未遂）に留意されつつ、重大犯罪に就き懲役15年と成った。

警視庁嶋中事件特別捜査本部は21・22日に赤尾敏を逮捕し東京地検に身柄送検したが、

地裁の飯守重任裁判官(1906.8.13~80.11.5)は24日、暴力行為に就いて10日間の拘置を認め、殺人教唆・同未遂教唆の嫌疑無しと決め、事件の根本原因は昨年来の国会示威等の集団暴力の横行に現れた破壊工作で、契機は皇室に対する深沢・中央公論社の名誉毀損だとした。

彼の兄田中耕太郎(貴族/参院議員・文相・最高裁長官等歴任, 1894.10.25~1974.3.1)は反共的で公安案件に厳しく、松川事件裁判に対する広津和郎(小説家・評論家, 91.12.5~68.9.21)等文学者の批判を「雑音」と斬り(2審判決後の裁判長の会の合同に於ける訓示, 55.5.26), 最高裁の差し戻し審決定(59.8.10)の多数意見に少数派として反対し「木を見て森を見ざる物」と貶めた。

田中は文相として署名した『日本国憲法』で定めてある裁判官の自由裁量権を基に、世間の雑音に耳を貸さず流行の風潮に阿らず道徳的勇気で適正・敏速に処理せよと説いたが、浅沼暗殺の12日後の国会解散で歴代最長の任期(1950.3.3~60.10.24)を終えた後に、戦後最大の冤罪疑獄は差し戻し審判決と検察側の再上告に対する最高裁の棄却で無罪と成った。

件の訓示で独立維持の為の対抗を説いた報道活動・組織ジャーナリズムや一般社会から来る圧迫は、正木ひろし(弁護士, 1886.9.29~1975.1.26)の八海事件(51.1.24)裁判批判にも向けられたが、強盗殺人(山口県熊毛郡麻郷村八海[現田布施町])を裁く1・2審判決(山口地裁, 52.6.2; 広島高裁, 53.9.18)は、正木の指摘通り事実誤認が有り最高裁から差し戻し審を命じられた(57.10.15)。

広島高裁は第2次控訴審で単独犯(吉岡晃[経木製造業者, 当時22歳], 2審で無期懲役確定)以外の4人を無罪にした(1959.9.23)が、最高裁の破棄差し戻し(62.5.19)を受けて2審判決に戻った(阿藤周平[人夫, 同24歳]が死刑, 他の3人[同, 23・21・22]が懲役15・12・同年), 二転三転の末に最高裁で無罪が確定され(68.10.25), 警察の拷問・誘導が生んだ冤罪は漸く晴れた。

17年に及ぶ再三逆転は異論を嫌う田中元長官の74歳の誕生日に終り、正義の執念を燃やした正木は犯人逮捕24周年時に逝った。警察の複数犯説に乗って従犯を装い死刑を免れた男は1971年に仮出所し、76年の殺人未遂で起訴され裁判中に死んだ(77.7.11)。主犯に丁稚上げられ死刑判決を3度受けた阿藤は、田中より5歳長い享年を得た(2011.4.28歿)。

東京地検の出鼻を叩いた飯守決定の異例な所感付言は、政府が中公社の名誉棄損を告発す当し等の激論で行き過ぎと叩かれた。最高裁から注意処分を受けた後も懲りず、鹿児島地方・家庭裁判所所長在任中の所属裁判官への思想調査(1970.12)の過誤で解職され、地方判事への格下げを拒む形で辞職したが、『風流夢譚』事件に関する人々の多難の例に算え得る。

同じ「2.24」に警視庁は制・私服警官約7千人を動員して、6大都市(東京・横浜・名古屋・京都・大阪・神戸)を中心に、14都道府県(他に埼玉・千葉・静岡・岐阜・三重・滋賀・奈良・和歌山)で暴力団一斉取締を行った。約700カ所の搜索, 1846人の逮捕(1~23日の実績を含めて4290人)は空前の規模で、政治的な立場に関らぬ文字通りの暴力団の危害を実感させた。

嶋中宅殺傷の犯人の当日直前脱走も有って、赤尾党首の殺人教唆容疑は立証・立件できず、3月14日に暴力行為(1.30, 中公社に押し掛けて社長・編集部次長を脅迫)で起訴された後, 20

日に保釈で出所し、4月17日に不起訴で釈放された。過激な辻説法（街頭演説）が有名で右翼の街宣車使用の先駆けと成る彼は、嶋中事件の29年後に恐怖活動再燃の平成初に他界した。

小森は反省の態度や更生の余地も斟酌した1審判決に不服で無罪を主張したが、東京高裁控訴審で『風流夢譚』発表4周年の前日（1964.11.9）に懲役15年が確定した。彼は1971年以降の動静が報じられず獄死説も有るが、犯行当時の少年が匿名報道・前科非表示で保護される今や、基礎的な個人情報である存命か否かでさえ被害者を越えた保護で遮断される。

池田勇人は総裁就任日に首相官邸の中庭で右翼老人に由る岸信介刺傷を目撃し、在任中は右翼青年に由る河上丈太郎暗殺未遂が起き、同席の演壇で右翼少年が浅沼稲次郎を殺し、異常者に由る駐日米大使ライシャワー（1910.10.15～90.9.1）刺傷（64.3.24）が凶漢の清国大臣狙撃後69年振りの重大涉外傷害と成り、歴代首相の中で最も多くの要人暗殺に悩殺された。

1.24 外賓「誅撃」、4.14 劇場射殺、6.16 首相殴打、11.13 面会強要、1.26 爆竹投擲

ライシャワーは書記官を従えて大使館の玄関で韓国の特使金鐘泌を待っていた処、急接近して来た塩谷功和（静岡県沼津市在住の精神異常者、19歳）に洋風小刀で右股を刺された。海兵隊員が飛び掛って犯人を押え付け、大使は最短距離0.2*程に在る虎ノ門病院（6年前の同日に設立）に運ばれ、道路渋滞の所為で長い時間が掛り、大出血で極度の貧血状態に陥った。

両国の医師6名に由る大手術は成功したが、約千ccの輸血は売血に由る汚染血液で血清肝炎を起した。東京で生れ育ち日本人（松方ハル、1915.8.6～98.8.23）を後妻に娶った当人は、これで体内に日本人の血が流れると述べ好感を呼んだが、大使辞任・帰国（66.7.25、8.19）後は後遺症に悩み、脳卒中・脳内出血（75・83）に次ぐ持病の肝炎の発症で尊厳死を遂げた。

医療事故の衝撃で「黄色い血」（金目当てで過度の売血を繰り返す人の血液。黄色は肝炎の症状である黄疸と血漿の色）が社会問題と化し、閣議決定（1964.8.21）に由り献血制度が発足した。売血者集めが暴力団の資金源を成した事から米大使は二重の暴力被害を受けたが、彼の流血が契機で露呈した後進性は精神分裂症患者の暴走と共に、世界に恥を曝し出した国辱である。

凶刃を揮う狂人は1月20日に米大使館に放火し警視庁捜査1課に逮捕されたが、精神異常の判明で釈放され関連部署との情報共有も無かった。今回の上京時に母親が凶暴性の懸念を告げた処、鉄道公安室の逸機で早期発見が出来なかった。彼は刑罰を受けず後に入院先の便所で首吊り自殺を果した（1971.1.8）が、諸々の不備に警鐘を鳴らす点で存在意義が有る。

124万人居る精神障害者の野放しを精神科病院への隔離収容で防ごうと言う世論に押されて、厚生省は『精神衛生法』（1950.5.1制定）改正（65.6.30）で社会的入院を促した。大使への朝野の慰問と米国への謝罪、自治相兼国家公安委員会委員長早川崇（衆院議員、後に労働・厚生相、1916.8.21～82.12.7）の引責辞任（3.25）後、外国要人の護衛強化が要務として浮上した。

背伸びすれば簡単に攀じ登れる霊南坂寄りの塀は、放火事件後に正面守衛所と共に厳戒中の派出所からでは死角と成る。刺客が落し穴の有無を確める為10時頃に石を投げ込んだ後、侵入予定地点は隈無く捜査されたが、正午に乗り越えた彼は盲点の植え込みに身を隠した。突進の際に大使の近くの海兵隊員が電話対応中で、幾重もの隙を衝く犯行が遂げられた。

1967年8月31日、若い男が揮発油生油気重合成樹脂取手付き桶状容器を手にして、警官立審中の米大使館正門から堂々と入り、正面玄関に駐車中の乗用車3台を焼失させた。消火に駆け付けた警官は放火の疑いを抱かず、霊南坂方面へ逃げた犯人を追跡しなかった。痘痕面等の特徴と現場に残った指紋が有りながら、検挙に由る失態の雪辱は出来なかった。

赤坂署捜査本部は精神異常・放火・騒擾・米大使館への怨恨等の要注意者720人選り出し、2月に開放病棟に移り事件当時に外出していた塩谷功和を直ちに取り調べた。神田の古本屋に行った事が証明され翌日に容疑が晴れたが、無断外出の発覚で閉鎖病棟に戻された。犯行の9日後に未遂に終わった自殺(東京拘置所, 4.2)は、この再幽閉の3年余りに果した。

右翼団体に入りたくて茨城県結城郡八千代村から上京した18歳の少年が、拳銃強奪の為に上野署員を梶棒で殴ったという派生的事件が塩谷評伝の書に記される。武器入手の目的と成る腐敗政治家の殺害は同県の昔の血盟団の「一人一殺」に重なり、米大使は刺されて当然で山口二矢も塩谷も尊敬する人物だと唱えた模倣犯は、右翼少年量産の土壤を思わせる。

塩谷は高校で級友に言われた東条英機の相貌との相似が憑き物と成り、東条の亡霊や生れ変りを自任して「聖戦」の完遂に挑んだ。25日予定の決行を前倒ししたのは暦の「24日、正午よし」の影響で、敵地で標的を目視で捉えた時も「赤口、正午吉」と呟いた。彼の迷信に由って歴史は厳格に韻を踏み、日本史上の前の外国要人傷害事件と日付が一致した。

69年前の同じ日(1895.3.24)に、日清講和交渉(3.20~4.17)に当る清国欽差頭等全權大臣李鴻章(直隸總督兼北洋通商大臣, 23.2.15~1901.11.7)が第3次談判の後、本国から持参し4人が肩に担いで歩き進む肩輿に乗って、会場(山口県赤間関市[現下関市]の春帆楼[割烹旅館])から宿舎(引接寺)へ戻る途中、小山六之助(69.4.21~47.8.4)の急襲・拳銃発砲で重傷を負った。

犯人は品行の問題で群馬県会議員の父から廃嫡され、慶応義塾の入学→退学を繰り返した後、自由党系の壮士として河野広中(後に衆院議長・農商務大臣, 1849.8.24~1923.12.29)・星亨の政治活動を手伝った。「壮士」の和製語義は明治時代に自由民権思想を唱え歩く者、正義を振り翳して脅迫紛いの行為を働く者と有るが、明治と略同年齢の彼は正道から外れた。

彼は講和が実現すれば清国は再起し日本の仇を成すと考え、東洋で正義を行う日本の最大の邪魔と睨んだ李に凶弾を放った。李は一昨年の露西亞皇太子刺傷事件から多少覚悟しつつも、「両国交兵、不斬来使」(両国が交戦中でも、軍使は斬らない)という中国の常識の所為か、座席の四方の硝子窓を開け放しにしたが、至近距離からの1発で左眼窩下を撃たれた。

警察・憲兵が直ぐ暴漢を制圧し、李は宿舎に担ぎ込まれ随行医者 of 救急治療で一命を取り

留めた。涉外大失態の再発で天皇は勅令を発して遺憾を表し、日本全権弁理大臣の伊藤博文首相・陸奥宗光外相（前農商相、伯爵、1844.8.20～97.8.24）と伊東巳代治内閣書記官長（貴族院議員、後に農商相、伯爵、57.5.29～34.2.19）が謝罪慰問に駆け付け、輿論も惻隠・痛嘆に満ちた。

戦勝国の過激青年が敗戦国の重臣使節を銃撃した凶行は内外の清国同情を齎し、日本は優勢に乗じて停戦ならぬ講和条約交渉を当日に承諾させたのに、再び野蛮な後進国と非難されないよう再開後に譲歩を以て埋め合せた。30日の休戦（3週間）協定調印と「4.17」下関条約締結で李は初渡航の大任を果し、小山は百害有って一利無しの犯罪で国益を損ねた。

関係者の処分は後藤松吉郎県警察部長（生歿年未詳）の懲戒免官（26日）に止まらず、原保太郎県知事（後に福島県知事・北海道庁長官・貴族院議員、1847.8.11～1936.11.2）も辞任した（同）。原は戊辰戦争中に東山道総督随員・上野国巡察使兼軍監として、小栗忠順（幕府の元勘定奉行、1827.7.16～68.5.27）の斬首処刑を自ら強行したが、今度は問答無用の暴挙の被害で失職した。

天皇・昭憲皇后（1869.2.9～1912.7.30在位、旧名一条美子、49.5.9～14.4.9）は見舞の使者に、中村覚（東宮武官兼侍従武官、歩兵大佐〔最終階級は陸軍大将〕、後に男爵授与・東京衛戍総督等歴任、54.3.18～25.1.29）を派遣し、皇后は誠意の徴に御製の緋帯を届けさせた。明治以来の右翼活動家は天皇への尊崇で共通するが、右翼団体参加歴の有る小山は天皇と朝野全体に迷惑を掛けた。

彼は休戦協定成立の日に山口地裁で無期懲役を言い渡され、北海道集治網走分監（1890.7開設、現網走刑務所）に投獄された。収監条件の徒刑・流刑・懲役12年超に満たない内、皇室典範増補制定に由る恩赦（1907.2.11）で釈放された。唯一無二の重要外賓銃撃犯は標的と同じ歿年78まで生きたが、73年後の同じ第1四半期の24日に再び涉外傷害事件が起きた。

1968年1月24日、バイパコフ（ソ連副首相、11.3.6～2008.3.31）が名古屋駅の歩廊^{ホーム}で見送りの桑原幹根（愛知県知事、1895.8.29～91.4.11）と握手する時に、階段を駆け上がった来た右翼活動家（昭和青年の会〔前年4月結成、成員6人〕代表責任者摺^〇某、26歳）が、1疋の袋入りの木刀を振り翳して両者を目掛けて殴り掛り、知事は止めようとして右手の小指に軽傷を負った。

県警公安2課員等に逮捕された犯人は相当過激な行動右翼団体を率い、殺人・器物損壊で逮捕され（1962.7）懲役5年に処され（同12）服役（63.6～66.7）を経て仮出所した。副首相来名（21日）後の警備は当日34人が投入され、公安は一味の動向も警戒したが、彼は課員の自宅行き（8:45）より早く出動し、駅の雑踏に隠れて待ち伏せ到頭出撃の機会を掴んだ。

戦後虐められて来たのに日本人は同高官に媚^{へつら}び諂^{ついで}っている為、北方領土返還の要請状を渡し序に殴ろうと彼は考えた。「奉天命 誅逆賊。義を見てせざるは男なきなり」と記す日章旗も持ったが、誅殺の意志が毛頭無く抜かずの木刀で示威しただけである。明治100周年に際した1件は外国要人への最後の犯行で、李鴻章銃撃以降の銃器不使用は貫かれた。

6年後のフォード米大統領（1974.8.9～77.1.20在任、13.7.14～2006.12.26）訪日（11.18～22）で、シークレット・サービス^(SS)の私服要人警護官の流儀（対象を固く囲み即応態勢を保つ）が警視庁警備部の幹部に開眼させた。

彼は翌年9月5日に無政府主義者フロム（女性、1948.10.22生）に拳銃を向けられた時、SSの俊敏な始動で刺客が捕えられ、3年前の民頭五輪恐怖殺害事件と同日の惨劇を免れた。

彼は17日後に激越な政治主張を盲信したムーア（1930.2.15生）の暗殺に直面し、幸い犯人は前日の逮捕で不法所持の拳銃・弾薬を没収され、当日購入した凶器の不慣れ・未試射で弾着点が僅かに外れた。2発目を撃つ前に群衆中の元海兵隊員シップル（1941.11.20～89.2.2）に腕を掴まれ、弾丸が跳ね返って乗客運送貸切営業用自動車運転手（42歳）に怪我させた。

米大統領暗殺はリンカーン（第16代 [1861.3.4～65.4.15]、09.2.12～同）が初の犠牲者で、南部連合の支持者ブース（俳優、38.5.10～65.4.25）の観劇中の至近距離での犯行（4.14）も拳銃を使った。110年後の未遂銃発は「唯二無三」（「唯一無二」に擬えた造語）の女性に由り、両刺客は終身刑に処され後に仮釈放と成った（2009.8.16 [25年前に認められた権利を放棄した結果]、07.12.31）。

ニクソン失脚後に昇格したフォードの訪日を花道に田中角栄も醜聞で辞任し、椎名悦三郎（副総裁、衆院議員、元内閣官房長官・通産相・外相、1898.1.16～1979.9.30）裁定に由り、三木武夫（07.3.17～88.11.14）が後任を務めた（74.12.9～76.12.26）。彼も就任の翌年に佐藤栄作国民葬（6.16）会場（日本武道館 [1964.9.15完成、10.3開館]）で、大日本愛国党幹部に殴られ負傷した。

正面玄関で葬儀車の到着を待つ首相に、受付付近の人込み中の黒礼服の男が後ろから小走りで近付き、いきなり顔を2回殴り眼鏡を5回も飛ばして仰向けに転倒させた。その党行動隊長筆保泰禎（元航空自衛官、1940.10.25～2005.5.4）は、核拡散防止条約の批准反対と叫び、登山洋風小刀に貼り付けた『自殺勧告書』を持ち、直接渡して死んで貰う心算でいた。

主要右翼団体が結成した「核拡散防止条約阻止共闘会議」のこの5回目の統一行動日に、警視庁は12時半に「筆保等愛国党員が三木首相に自殺を勧告する」との情報掴んだのに、検拳歴81件の犯人が平素の戦闘服ならぬ真面な略式礼服で忍び込んだだけで誤魔化され、事件突発時（13:50頃）の首相身辺の警護員も背後への無防備で襲撃に気付くのが遅かった。

準国家行事の式場内外に制服・私服合せて約千人の警察官が厳戒し、首相周囲警護5人の他に正面玄関附近に私服の公安部員・機動隊員18人が手配された。にも関わらず警備陣は主に首相の前方へ注意し、後方警備係も服装で判断し不審を感じなかった。43年前の上海長節爆殺や前年の韓国光復節暗殺の際の警備陣の油断は、教訓を生かせず又もや犯された。

土田国保警視総監（1922.4.1～99.7.4）は警護の最高責任者として不備を謝り、容疑者が殺意を持っていたら大変な事に成っていたと述べた。首相の肩を軽く叩いてから前に回って右手で打撃を食わせた犯行は、単刀直入で刺したのなら命の保証は無い。犯人の殴打のみで命拾いした結果は皮肉にも、首相への殺意は生じ得ないという固定観念を上塗りさせた。

戦後初の現役首相に対する暴漢襲撃は池田勇人の遊説中（福島県郡山市、1963.11.5）に起き、街頭演説を終えて佐藤善一郎知事（1898.10.10～64.3.23）と記念撮影の写真担当者（カメラマン）を待っている際、大日本愛国青年連盟（62.1結成）会長石本隆夫（元自衛隊員、洋風酒場経営、39.1.10生）が、

突然1分近くまで迫って短刀で刺そうとし、警視庁の刑事と県警の警部補等に阻止された。

当日の『朝日新聞』夕刊の全8版中の第7版を埋めた衆院総選挙（16日後）・事件報道の内、^{トップ}首位（『選挙アルバイトお断り/東京経済大できめる/「教育上よくない」/腐敗に巻込まれる恐れ』の詳報と横に並ぶ関連記事（「通称」は厳正審査/自治省 全国選管に通達/常識はずれ候補）の下に、『刃物持つ男逮捕/遊説中の首相に近づく』（「取押えられた石本隆夫」の写真付き）が小さく出ている。

続く（『ポスターはがした/男捕わる 公設揭示場で』）と共に選挙絡みの厄介事に分類され、左（下位）の同じ東北地方の災禍（『岩手県分庁舎焼く/年金書類ほとんど灰』）は、上記の物の4倍有る大きい写真（「焼け落ちた岩手県第二分庁舎」）で目を引く。地震・火事・雷・親父の4大恐怖に相応しい扱いであるが、国政首脳「親父」への襲撃は暗殺未遂と認識されず軽く見られた。

他の記事（『盗難車、警官を追回す/追跡され反抗 威かく射撃で逃走』『市電同士が衝突/京都で16人負傷』『半開きドアの「殺人」/バイクの男ぶつかる』『留学費欲しさに泥棒/学生、警官を傷つけ捕わる』『中野駅前でもボヤ』『秋葉原駅でも』『ニッケル泥棒つかまる』『反税運動手入れ 中野』）と同列に等しく、続報も無い一過性の挿話として流されたが、12年後の再演で前例の重大性が思い知らされた。

新井（裕、1914.5.13～2008.5.1）警察庁次長（65～69長官）の談話『売名行為か』（「犯人の背後関係は十分調べるつもりだが、おそらく売名行為ではないかと見られるフシが強い。このようなことが、とくに総選挙の際をねらって行われたのは残念だが、実態以上に過大視しない方がよいと思う）は、犯人自供の殺意と危険な肉迫、刑事（阿部富治、40歳）の負傷に鑑みれば矮小化の嫌いが有る。

暴漢の出現に驚く素振りを見せず蹴飛ばしてやろうという気概が伝えられた首相が、13日に京都で自民党講演会を終えて宿泊先に戻った処、「民族青年隊」総本部と名乗る男等10人が押し掛けて内容・理由の説明を求めた。夜9時半から2時間も粘った護衛警官との押し問答の末に、面会の強要を諦めて退散したが、総選挙前の不穏な空気を改めて感じさせた。

同夜の共産党政談講演会（大阪市）で野坂参三議長が演説を始める直前（9:10頃）、最前列に坐り盛んに野次を飛ばした中雄晶弘（1944.3.17生）が短刀を抜いて登壇襲撃を試み、傍の聴衆7～8人に押えられた。彼（元大日本護国団[1954年結成] 尼崎支部青年行動団員）は政治家（特に日共側）に不満を抱き、殺す心算は無かったが若し死ぬに至っても已むを得ないと考えた。

犯人が用心深く2日前に脱団届を用意した組織は、浜口首相の暗殺者佐郷屋留雄と「一人一殺」の推進者井上日召が立ち上げ、野坂初体験の凶器使用の日は33年前の佐郷屋「11.14」銃撃と「時環」で繋がる。深秋の11月は再び多事の秋と侵襲の季節と成ったが、石本隆夫が在籍した大日本愛国党の「武騷」（「物騷」を振り武闘・騷乱を表す造語）根性が再確認できた。

党員約300人（1975）の集団は左翼粉碎と保守腐敗政治・財界粛清で「日本主義」愛国維新を志し、親米反共路線の暴走はミコヤン（ソ連閣僚会議第1副議長 [筆頭副首相]、64～65最高会議幹部会議長 [国家元首]、1895.11.25～78.10.21）殺害予備（61.5.19）、グロムイコ（ソ連外相、83～85/～88筆頭副首相・元首、09.7.18～89.7.2）訪日一行の車への爆竹投擲（72.1.26）を敢行した。

入党(1962.2)が石本より11ヵ月遅い筆保は過激行動で名を上げ、藤山愛一郎(衆院議員、元日本商工会議所会頭・外相・経済企画庁長官、1897.5.22~85.2.22)一行の訪中を妨害する為に、東京国際空港(大田区羽田、31.8.25開港[旧称東京飛行場、52.7.1改称])に空港職員を装って硝酸を持ち込んで捕まった(72.3.22)等の前科も有り、危険人物として何時も警察に尾行されていた。

元首相国民葬の日に警視庁は朝から党本部を張り込み、宣伝車^{カー}で街頭に繰り出す党員の動向を把握したが、筆保は早め(6時過ぎ)に抜け出て監視網を擦り抜けた。老子の「天網恢恢、疎而不漏(疎にして漏らさず)」は、天の網は广大で目が粗いながら悪人を漏らさず捕えると説くが、悪事摘発の安全網^{セキュリテイ・ネット}は今回策^{ぞる}や節穴の様な疎漏が重なって機能し切れなかった。

警視庁は首相殴打の失態と米大統領暗殺の衝撃から要人警護部隊^{セキュリテイ・ボリス(SP)}を創り(翌年9.13)、警護課所属の173名は短銃を散ら付かせ特殊警棒を見せる威嚇態勢で重任に臨んだ。見当り捜査(対象の顔写真や外見の特徴を憶え、雑踏^{おほ}や思しき場所で発見する手法)の導入(1978、大阪府警が初、警視庁刑事部捜査共助課に班新設)は、顔認証ならぬ「服識別」(造語)の愚との決別を象徴する。

11.1 火炎瓶投擲, 明治 / 昭和 / 平成 4 年の連環, 「黒い 3 月」の凶行頻発

次の首相遭難は3年半後(1978.12.18)に官邸の公邸(年始接客用)玄関前で起き、大平正芳帰宅の為に車に乗ろうとした処(17:13)、随行の報道陣・警備陣に紛れ込んだ若者が「この野郎^{やろ}ッ」と叫びながら、登山洋風小刀^{ナイフ}を構えて体当りに挑んで来た。両脇の要人警護官(杉森侑警部・伊藤征治巡査部長[43・35歳])が猛進を寸前に止め、制圧の際に手や指に傷を負った。

犯人の広口某(元国土館大生・国防青年隊[行動右翼団体、1974.10結成、約15人]隊員、21歳)は、「現政府はただやみくもに国政の混乱を導くだけだ」等と書いた『激(橄)^{ママ}』を携えて、未明3時半頃に官邸附近の坂下門警備派出所脇から官邸の石垣(高さ3.85^m)を登り、上に在る鉄柵(同2)を乗り越えて入り込み、植え込みの中に身を隠し朝までじっと潜め続けた。

1972年2月から官邸周囲約800^mの堀の上に警報装置が付けられ、猫も堀の上を歩くと邸内3ヵ処の警報呼鈴^{フザー}が鳴り出すが、首都高速道路に面した東南の角の約80^mには張っていない。派出所辺りの警察の目も有って高い堀は越えられないと油断した所為で、犯人は最初の関門を突破して内側に下り、通常内外60人超の警備陣に気付かされず潜入に成功した。

彼は徽章も無いのに警官が見た中で玄関横の首相番記者用部屋^{もく}に潜り、記者等が詰め始めた9時過ぎ頃には電灯も点けず長椅子に眠り倒れていた。紺の背広上下・好く磨かれた靴で身を固め、出入りが激しい午前から記者室を熟知する様な落ち着き振りで居座り、記者から身分を問われると、『東洋新報』(岐阜市に在る月刊誌)嘱託の速記者^{かな}を騙って切り抜けた。

竹内一郎(著述家、1956.5.24生)著『人は見た目が9割』(2005、ミリオン・セラー)は、非言語感情交流・意思疎通(外見・表情・様態・動作・距離等)の肝要を説く主旨から離れて、外

見が印象の9割を決めるという狭義的な認識の流行を齎した。大衆の受容は身形を重んじる社会の常識に基づき、今度の関係者の見落としも服装で誤魔化された複数の前例の轍を踏んだ。

8時間超の閉じ籠りを含む13時間半の隠忍の後に機会が到来し、両側・後ろの大平番記者等と要人警護官（5～6名）に囲まれる中で、首相が車まで後2^{メートル}の処に進むと、犯人はその前に立ち開る^{はだか}様に突進して出た。要人警護官班^{キャプテン}長杉森は「随分失礼な奴だな」と思い、その右腕を掴んで立ち止る様にしたが、途端に手の先に光る刃物が見えて殺意を悟った。

犯人は制止を振り切って刃物を腹辺りに持ち直して再び肉迫しようとし、押し被る様に殺到する警備陣に封じられたが、面前の首相と肩が数回ぶつかり合う程に標的に届いた。無傷の首相も蒼褪めた一幕は無^{あおざ}法者^{もの}を無礼者と見た警部の認識の甘さを思わせ、不審者の侵入^{ノーチェック}を無審査で野放しにした官邸絶対安全の信仰は、「5.15」「2.26」の陥落以上に破綻した。

犯人所属（1976.10入隊、今秋脱退）の組織は暴力事件を多く起し警備当局に危険視されたが、当人は恐喝・暴力行為に由る逮捕2回の他に右翼行動の犯罪歴が無く^{ノー・マーク}非要警戒であった。改革・開放の起点と成る中共11期3中全会の初日に巡り合せた日本の枢要への打撃は、中国の現代化建設の加速（翌年12.5、鄧小平が大平に宣言）に逆行する後の凋落を暗示した。

10年後の真珠湾攻撃47周年の前日（1988.12.7）、長崎市長本島等が定例市議会の答弁で、昭和天皇の病氣回復祈願記帳所開設に就いて「天皇にも戦争責任は有る」と述べた。その所為で自民党長崎県支部連合会が17日に彼の顧問職を解任し、「天誅」と吠える右翼も21日に各地から62団体・260人が乗り込み、82台の街宣車を連ねて^{ごうごう}囂々たる非難を展開した。

平成初の7ヵ月（1989.2～9）に右翼の抗議・恐怖活動（市役所への銃撃[3.30～31の間]等）が多発し、長崎署は市長身边に私服署員4人、公舎に制服警官4人を配した。鎮静化後の本人希望に由り13日から重点警邏（警邏時の市役所・公舎への立ち寄り）に変わり、大集会出席時に私服警官3～4人を付ける事としたが、外出予定が無く警備が付かない日に事件が起きた。

冷戦終結の10日後の警護解除から36日経って、本島が市役所玄関前で目の治療に車へ乗ろうとした時（1990.1.18、15:01）、背後から歩いて来た右翼団体幹部が1.5^{メートル}の距離で1発銃撃した。弾丸が左胸部を貫通し全治1ヵ月の重傷を負わせ、被害者に「大丈夫か」と声を掛けた田尻和美（正氣塾[1981.4結成]東京本部長代行、49年生）は、逃走後の同夜に逮捕された。

彼はテレビ朝日『モーニングショー』の右翼団体関連の特集（1987.5.14）に出演した際、意見が異なる人に対し恐怖行動^{テロ}に訴える事が有るのかという質問に、有ると肯定した上で右翼は矢張り恐怖行動だからと悪^{わる}怖^びれずに言って除けた。大久保利通暗殺109周年に当る時機の暗示的な意味は改元の377日後、彼が決行した戦後初の要人銃撃を通じて現れた。

彼は前年に東京の会社から賛助金名目で金を強請ると計画し、暴力行為の容疑で同志3人と共に逮捕された（6.19）が、懲役12年（1991.9.7福岡高裁控訴審判決確定）に処された今度の犯行は次元が違う。言論封殺の為の山本宣治密室刺殺と31年後の浅沼稲次郎公然刺殺の29

年後に、右翼の要人暗殺は致死に至らなかったものの銃器使用の極度危険水準に突入した。

江戸末期の慶応（1865.5.1～68.10.23）4年の改元で日本の近代史が幕を開けたが、同じ「維新の10傑」中の木戸孝允と共に長州藩を指導し幕府を倒した広沢真臣（参与・民部大輔・参議等歴任、33.2.7～71.2.27）が、明治4年（71.2.19～72.2.8）初頭に私邸で刺殺された（未解決事件）。「死」と同音の4の不吉を現す様に、昭和4年（1929）にも「3.5」山本宣治暗殺が起きた。

日清黄海大海戦20周年に生れた陰の実力者金丸信（自民党副総裁、衆院議員）が、平成4年（1992）3月20日に栃木県足利市で演説した後、演台を降りて山岡賢次（衆院議員、2011～12年国家公安委員長、43.4.25生）と握手する直前、客席4列目から男が飛び出て走りながら3～5^{メートル}の至近距離から拳銃で3発撃ち、演壇の真下で後援会関係者・私服警察に制圧された。

「政界の首領」^{ドン}金丸は田邊誠（社会党委員長・衆院議員、1922.2.25～2015.7.2）と共に、両党代表団を率いて北朝鮮を訪問し（1990.9.24～28）日・朝3党共同宣言に調印した。関係改善の為に植民地支配を謝罪し国交樹立時の戦後45年まで及ぶ損失賠償を表明した事で、右翼から「土下座外交」「売国奴」等と糾弾され自宅への火炎瓶投擲事件が起きた（91.11.1未明）。

犯人（徳[□]某、高知県在住の無職・右翼団体「一水会」[1972.5.30結成]元成員、26歳）の誤認で、隣の竹田恒泰（政治評論家・著述家、明治天皇の女系玄孫、75.10.24生）宅の^{ガレージ}車庫に投げられた。12日に新右翼団体「統一戦線義勇軍」（1981.9.23発足）元成員（内[□]某、元地方公務員、38歳）が、日本刀所持の儘で金丸宅前に自家用車を降り警官に制止されると火炎瓶を車内に投げた。

次期衆院選（翌年）出馬予定の自党代議士を励ます会への出席は通常政治活動であるが、要警護度と事前情報から会場（市民会館大広間）内外に48人の警備要員が厳戒に当たった。身辺警護係11人と右翼確認係10人等の布陣の内、壇上に12人を配し、壇上の縁に暴徒が跳び上がれない様に植物小鉢を置く等の入念振りも、未然防止・水際阻止に繋がらなかった。

面割りで警視庁の要員が居らず県警が東京の右翼に疎い故その入場は見逃され、^{グレー}灰色の背広姿で聴衆を装った犯人は約2千人の群れに紛れ込んで前方に陣取った。聴衆の最前列に居た警備要員は壇上を向き、聴衆を注視する要員は金丸に背を向けた為、犯人は両者の間に付け込んで演壇縁に駆け寄り、直ぐ近くの要員は背後から虚を衝かれ制止できなかった。

銃撃の予想を欠く警備陣も金丸も最初は爆竹の音と勘違いし、満場が呆気にとられた中で横手から飛び掛った警備陣が男を^{からだごと}体毎に押えた。手から凶器を没収した警官の「真正拳銃！本物だ！」の叫びは、犯行手段の「真（正刀）剣」→「真（正）銃」の^{グレート・アップ}等級上昇の認識を表し、抜いた拳銃や発射の瞬間が出席者撮影の録画で人々の目に触れたのも画期的である。

「宮澤（喜一首相）批判は有るが、泥船に乗って海に沈むのも已むを得ない。命を懸けて^や行るのが政治だ」と熱弁した金丸は、「命を懸けて」と繰り返した演説の直後に命を脅かされた。1発目は金丸の体を掠め、2発目は演台の左上部を貫き、3発目は金丸の後方約10^{メートル}に掲げられた集会看板に当り、金丸は警官の指示で身を横たえ他の人と共に無傷に済んだ。

「国賊」討伐を自任した渡辺浩 (24 歳) は憂国誠和会 (1987.10 結成, 成員約 10 人) に属し, 同行動右翼団体の者の先行事件 (88.1.8 に不正融資への抗議で第一相互銀行 [51.10.20 発足] 本店にダンプ・カーで突入, 8.22 に自民党本部に日本刀を持って侵入, 2 名とも逮捕) を超えて, 与党の No.2 に発砲し短銃に残った 2 発も撃てたら惨事に成りかねない (後に殺人未遂罪等で懲役 12 年)。

戦後初の政府要人狙撃と首相・閣僚・与党重役等演説中の犯行は当局には晴天の霹靂で, 警察庁の強化指令に由り要人警備態勢が是正され, 対象者に注目し不審者の接近を警戒する方式から, 背面配置で対象者と同様に聴衆群を向く対面警備に切り替えられた。凶器の持ち込みを防ぐ金属探知機の導入も, 遅れ馳せながら各地の警察本部で初めて導入された。

昭和末の半年間に右翼の攻撃が激化し, 菊守青年同盟 (1971.6.25 創設, 本部=東京) 大和思誠塾塾長立□某 (44 歳) の第 65 回日教組定期大会予定会場乱入・発砲 (88.7.14) が第 1 弾と成った。犯行者は 9 年置きに福岡再開催を市民への迷惑と捉え労働福祉施設の会館事務室で扉へ 1 発撃ち, 蟬谷に銃口を向けて喚いた後に警官の説得で実弾 5 発入りの銃を置いた。

平成の先陣 (1989.3.5) は, YP (ヤルタ・ポツダム) 体制打倒青年同盟 (77.3 発足, 本拠=東京) の水□某 (22 歳)・長□某 (同, 九州雷鳴社 [右翼団体, 結成年未詳, 同=宮崎県宮崎市] 成員) が切った。2 人は「戦後体制を打倒せよ」と書いた宣伝紙片を持ち, 混合油入り桶状容器 50 個搭載の 2 噸貨物自動車で首相官邸への突入を図り, 塀にぶつかって放火予備の現行犯で逮捕された。

実体不明の当団体の経済団体連合会 (1946.8.16 発足) 事務所籠城 (77.3.3~4) は, 桜田門外の変 (安政の大獄 [1858~59 年の幕府の反対派弾圧] の肅清 [尊王攘夷派人士の投獄・処刑等] を恨んだ水戸藩浪士 17 人・薩摩藩士 1 人が, 江戸城内の桜田門外で井伊直弼 [幕末の大老, 彦根藩主, 15.11.29~60.3.24] を暗殺した事件) の「3.3」(旧暦) に因み, 今回の「3.5」騒擾も此等に合せる姿勢で行われた。

直弼は大名行列の出発前に不穏者の情報を掴みつつ, 警備強化は失政の印象を与える故に無視したが, その過誤で手薄の護衛が駕籠への銃撃・斬刺に抗せず惨死した。西暦の「3.24」は 1895・1964 年の涉外要人傷害と同じ日付で, 昭和末~平成初の「7.14」「3.5」襲撃は岸信介刺傷 (井伊直弼暗殺 100 年後) 28 周年, 山本宣治・団琢磨暗殺 60・57 周年に巡り合せる。

世界大恐慌の前夜・最中に当る 1929・32 年の 3 月 5 日に山本宣治・団琢磨暗殺が有り, 前者の 35 年後の「3.24」ライシャワー刺傷, 後者の 40・60 年後の「3.22・20」藤山愛一郎襲撃未遂・金丸信狙撃と合せて, 昭和・平成暗殺史の「黒い 3 月」が浮彫に成る。啓蟄 (3.6) 直前の「特異日」の様な再現と共に, 3 度も現れた「特異旬」(造語) が注目に値する。

金丸狙撃は泡沫経済崩壊 (第 1 次平成不況, 1991.3~93.10) の 6 合目に起き, 大恐慌時代の 1929・32 年の「3.5」暗殺と同じ 3 年間隔の凶行は, 「第 2 の敗戦」元年 (95) の「3.30」(木) に現れた。警察庁長官國松孝治が朝の出勤で高層集合住宅を出て専用車に乗ろうとした処, 20 余に超も離れた場所からの拳銃 4 連射中 3 発で腹部等を撃たれ危篤状態に瀕した。

オウム真理教に由る坂本堤弁護士 (1956.4.8~89.11.4)・妻都子 (29 歳)・長男龍彦 (1 歳) 殺害,

長野県松本市内神経瓦斯サリン使用大量殺傷 (94.6.27~28, 戦争状態に無い国で化学兵器並みの毒物を市民に対し無差別にばら撒く世界初の蛮行, 死傷各8・約600人) に続いて, 95年3月20日に東京地下鉄構内サリン大量殺傷が行われ, 2日後に警視庁が教団への強制捜査を始めた。

1992年「3.20」副総裁狙撃・72年「3.22」代議士襲撃未遂と日付が重なる事件は, 破壊力が右翼・極左組織や暴力団を凌ぐ邪悪勢力対国家権力の死闘と言える。残虐性・危害度が証明された社会の敵と存亡に関する攻防を展開する中で, 警察の総指揮官が護衛2名(荒川区南千住署署員, 当時身辺に不在)体制で自宅を出入りしたのは, 平和惚けと誹られても仕方が無い。

犯行の1時間後にテレビ朝日にオウム真理教捜査の中止を求める脅迫電話が掛り, 井上幸彦警視総監(警視長警備部長等歴任, 1937.11.4生)・大森義夫内閣情報調査室長(同公安部長等, 39~2016.9.11)が次の標的に挙げられた。1932年「2.9, 3.5」暗殺を遂げた血盟団も対象者名簿に, 大野緑一郎警視総監(後に朝鮮総督府政務総監・貴族院議員, 1887.10.1~85.9.2)を入れた。

昭和7年の「3.5」は閏年の「2.29」が有る故, 同4年の犯行の「2.9」の25日後に当る。平成4年「3.20」金丸銃撃に次ぐ同7年の「3.30」國松銃撃は, 日付が恰度25日間隔の「2.9→3.5」の延長線に在る。63年前の「一人一殺」は総監の刺客も空席の儘で不完全燃焼に終わったが, 今回は単独犯の一撃が警察首脳を倒し瀕死(緊急手術中3回心臓停止)に至らせた。

金丸攻撃の火炎瓶誤投を食った竹田恒泰は山本七平(1921.12.18~91.12.10)と縁が有り(『語れなかった皇族たちの真実』で第15回山本七平賞受賞, 2016)が, 彼の評論家・出版人は『日本人とユダヤ人』(「イザヤ・ベンダサン」名義, 70)で, 水と安全は無料だと思ひ込む同胞の幻想を斬った。金丸銃撃の凶器進化为想定外だった警察は, 長官に銃を向ける筈が無いと軽視した。

安全確保の為に洋風宿泊施設滞在の出費を惜しまぬ猶太人の用心と比べて, 護衛嚴重の官舎に移る準戦時体制を取らぬ所為の被害は, 正に無料ほど高い物は無い。恒久の安泰を信じる「高枕無憂」(枕を高くし憂い無し)は, 「有備無患」(備え有れば憂い無し)に勝らない。警戒・洞察を名称に含む警察の名が泣く警備輕微の代償で, 日本の安全神話が粉碎された。

李鴻章銃撃(1895.3.24)犯の無期懲役判決(同30)の100年後に警察庁長官が狙撃され, 現場に残った朝鮮人民軍の徽章と韓国の10^{バツ}硬貨が謎を深めた。身を挺して守った田盛正幸(長官官房総務課課長補佐・長官秘書官, 1951年生)の最終職位(大分県警本部長に次ぐ同警備局外事情報部[2004.7.1設立]国際テロリズム対策課長)は, 恐怖活動の国際化・尖鋭化を思わせる。

翌年の信者小杉敏行(警視庁本富士署巡查長, 1965年生)の犯行自白(5.4)で, 教団の凶弾と見立てた捜査が新局面に入ったが, 警視庁公安部は醜聞隠蔽の為に5ヵ月も警察庁に報告しなかった。内部告発で公安部長更迭(10.29)・総監引責辞任(12.3)と成ったが, 懲戒免職(11.28)の当人の勤務先(文京区)は曾て國松が署長を務めたので, 身から出た錆の感がある。

物証の欠如と供述の矛盾で見送られた捜査の再開後, 彼は他の元教団幹部3人と共に逮捕された(2004.7.7)が, 東京地検は公判維持困難の見通しから嫌疑不十分で不起訴処分にした

(9.17)。警察 22 万人の頂点への銃撃，法治国家への挑戦は厳しい追及に関らず迷宮入りとなり，殺人未遂の公訴時効（15 年）到来で捜査は終了し縦令犯人が判明しても裁かれない。

10.4 罵声叫喚・発煙筒投擲，2.13 警棒乱打，10.20 気絶失語・発砲憤死・場内乱闘

時効成立の前に警視庁刑事部の主導で浮上した有力容疑者の中村泰（服役囚，1930 年生）は，高校進学後に橘孝三郎（政治運動家・農本主義思想家，1893.3.18～74.3.30）主宰の私塾で愛国教育を受けた。超国家主義者の橘は「5.15 事件」で愛郷塾（1931.4.15 創立）塾生 7 人を率いて変電所を襲撃し，爆発物取締罰則（1884.12.27 公布）違反・殺人・殺人未遂で無期懲役と成った。

中村は 26 歳時に革命活動の資金調達で銀行強盗を企んで警官を射殺し，橘の放免（1940 年恩赦）と似て無期懲役も 19 年後に出獄した。狂信集団の恐怖犯行を許した警察の長官を撃って撲滅を加速させたかったと言うが，再度の無期服役（現金輸送車襲撃強奪・警備員銃撃致傷 [2002.11.22.名古屋] 等の罪）中の告白は，殺人未遂の嫌疑不十分で不起訴と成った（10.10.25）。

中村は初回長期服役中に野村秋介（新右翼・民族派活動家，1935.2.14～93.10.20）と交流し，野村は師と仰ぐ三上卓が関った「三無（無税・無失業・無戦争）」政変（国会襲撃・要人暗殺・政権樹立）計画の摘発（61.12.12）の年に愛国道志会を創り，河野一郎（前農林相，現建設相）宅焼討（63.7.15）を起し，千葉刑務所（刑期 10 年超の重罪初犯男子監獄，1873.7 前身設立）に入れられた。

河野が名神高速道路開通式（翌日）に出席する為に京都へ出張中，彼は松野卓夫（会員，25 歳）と共に私邸に侵入し，秘書 2 人・家政婦 1 人に拳銃を突き付けて脅かし，外へ逃がした後新築木造家屋を全焼させた。自民党の派閥抗争を激化させた河野の反省を促す為の敢行と自称したが，殺意が無いものの許し得ない蛮行で懲役 12 年に処され仮釈放も無かった。

河野は建設相（1962.7.18～64.7.18）・副総理兼五輪→スポーツ担当大臣（～65.6.3）として，東京五輪向けの道路・施設建設と開催に敏腕を揮ったが，40 年五輪の返上も彼が最初に唱えた（衆議院予算総会，37.3.20）。その急先鋒の推進が寄与した閣議決定の 25 年後の同じ「7.15」に，8 年後の第 1 次ニクソン衝撃等と波乱が多い日に戦中も無傷だった私邸は放火された。

1 ヶ月後の第 2 次ニクソン衝撃は 26 年前の衝撃的な玉音放送と日付が重なるが，終戦 61 周年の同日（2006.8.15）に加藤紘一（衆院議員，防衛庁長官等歴任）の実家・事務所（山形県鶴岡市）が，大日本同胞社（右翼団体，1977.9 結成）幹部堀米正廣（東京在住，65 歳）の放火で全焼し，幸い母親於信（97 歳）が外出中で，事務所職員（1 人）も逃げ出し人身の被害は無かった。

小泉純一郎が首相の靖国神社公式参拝（21 年振り）を行った当日，犯人は昔の小泉「8.15」参拝を批判した加藤への抗議で蛮行に走った。無施錠の玄関から侵入し寝室に揮発油を撒いて点火した後，包丁で自殺を図り腹に切り傷を負わせ，煙で気管支に熱傷が出来た。民主主義に挑戦する卑劣な言論封鎖の為の放火・失火の罪で，懲役 8 年に処された（翌年 5.31）。

彼の所属政治団体は若い成員を中心に主に反皇室活動への対抗を展開し、過去に威力業務妨害や暴力行為の容疑で逮捕者を出し、暴力団の資金提供・幹部派遣を受けた。1982年に成員が関連団体を結成し対ソ連・日共活動を行い、92年に同関連団体の成員桑原裕介(27歳)が天皇訪中(10.23~28)反対を訴えて、宮澤喜一首相私邸前で切腹自殺未遂事件を起した(7.28)。

第47回国民体育大会秋季大会開会式(山形県天童市,1992.10.4)で天皇が言葉を述べる際、統一共産連盟(61年結成)成員操□某(44)が「天皇訪中反対」等と喚きながら、観客席からトラックロイヤルボックスへ発煙筒を投げた。直前にも数人が「天皇は要らない」等の叫喚で退去させられ、新左翼過激派の妨害示威は反対側から平成4年の殺伐を印象付けた。

同年の建国記念日に、相原修(赤尾敏先生遺訓継承大日本愛国党成員,1970.5.8~2009.9.6)が金権腐敗打破を叫んで自民党本部に殴り込み、拳銃1発を撃って総裁室に立て籠り、7時間後に説得され逮捕された(懲役5年)。与党首脳執務室の易攻即落(「難攻不落」を振った造語)は驚くべきであるが、元自衛隊員の節度で103年前の森有礼暗殺の様な犠牲は出なかった。

野村秋介は出所後1974年に大悲会(三上卓の号「大夢」に因む名)を立ち上げ、3年後にYP体制打倒青年同盟名議で3同志と共に経団連事務局を占拠し、戦後初の右翼に由る財界襲撃の代償で6年間囚われた。後に門徒3人が営利至上主義・大企業の土地買い漁りを肅正する名義で、住友不動産(1949.12.1設立)会長(安藤太郎,10.1.3~2010.5.9)宅を襲った(87.1.13)。

1986年6月17日、糸山英太郎(前衆院議員,42.6.4生)が総選挙(7.6)立候補総決起大会(埼玉県秩父市民会館)の後、支持者に囲まれ握手する時、中に紛れた石□某(山口組系暴力団後藤組[69~2008]内良知組[81年発足]幹部,39歳)が、「糸山、この野郎」と叫んで洋風小刀を振り上げ胸を狙って来た。後援会関係者が制圧したが、糸山は凶器を左手で払って負傷した。

株式会社戦勝利や上位長者入りで有名な糸山の受難は、前年の選挙資金集め集会「新日本フォーラム」と参加券販売を巡る紛糾に因り、野村秋介が一部の券を引き取って暴力団に流し、糸山は集会潰しを阻む為に野村・後藤忠政(後藤組組長,1942.9.16生)と話し合い、感情の対立から後藤組傘下の者が襲ったとされるが、後の和解と共に野村の存在感が際立つ。

26年前の「6.17」河上丈太郎社会党顧問暗殺未遂と通じる右翼の同党攻撃の恐怖活動は、1989年5月12日(露西亞皇太子刺傷98周年の翌日、大久保利通暗殺111周年の2日前、犬養毅射殺57周年の3日前)に、近代初の外国要人襲撃事件が起きた天津に在る県立滋賀会館大広間の演壇で、山口鶴男(社会党書記長、後に総務庁長官,25.10.4~2015.8.3)等を標的に行われた。

党県本部主催の「きれいな政治を創る県民のつどい」で、参院選(7.23)立候補予定の中村鋭一(元放送員・参院議員、後に参・衆院議員各1期,1930.1.22~2017.11.6)等につき、山口が壇上中央で挨拶を始める直前に、聖魂塾(行動右翼団体,84.8結成,本部=天津,塾生14人)の2人(井□某[28歳]・某[土木作業員,19])が舞台上に駆け上がり、実力阻止の警告を乱暴に実行した。

井□某は右側の雑壇に坐る中村を傘で一撃して左眼上の裂傷・流血に至らせ、更に猛然

と山口に飛び付き首を絞めるよう体当たりし左翼まで飛ばした。山口は転んだ方が安全と柔道の受け身で倒れ、遅れて走って来た某も仲間の下敷と成る彼に襲い掛った。私服警官等の制圧・救助で直ぐ再開したが、第125代天皇即位の125日後の暴挙は平成の不穏を示した。

秩父郡市総決起大会に出た浜田幸一（自民党副幹事長, 1928.9.5～2012.8.5）は90年2月13日、総選挙（18日）立候補者として千葉県君津市で個人講演会を終えた後に公民館外で殴られた。鉄製特殊警棒で頭5針縫い・全治10日の傷を負わせた鶴口某（27歳）は、稲川会（指定暴力団、総本部＝東京、1949.4発足）系渡辺組に属し、浜田（元同会成員）嫌いを動機とした。

翌日に55歳と成った野村秋介は1992年に横山やすし（漫才師・芸能人、44.3.18～96.1.21）等と共に風の会を創り、代表として参院選（7.26）比例区に出馬したが落ちた（0.49%の221660票獲得）。山藤章二（似顔絵作家・諷刺漫画家、1937.2.20生）に「虱の会」と揶揄され（『週刊朝日』[22.2.25創刊]7月24日号[15日発売]掲載作品）、掲載誌と母体の朝日新聞社への怨念を強めた。

彼は作者に抗議し詫び状の心情を諒としたが、刊行元の謝罪文掲載（12月18日号[9日発売]）後も追及を罷まなかった。偏向報道を批判する中江利忠社長（1929.10.4生）宛の抗議文（10月）で願った面談は、1年後に同社東京本社で経営陣と決着を確認する形で実現し、当日の公開討論会（10.20、都内開催）で出版局長が釈明・謝罪し問題を収束させる運びと成った。

野村は本題を済ませた後に日本経済や俳句に就いて和やかに懇談中（午後0:45頃）、突然「朝日新聞と刺し違える」と繰り返して嘯き、和服の中に忍ばせて置いた短銃2丁を取り出して、皇居の方向へ向いて「皇尊弥栄」（天皇陛下万歳）と3回叫び、「ターッ」と気合を入れる掛け声と共に両脇腹に3発撃ち、建国記念日と数が重なる時分（同2:11）に他界した。

彼は戦後民主主義や国家観・天皇制等に関する持論を展開し、同日刊の自著『さらば群青——回想は逆光の中にあり』を贈呈し、「戦闘的ナショナリストの“遺書”」（帯の宣伝文句）を命で完結させた。同行の4人中の1人に「結婚式に出られないので」と熨斗袋を渡し、息子に男が節義を全うする事の意味を問い掛ける等、「公約」履行の覚悟・律儀を見せ付けた。

後編が鳴中事件を誘発した大江健三郎の『セヴンティーン』の前編は、掲載（『文學界』1961年新年特別号[60.12.8発売]）広告で「右翼へ走っ/た少年の灼/熱のドラマ」と要約された。真珠湾奇襲19周年時に踊り出た煽情的な「惹^{キャッチ・フレーズ}句」に擬えて言えば、『豊饒の海』最終巻脱稿日に自裁した三島由紀夫と対を成す様に、野村は右翼を貫いた壮士の凄絶な結末を演じた。

今後の民族派の使命を語る同時刻の公開討論会への出席を止めた挙動は、余りにも唐突・不可解で自己顕示欲にも帰された（堀幸雄[右翼評論家、1929年生]）が、大物右翼の流儀に相応しい他者を銃撃せぬ自害は強烈過ぎで、山藤の諷刺挿絵連載は異例の白紙掲載（11月5日号[10.26発売]）と成り、元々減多に無い右翼を皮肉る漫画は野村の死と引き換えに絶滅した。

山藤はテレビ朝日系列の『徹子の部屋』（黒柳徹子[女優・芸能人、1933.8.9生]司会の長寿対談番組、76.2.2～現在、毎週月～金曜日）の翌日に登場する予定であったが、野村が自殺を図ったと報じ

る当日の『朝日新聞』夕刊に出た予告は、翌日の朝刊で賓客が小林亜星（作曲家・作詞家・芸能人、32.8.11～2021.5.30）に差し替えられ、93日後に蔵入りが漸く解除された（翌年1.21）。

件の交渉開始と同じ時刻（午前11:40）から、皇后の誕生日（59歳）祝賀行事（皇居・宮殿）で3権の長が天皇に祝賀を捧げたが、皇后は赤坂御所で出発前に心労で倒れた（10:25）。『宝島30』（1993.5.8創刊）8月号（7.8発売）の暴露記事（大内紀〔仮名・宮内庁勤務〕『皇室の危機——「菊のカーテン」の内側からの証言』）で口火を切った人身攻撃が、この日に心因性失語症を起した。

『週刊文春』創刊特大号（1959.4.8）の広告に「あさっては/皇太子さま/のご結婚」と大写真しし、冒頭の特集記事『孤独の人に最良の日』も御祝儀の色も濃い。標榜の戦闘的な性格（誌名の上に記す「文藝春秋を大き/な航空母艦とす/れば『週刊文春』/は、その甲板か/らとび立つ超音/速のジェット機/です」）は、「噴流」に当る中国語の「噴気」の様に怒気・毒気を皇室へ噴射した。

台風常襲期の集中豪雨めく3連撃（9月18・23・30日号〔9・16・22日発売〕の『訪政直前の記者会見で/美智子皇后が「ムッ」とした/ある質問』『昭和天皇が愛した/皇居自然林が/丸坊主^{バウシング}美智子皇后の/ご希望で』『宮内庁 vs. 防衛庁に発展か/天皇・皇后両陛下は/「自衛官の制服」がお嫌い』）で、「女帝」非難の過熱が皇后の異変と右翼の攻撃を招き、批判論は皇后失語への同情にも抑えられ忽ち退潮した。

皇后の発語力回復の第1声は宮内庁発表（1994.2.18）に拠れば、13日に小笠原諸島父島で発した「次の波が来ると亀は海に帰るのね」（青海亀放流の際に「あれが私の放した亀」と言った子供に掛けた言葉）と成ったが、実際は前日に天皇と共に硫黄島で戦没者慰霊を終えた直後の「御遺族の方たちは、皆さん元気でお過しですか」（東京都遺族連合会会長に訊く安否の確認）である。

梯久美子（記録文学作家、1961年生）の秘話満載の記録（『慰霊の旅と失語症状回復の真実——美智子皇后と硫黄島 奇跡の祈り/二万人日本兵が戦火に倒れた玉砕の島で皇后は失われた声を取り戻された』、『文藝春秋』2006年8月号〔7.11発売〕）で、官製発表に蔽われた真実が明るみに成った。建国記念日の翌日の復帰は詩的に解釈すれば、真心の鎮魂に対する亡霊の敬虔な声援の寄与も有ろう。

彼の歴史発掘者は天皇・皇后が硫黄島で詠んだ御製・御歌（「精魂を込め戦ひし人未だ地下に眠りて島は悲しき」「銀ネムの木木茂りあるこの島に五十年眠るみ魂かなしき」）を、同じ「悲しき」で終る栗林忠道（硫黄島の戦〔1945.2.19～3.26〕の総指揮官、陸軍中将、戦死認定後に大将、1891.7.7～同）の辞世の歌（「國の爲重きつとめを果し得て矢弾盡き果て散るぞ悲しき」）への返歌の様を取った。

栗林が地下坑道潜伏抗戦の末の最終「肉攻」の前に訣別電報に添えた歌の末尾の「悲しき」は、公表の際（3.22）兵士の戦死を悲しむ事も許さない大本営に「口惜し」と改竄された。硫黄島攻防開始の49周年の前日に「菊の窓掛」内の発信が本当の場所・内容を伝えれば、無邪気な亀放流の光景に矮小化されず、絶望的な死闘の鬼気を帯びた歴史的な重みが有る。

「歴史は繰り返さないが、往々にして韻を踏む。」（トウエイン〔米国の作家、1835.11.30～1910.4.21〕）。「天皇陛下万歳」と叫んで死に赴いた部隊の長の絶命歌の結語も、満36歳時の日中戦争勃発と同じ誕生月・日の相乗（7×7）年数が経った後に、押韻の如く次代天皇・皇后の旧

戦場慰霊作で用いられ、皇后一時気絶の日の野村秋介も自決前に天皇への祈願を連呼した。

『週刊文春』は自省を示した（11.11 [4日発売]号刊『皇室報道小誌を考える』）が、文藝春秋社は32年前に傘下の『文學界』所載『政治少年死す』の筆禍でも無傷なのに、今回は言論・行動の両方で尊皇右翼に討たれた。尤も、昔の騒動で警察に警護された大江健三郎は翌秋（10.13）ノーベル文学賞に輝き、少年暴走の嶋中事件と比べて右翼の攻撃は歯止めが掛った。

明治/昭和4年の韻を踏む平成4年の凶変多発の余韻共振の様に、翌年「10.20」の午後2時頃、都内の洋風宿泊施設で山口会系と住吉会（1918年頃結成）系の暴力団組員の乱闘が起きた。重傷者1人を出し利用客を慄かせた蛮行は直後に逝った野村の辞世の自制を思わせるが、同日の複数発砲は平成以降の狂気の危害度下降と凶器の危害度上昇の傾向を物語る。

24年前（1978）の翌日（鄧小平副総理訪日の前日）に首相官邸前で右翼腹切り事件が起き（日中友好条約 [8.12締結, 10.23発効] 反対と叫んだ平□某は日本革新党 [結成年未詳] 党員, 38歳）、同じ会計年度の末日（79.3.31）の都知事選（4.8）遊説戦で、別の反共右翼分子（豊□某, 無職, 39歳）が洋風小刀を持って宮本顕治（共産党初代委員長, 参院議員, 08.10.17~2007.7.18）を急襲した。

警備員の阻止で躓いた大日本憂国同志会（1972.11結成）成員は中・小学生の自殺を問題視し、元凶と見做す日教組の委員長（横田文元, 21.3.4~2010.12.4）の未出席で殺害の対象を変えた。日教組への敵視も場当りの強行も右翼恐怖活動史に他の例が有るが、「10.20・21」と似て「3.30・31」も上記の数事件や9年前の日本初の航空機乗っ取りで犯行多発の節が強い。

11.22/7.2/2.15 大統領狙撃, 7.29 国王射殺, 5.6 大統領殴打

1978年に首相を襲う刃物男の檄文に、再服役（6年）中の野村の影響が現れた（「三島由紀夫は命以上に価値のあるものを見せてやる、といいながら、自らの命を絶ち、また野村秋介からもYP体制打破を叫んで経団連を襲撃した。これは国家民族の自立を熱望したあまりの行動だ」）。獄中で彼と知り合った中村泰は巡り巡って、橋孝三郎師歿21周年の「3.30」警察長官銃撃との接点を持つ。

14年前（1981）の「3.30」レーガン大統領（81.1.20より8年, 11.2.6~2004.6.5）暗殺未遂は、マンソン（狂信崇拜指導者, 34.11.12~17.11.19）の信奉者フロムのフォード暗殺未遂と通じる。彼の脱社会的行動派の自治共同社会の頭は支持者の殺人（1969.7~8.9件）の責任を問われ、悪名高い罪人として死刑判決を受けた（71.4.19）。翌年加州の死刑制度一時廃止に由り終身刑に減刑。

刺客のピンクリー（大学生, 1955.5.29生）は映画『タクシー運転手』（76）の少年娼婦（12歳）役フォスター（62.11.19生）に惚れ、執拗な付き纏いが拒絶された後に、主人公（越南戦争帰りの元海兵隊員）の大統領候補暗殺企図から示唆を受け、カーター大統領（77.1.20より4年, 2002年ノーベル平和賞受賞, 24.10.1生）を追い掛けたが、機会が無く重火器不法所持で逮捕された。

レノン（英国出身の自作自演歌手・ギター奏者・平和運動家, 1940.10.9~80.12.8）暗殺を悲しむ

一方、彼は同月（10日）生れの射殺犯チャップマン（元警備員）の凶器と同型の銃を購入した。レノン宅前で3マイル離れた処から5発連射した凶手は、性格破綻・自殺願望が根底に有るが、19日年少の112日後の暗殺犯の主な動機は、片思いの女優に注目されたい承認欲求である。

就任69日後のレーガンが米国労働総同盟・産業別組合会議（1886.12結成）で演説した後、会議場の洋風宿泊施設を出て専用車へ向う際に警備陣に僅かな隙が生じ、外の群衆中の犯人は空かさず回転式拳銃の全弾6発を放った。1発は専用車の車体に当って跳ね返って大統領の左胸に命中し、他は大統領報道官・ワシントン華盛頓首都警察巡查・要人警護官各1人に当たった。

大統領は銃弾が心臓から外れて肺の奥に留まり大量の内出血が起き、緊急手術で助かった。フセレイディ報道官（1940.8.29~2014.8.4）は流弾で脳に深刻な傷を負い、一命を取り留めたものの半身不随で車椅子生活を強いられ、13年後に銃創に由る合併症で死去した。デラハンティ巡查（45歳）・マッカーシー要人警護官（31歳）は、俱に軽傷で痛み分けと成った。

レノン銃殺犯もレーガン狙撃犯も逃走せず身柄を拘束され、前者は第2級謀殺罪で禁錮20年乃至終身の無期刑（紐育州に於ける同罪の最高刑）に処され、40年後も反省が無く遺族への加害の危惧から仮釈放はされないが、後者は精神疾患で責任能力が無いとの判断で無罪と成り、強制隔離入院後に仮退院（1999）・釈放（2016）を経て行動制限解除に至った（22.6.15）。

レノン歿27周年の前日（2007.12.7）に英国映画『ジョン・レノンを撃った男』が封切され、ボール（米国人、1975.5.3生）が犯行時25歳の主人公を扮した。『27章』^{チャプター}（加・米合作、同年12.15・翌年3.28に日・米で公開）はレト（米国人、1971.12.26生）が主演で、レノン役（Mark Lindsay Chapman, 英国人、54.9.8生）は奇しくも「^{ファースト・ネーム}名・^{ラスト・ネーム}姓」俱に犯人と同じである。

チャップマンは現場に留まり『ライ麦畑の捕手』を読んでいる内に捕えられたが、サリンジャー（米国の小説家、1919.1.1~2010.1.27）著長篇の26章がChapter 27の由来である。思春期の鬱屈や社会の偽善を描いた名著の刊行（1951.7.16）は、その初上映（2007.1）の舞台（伯林国際映画祭）の第1回（51.6.6~18）の直後で、第1次ニクソン衝撃の20年前の翌日に当る。

彼の不意討ちは真珠湾奇襲39周年の前日（米国時間）に巡り合せ、レーガン暗殺の最大の被害者の伝記映画『警告無し：ジェイムズ・ブレイディ物語』^{Without Warning}（米国、1991）は、太平洋戦争勃発の翌々日（41.12.9）に生れたブリッジスが主役を務めた。銃に由る暴力を絶つブレイディの運動でその名を冠する銃規制の法律が出来た（1994.2.28発効）が、10年後に失効した。

レノン射殺犯の誕生日の「5.10」は20歳時（1976.2.8）公開の*Taxi Driver*で、主人公が常勤運転手に成った日として登場する。彼が異様に執着した女優は後に同性愛者の正体が明るみに成り空回りを印象付けたが、誕生日の「11.19」は満54歳時に当るマンソンの命日と重なる。彼の狂信崇拜首領の影響に由る第1次フォード暗殺未遂は不気味な連環を現す。

フォードの連続受難（9.5、22）の12年前に池田首相は襲撃・面会強要に遭った（11.5、13）が、衆院総選挙の翌日にケネディ大統領が妻同乗の車内で暗殺された。テキサス州遊

説中の彼はダラス市内を屋根無き自動車^{オーバーン・カー}で歓迎行進^{パレード}（時速16^{キロ}前後）を楽しむ際、教科書倉庫^{ビル}高層建築物前で10秒未満の間3発の銃撃が有り、内の2発命中で即死し脳漿も飛び出た。

逮捕されたオズワルド（同倉庫従業員、ソ連亡命歴の有る元海兵隊員、1939.10.18生）は、大統領・ティピット（職務質問中の巡査、24.9.18生）殺害の容疑を否定し、2日後に市警察署の地下駐車場でルビー^{ナイト・クラブオーナー}（夜間社交倶楽部所有者、11.3.25～67.1.3）に射殺された。義拳を主張した彼は死刑判決（1964.3.14、地裁）再審中に病死し、犯人・真相究明の公式見解は今だに疑問が尽きない。

20世紀後半の最も衝撃的な要人暗殺と容疑者射殺は、12年後の第2次フォード暗殺未遂と同じく^{テレビ}電視中継の中で行われた。自由主義国家の首脳・政治家は能く選挙遊説・講演等で不特定多数の人の前に現れ、自ずと危険に曝される恐れが多い。ケネディも反感が多いダラスで人気を得ようとしたが、敢えて透明の防弾^{ルーフ}屋根を拒む事で警備の大きな穴が開いた。

米大統領暗殺（予定/経験者・未遂を含む）第1号のリンカーンに続いて、4代・16年後のガーフィールド（第20代 [1881.3.4～9.19]、31.11.19～同）が就任の120日後（7.2）、妄想癖から猟官の不発を恨むギトー（法律家、41.9.8～82.6.30 [絞首刑執行]）に、馱で後ろの至近距離から2発銃撃された。医師の未消毒処置の感染の所為も有って、在任日（199）が史上2番目に短い。

レーガン暗殺の100年前の第3例は20世紀初めの「黒い9月」に起き、マッキンレー（第25代 [1897.3.4～1901.9.14]、43.1.29～同）が6日に汎^{パン・アメリカン}亜米利加博覧会の会場で、^{シユ}（無政府主義者、73.5.5～01.10.29 [電気椅子に由る処刑]）の凶弾2発を浴びた。第2号被害の際に金属探知機が体内の弾丸の特定に実用され、今回の犠牲は大統領警護の整備を促した。

前年にウンベルト1世（伊太利 [1861.3.14 成立] 第2代国王 [78.1.9～1900.7.29]、44.3.14～同）が、^{ぎょう}行幸中にプレーシ（伊系米人、無政府主義者、69.11.11～01.5.22 [終身刑服役中獄死]）に射殺された。元首固有の命の危険を懸念して、コーテルユー秘書官（後に商務労働/郵政/財務長官、1862.7.26～1940.10.23）が公開の歓迎会への出席に異を唱えたが、大統領は意を介さず果てに遭難した。

次代のセオドア・ルーズベルト（1906年ノーベル平和賞受賞、1858.10.27～19.1.6）は、3選が無い故2期満了（09.3.4）後に退き、自ら決めた後任への不満から次期選挙（12.11.5）に出た。彼は遊説中に異常者（フランク [酒場主人、1876.3.5～1943.9.15]）に撃たれ、^{ポケット}胸衣囊内の分厚い原稿・眼鏡箱^{ケース}等が幸いして軽傷で済んだ（12.10.14）が、両者の生・歿日の交錯相隣が面白い。

次は初当選（1932.11.8）後のフランクリン・ルーズベルト（第32代 [33.3.4～45.4.12]、1882.1.30～同）で、演説後にザンガラ（失業中の伊系米人、00.9.7～33.3.20 [電気椅子に由る処刑]）に狙撃された（33.2.15）。時の日本と似通う世界恐慌下の怨念を込めた5発とも彼に命中しなかったが、近くの市^{シカゴ}俄古市長サーマク（1873.5.9～1933.3.6）が重傷を負い大統領就任の2日後に歿した。

100年前に起きた米大統領初経験の襲撃（1833.5.6）は、ジャクソン（第7代 [29.3.4～37.3.4]、1767.3.15～45.6.8）が横領容疑で解雇された海軍のランドルフ（生歿年未詳）に殴られた事である。彼は米英戦争（1812.6.18～15.2.18）中のホースシュー・ベントの戦（14.3.27）で、州市民

軍大佐として印地安民族大虐殺を指揮したが、この件では仁慈を示す為か告発しなかった。

彼は自分と妻を中傷したディキンソン（弁護士、1780.12.20～1806.5.30）との決闘で、敵の先発弾が心臓附近に打ち込まれたにも関わらず冷徹な後発で相手を射殺した。悪運の強さは史上初の大統領暗殺未遂（1935.1.30）にも現れ、国会議事堂外で群衆から跳び出したローレンス（英国出身の元塗装工、生歿年未詳）が立て続けに引き抜いた2丁の拳銃とも不発であった。

失業の鬱憤を爆発させた男は、リチャード3世（元英国王 [1483.8.26～85.8.22 在位]、52.10.2～同 [戦死]）を自任し、罰を受けず治療施設に入った。曇天の湿気の所為と見られた不発は検証の試射成功で天祐を感じさせ、制圧者のクロケット（軍人・政治家、1786.8.17～1936.3.6）の死は市俄古市長歿の3年後に当り、「1.30」は100年後逝ったルーズベルトの誕生日である。

歴代中唯一4選され唯一重度の身体障害（両足不自由）を持った後者は寿命が縮まったが、副大統領（82日前就任）から昇格したトルーマン（第33代 [～1953.1.20]、1884.5.8～72.12.26）も、波多黎各の民族主義者に狙撃された（50.11.1、警護陣の阻止に由り未遂。犯人のトエルソーラ [25.7.19生] が警官3人を銃撃 [1人致死] し射殺され、コラッツオ [14.1.20～94.2.21] が負傷し逮捕後に長期服役）。

リンカーン・ガーフィールド・マッキンレーは1860・80・1900年に当選し、次の死者ケネディの当選は第1号の100年後である。同1840年のハリソン（第9代 [41.3.4～4.4、史上最短]、73.2.9～同）、1920年のハーディング（第29代 [21.3.4～23.8.2]、1865.11.2～同）、40年のフランクリン・ルーズベルトは在任中に病死し、80年のレーガンは未遂の暗殺で被弾した。

19世紀後半～20世紀末の末尾が0の年に当選した8人の遭難や不慮死は、20で割られる数の不吉な周期を現した。伊勢神宮式年遷宮の20年毎の1世代の意味と結び付ければ興味深い、時代の変容の様に21世紀の1回目には再演が無かった。但し不気味な規則正しい示現が途絶えても、元首を始め政界要人が命を狙われ易い万国共通の原理は変らない。

4.24 公然刺殺, 4.17 射殺, 2.14 死刑宣言, 7.11～12 私刑惨殺, 10.21 「狂襲」刺殺

池田首相は逝去3日後のケネディ葬礼（華盛頓に在るセント・マシューズ大聖堂）・埋葬式（バージニア州に在るアーリントン国立墓地）に参列し、随行の首席秘書官伊藤昌哉（後に政治評論家、1917.11.21～2002.12.13）に対して、「これが政治家の死というものだ。俺も出来たら短刀を突き刺され、弾丸の1つも打ち込まれて死にたいと思っている」と感慨深げに述懐した。

月初に暴漢が短刀を持って目の前まで体当たりして来ただけに本気の壮語であるが、事件の翌日に語った「何か近付いて来る様な気がしたので、若し傍へ来たら蹴飛ばしてやろうと思っていた。こんな事を気にしていたら、大衆に接する政治家は務まらない」から、己の安全より民衆の支持を重んじる志向と、大衆へ近付く為に安全を軽んじ勝ちの心理が窺える。

『朝日新聞』刊『戦後の首相襲撃事件』（1978.12.19）6件は、24年前の2件（「▽二十九年六

月五日 大日本愛国党の柴■■■ [二七] ら六人が吉田茂首相暗殺を企て、東京・芝白金の公邸に押し寄せ、捕まった。一人が肉切り包丁を持っていた。/ 1929年9月21日 大日本生産党の丸■■■■ [二二] ら三人が吉田首相の外遊に反対、公邸内に侵入しようとして捕まった]]から始まる(実名一部黒塗り)。

大平首相襲撃事件報道の関連資料(警視庁調べ、主な事件)中の5件目(「四十七年九月二十四日 田中角栄首相の訪中の前、防共挺身隊員の吉■■■■ [二六] が訪中を阻止しようとして、刺し身包丁を持って東京・目白の私邸付近をうろついでいて、捕まった」)は、同じ未遂の前出2件と違って時の同紙に出なかったが、訪中の田中が漏らした「死ぬ覚悟で来ている」は^{あなが}強ち誇張ではない。

本島等銃撃犯所属の正氣塾の創立者若島征四郎(1943.7.5~98.2.1)は、翌年の統一地方選挙長崎市長選(91.4.21)に出馬し4人中の最下位で終わった(4選を果した本島の117392票に対する415票は全体の0.18%)。次期(1995.4.23)の5人中最下位(325票、同0.15%)も、斧を以て隆車に向う蟻螂^{とうろう}の様な意地と非力を呈したが、非暴力の闘争に訴える姿勢は進歩である。

「反核・平和の街の顔」本島は被爆50周年を目前に多選批判の逆風等で負けたが、同日の村井秀夫(オウム真理教「科学技術省大臣」、1958.12.5~95.4.24)刺殺が衝撃的である。教団東京本部前で200人超の報道陣の環視中に、神州士衛館(指定暴力団山口組羽根組傘下の右翼団体、三重県伊勢市、1994.10.3発足)成員徐裕行^{ユヘン}(在日韓国人、65.5.25生)が包丁で続け様に刺した。

豊田商事(1978.7.8設立)会長永野一男(52.8.1~85.6.18)刺殺事件が甦るが、数万人から金を詐取した悪徳商法の首魁の逮捕を待つ報道陣の前で、□□某(鉄工所経営、まことむすび誠心会代表委員、56歳)・□□某(同所元従業員、30歳)が自宅に闖入し銃剣で殺した。其々10年・8年の実刑判決(1990・89年確定)に処された惨殺は、血塗れの映像で列島を震撼させた。

サリン製造・小銃密造等を司る教団上級幹部の殺害も疑惑解明を妨げたが、警察の24時間監視と当日からの車6台体制での強化も閣議(20:35)を防げなかった。義憤を動機に掲げ懲役12年に処された29歳の右翼実行犯は不気味にも、34年前の嶋中社長宅殺傷事件の17歳の右翼少年と誕生日が同じで、レノン・レーガン暗殺犯の10年後の同じ5月に生れた。

若島征四郎の養子入りで改姓した本島市長銃撃犯は、刑期満了で出所した翌年の市長選(2003.4.27)に立候補し、最低の5位に落ちながら重大犯歴の割には善戦した(0.55%を占める1017票)。本島の後任伊藤一長(1945.8.23~2007.4.18)は4選が懸る投票(07.4.22)の5日前に、山口組(15.4結成)系水心会(同95)会長代行城尾哲弥(47~20.1.22)に銃撃された。

選挙事務所前で待ち伏せした犯人は背後から数発撃ち(19:52)、胸に2発が当たり心肺停止に陥らせ死(翌朝2:28)に至らせた。凶行は市発注の公共工事絡みの紛糾等に由り、無期懲役と成った(2012.1.16最高裁確定、20.1.22に獄死、歿年72)。長崎市長の再度受難と戦後初の要人射殺は選挙中の事だけに質が悪く、非政治的な私怨の強い破壊力が不吉な現実味を持つ。

露西亞皇太子刺傷(1891.5.11)98周年の翌日に同じ大津で社会党書記長等が襲撃され、『大日本帝国憲法』発布日(89.2.11)の森有礼文相暗殺の98年後の憲法記念日(1987.5.3)に、

朝日新聞社阪神支局（兵庫県西宮市）に覆面男が散弾銃を持って侵入し、2～3人の至近距離から雑談中の3記者を目掛けて2発撃ち、終始無言の1分未満の犯行後に悠然と逃走した。

200個超の散弾粒の殺傷で小尻知博（1957.12.12生）が翌朝1時10分に死亡し、1発目を浴びた犬飼兵衛が重体に陥り右手の小指・薬指を失った。後者の命日（2018.1.16歿、享年73）は奇しくも、「警視庁広域重要指定116号」（一連の同社襲撃事件、本件は同年1月24日の東京本社への銃撃に次ぐ2件目）と重なるが、犯行時刻の午後「8.15」も不気味に終戦日と暗合する。

「赤報隊」と自称した犯人は又5件（同年9.24、同紙名古屋本社社員寮襲撃：1988.3.11、同静岡支局爆破未遂：同日〔消印〕、中曽根康弘・竹下登両元首相脅迫：8.10、江副浩〔リクルート会長、36.6.12生〕宅銃撃：90.5.17、愛知韓国人会館放火）を起し、全5件は脅迫・放火以外が「116号」重大事件と成ったが、国内唯一の政治恐怖活動に由る記者殺害は日本暗殺史の内に特筆されて行く。

同隊の旧称（日本民族独立義勇軍別働赤報隊）の母体（下線部分）を名乗った犯行は前に4件有り（1981.12.8、神戸米国領事館放火：82.5.6、横浜元米軍住宅放火：83.5.27、大阪ソ連領事館火炎瓶投擲：8.13、朝日新聞東京・名古屋両本社放火）、真珠湾奇襲40周年に始まり矛先を米・ソ両超大国から自由世界最大の新聞へ向ける変遷が目を引くが、「赤報隊」諸事件と同様に未解決である。

言論封殺・秩序攪乱の恐怖犯行は浜田幸一殴打と「赤報隊」休戦の翌年に、五十嵐一（筑波大学〔1872年前身創立、1973.10.1開学〕現代語・現代文化学系助教授、47.6.10～91.7.11か12）惨殺で現れた。彼のイスラム学者は『悪魔の詩』（ラシユディ〔小説家、印度出身の英国系米国人、1947.6.19生〕著長篇、88.9）の邦訳（90.2・9上・下巻刊）に由り、国際的な筆禍に巻き込まれ命を落された。

ムハンマド（イスラム教の開祖、亜刺比亜のメッカ生れ、570頃～632.6.8）の生涯から着想を得た魔術的現実主義風の異色作は、イスラム教への揶揄やホメイニ（イラン・イスラム共和国〔1979.4.1成立〕初代最高指導者、02.9.24～89.6.3）への批判を盛り込んだ所為で、彼のイスラム教シーア派の法学者出身の政治・宗教首領は著者・刊行関係者等に対する死刑宣告を發した（89.2.14）。

翌日にイランのホルダ月15日財団が執行者への懸賞金（同胞と外国人は其々約3.7、1.26億円）を提示し、居住・刊行地の英国の警察が著者を嚴重に保護し、対立姿勢は国交断絶（3.7）を招いた。発表の翌月の印度政府の発禁命令の様に文明の衝突の感も有り、イスラム教の馴染が薄く宗教絡みの抗争に疎い日本では、イスラム法に基づく究極の処罰は実感し難い。

和文版発行者パルマ（伊太利人、38歳）は刊行発表会（1990.2.13、日本外国特派員協会〔54.11設立〕）で、巴基斯坦人の男（イスラム教徒か、30歳）が殴り掛る一幕に遭った。言論・表現の自由を力説する彼に対し、在日巴基斯坦人協会会長シディキ（年齢未詳）が死刑を宣告した。同席の訳者五十嵐は窮極の恫喝の直撃に拘らず、額面通りに受け取らず警察の保護を断った。

ホメイニ急逝の6月3日に日本ではリクルート事件で辞任した竹下登内閣に代って、宇野宗佑（前日の自民党両院議員総会で一致せず変則の起立多数に由り承認された総裁）内閣が発足した、党史上初の非派閥領袖の総裁の軽量級に加え6日に女性醜聞が発覚し、69日の短命政権が

平成以降の総裁・総理交代頻繁の前例を作り、「失われた30年」の下地に成っていった。

同夜から北京では民主化運動を鎮める為に野戦軍が大挙に中心部へ挺進し、抵抗勢力への発砲で「実弾！」の怒号と恐怖を起した。金丸信狙撃の場で警官が絶叫した「真正拳銃！本物だ！」と通じるが、他者が撤回できないホメイニの死刑宣告の真剣さは真正刀剣を以て、イスラム流の殺し方（首の左・右に2・1ヵ所の頸動脈切断程の深い傷）で五十嵐に実施された。

パーレビ国王（パフラビー朝伊朗の最後の皇帝、1941.9.26～79.2.11 在位、19.10.26～80.7.27）の治下で、巴里亡命中のホメイニを中傷する記事への抗議が暴動に発展した（78.1、以降各地で類発）。軍の発砲で示威隊に死者が多数出た「9.8」事件から専制反対・政権転覆の気運が高まり、国王は国外亡命に迫われ（1979.1.16）、ホメイニ帰国（2.1）後に権力を完全に剥奪された。

元帝^{みかど}は脱出時に自ら操縦した専用機（ボーイング727）の機種番号と同じ日付で死去したが、新国家の大統領バニサドル（1980.2.4～81.6.22 在任、33.3.22～21.10.9）も独裁化に反撥した末、議会に弾劾され巴里に亡命した。政敵のラジャイ首相（1933.7.15～81.8.30）も第2代大統領に就任した（8.2）直後、新首相バホナール（46歳）と共に補佐官に由って爆殺された。

後任大統領在職中（1981.10.2～89.8.2）ホメイニ歿の当日に最高指導者となったハメネイ師（39.4.19 生）は、例の問題作の著者に対する死刑宣告は有効で執行されるべきだと表明した（90.2.9）。翌年7月3日に伊太利語版訳者カプリオーロ（61歳）が羅馬で伊^{イラン}大使館員と名乗る男に襲われ、8日後の和文版訳者刺殺と似た手口で首筋等を鋭い刃物で突かれ負傷した。

五十嵐は被害（11日22時頃～12日2時頃と推定）後8時40分頃に学内の昇降機^{エレベーター}前で発見され、昼過ぎに出国し帰らぬ孟加拉^{バングラデシュ}人留学生（1969年生）が容疑者として浮上したが、政府はイスラム諸国との関係を配慮して捜査を打ち切らせた。『悪魔の詩』の夢幻物語が日本で惹起した悪夢の死は、30年前の『風流夢譚』『不敬』事件の断罪・殺傷とも似て腑に落ちない。

怪奇惨殺が起きた泡沫崩壊の5ヵ月目と対極に在る同5ヵ月前（1990.10.21）、丹羽兵助（元労働相、11.5.15～90.11.2）が陸上自衛隊守山駐屯地（名古屋）司令部庁舎で、記念式典出席の為の移動の際に一時退院中の精神病患者（47歳）に刺された。年初の代議士再選で妻・長男（秘書）の公職選挙法違反（猶予付き懲役判決）を乗り切ったのに、飛んだ奇禍で12日後に歿した。

背後から首を切り2ヵ所の傷で脳死寸前に陥らせた男は開放型病棟に入院し、現首相に成る前の海部俊樹と春日一幸（衆院議員・元民社党 [1960.1.24 成立] 委員長、10.3.25～89.5.2）の車を襲った前歴が有る。丹羽は現役関係でない故に愛知県警の警護対象と成らず、守山署員8人・私服警官3人は会場に固まり、約100人がごった返した玄関^{ロビー}附属広間には居なかった。

丹羽は手洗いへ案内する自衛隊員等に救助・搬送され、附近のヤトウ（箭頭）病院で輸血を受け、愛知医科大学（1971.12.25 設置）附属病院（74.5.30 開院）で緊急手術を受けた。心肺一時停止から脱した後も昏睡が続き、多臓器機能不全に由る急性心不全で逝った。司法解剖で両病院の輸血^{ミス}過誤が発覚し、O型を家人申告のB型と間違える事は驚き・怒りを招いた。

失血死に成りかねず検査が間に合わない場合でも、通常は問題が起き難いO型を用いるのに、秘書経由の伝聞を鵜呑みにした対応は杜撰としか言えない。幸い主な死因は頸動脈の切り傷の失血に由る衝撃死で、不適合輸血は要因と認められなかった。26年前の駐日米大使刺傷後の輸血事故と比べて軽いが、重なる不手際は不慮の死を一層惨めな結末にした。

秘書所持の『国会便覧』（日本政経新聞社〔前身1948.4創立〕、54.4.11創刊）の誤記載も禍したが、国会・政界関係者の「聖書」は本人と周囲の確認済みで、事件後の動転に由る錯覚は先ず無い。血液型占いで大衆受けの方にしたと推測されるが、人気取りの為に命取りの危険を軽視した事か。遭難・流血の想定が欠けたからこそ、軽率な公式発表は型違いの誤認を許した。

5.30 威嚇発砲, 4.12 錯乱刺殺, 3.3~4 籠城, 10.30 痛打, 末尾 2・7 の年の凶変続出

丹羽死去の病院の開院20周年時（1994.5.30）、細川護熙（4.28退陣の前首相）が都内の京王プラザホテルで「日本新党・東京」設立集会に臨んだ後、^{パーティー}入口直結広間で玄関へ向う途中、^{エントランス・ホール}玄関附属広間に潜んだ男が飛び出し、10^分離れた背後で天井に向けて短銃で1発撃った。細川は要人警護官等数人に覆い被さる形で守られ、取り囲まれて出口へ行き車に乗った。

近くの警官等15人が男と揉み合って逮捕したが、「男は1人か、2人か」と叫んで警戒した複数犯は無い。単独犯の野副正勝（松魂塾〔行動右翼団体、1978年結成〕元成員、52歳）は、戦争や経済に関する細川発言（首相就任時〔93.8.10〕の記者会見で先の日本発の大戦を「間違った」「侵略」とした認識等）が頭に来たと動機を供述し、実弾3発が残った犯行は単発の威嚇発砲である。

彼の指定暴力団極東会（本部=東京都新宿区歌舞伎町、成立年未詳）系政治結社の「松」は、現名称への変更（91.11）時に5代目会長と成った松山眞一（在日韓国人、本名曹圭化、27~2022.5.7）から取った。野副の暴発は羽田孜首相から「民主主義の破壊に繋がる」と糾弾されたが、総本部政治局長・特別相談役を歴任した彼は歿（2010.8?）後も塾内外の同志に讃えられた。

言論封殺の「天誅」凶弾は朝野の「卑劣」の断罪と国法の処罰を受けるが、「侠/狂弾」（侠/狂気の凶器使用を表す造語）の連（鎖的誘/続）発反応の様に、本島等長崎市長銃撃の24日後の建国記念日（1990.2.11、森有礼暗殺101周年）に、国憂会（右翼団体、本拠=東京都豊島区、81年結成）の小□某（23歳）が中曽根康弘選挙事務所（群馬県高崎市）に乱入し短銃で3発乱射した。

2年後の同じ祝日の自民党本部・総裁室侵入・発砲・籠城騒動を始め、恐怖活動の前兆・余震の連続を現す様に翌月に金丸信狙撃事件が起きた。右翼は東欧共産圏・ソ連崩壊で反共・反ソから反体制の初心に戻り、同様に取締で弱体化した暴力団との交流で銃が流入した結果、平成初の銃犯罪や要人・特定団体襲撃の多発は昭和初への先祖返りの様相を呈した。

1993年には皇后批判の報道への攻撃として、宝島社（72.9.22設立）社長（蓮見清一、41.12.21生）の父親（雅雄、81歳）宅（埼玉県大宮市〔現さいたま市〕）と社屋、文藝春秋社長（田中健五）

宅への発砲があった（11.4, 12, 29）。細川への威嚇発砲は右翼が要人等を狙う恐怖・襲撃の約10年来の111件目で、前に朝日新聞社東京本社威嚇発砲・人質立て籠りが起きた（1994.4.1）。

松魂塾が尊崇した松山眞一と右翼が敵視した田中健五は1歳差で同日に死去し、命日が在る5月の騒乱・恐怖多発は「五月蠅い」「五月雨」の字・義を連想させる。細川遭難の「5.30」の翌年の5月16日には麻原彰晃逮捕の傍ら、東京都庁で青島幸男知事宛の郵便小包が爆発し、内海正彰秘書（44歳）がオウム真理教の謀殺に由る被害で左手指が全て吹き飛ばされた。

117年前の2日前の大久保利通暗殺の6壮士は、薩摩軍の無数の戦死者の仇を討つ様に刺し捲り斬り捲った後、首を斬る代りに武士の作法に由り脇差で喉を貫いて止めを刺し、更に刀を捨てて完膚無き死体に一礼し従容として去った。「親しき仲にも礼儀有り」を超えた「憎き敵にも礼儀有り」は、本島等狙撃犯の逃走前の相手を心配する声掛けにも体现された。

戦後～平成末の右翼に由る襲撃・殺傷の既解決事件の内、強固な殺意と絶命の確信を持ったのは1960年の浅沼稻次郎刺殺である。赤尾党首も宥めた未成年者の無分別な武闘派攻撃は、図らずも年輩・大物幹部の節度・矜持を際立たせる。荒牧退助は岸信介を殺す心算が無く6刺しとも急所を避け、野村秋介は同席の朝日新聞社経営陣に害を加えず銃で自決した。

金丸信銃撃犯は1990年（22歳）に無為徒食の生活の中で甲野会に入り、事務所に寄宿し当番等を務めた。同じ高層建築物に事務所を置く乙山会も右翼団体で、成員が中曽根選挙事務所に拳銃を発砲する犯行に及んだ（両会は宇都宮地裁平成4年[わ]108号判決で政治結社と成り、別件に関する広島地裁同8年[わ]129号に「平成元年に暴力団甲野会乙山組組員となり」と有る）。

上記事実を「犯行に至る経緯」に示す判決は、計画・発砲の段階に確定的殺意があったと認定する。金丸はこの世に不要の政治家で殺害も已む無しの考え、殺傷力の極めて高い拳銃に弾丸5発を装填し、演台の上に浮かび上がって能く見える頭部を狙った行動が根拠と成り、右翼の「金丸を殺せ」の掛け声を実行すれば男が上がるという動機も背景に挙げられる。

犯人は狙撃で甲野会と会長が声価を高め自分も会長に評価されるという承認願望を持ち、殺害すれば無期懲役に成る覚悟も有ったろうが、一撃必成の確信は考え難い。前出の銃器未使用の犯行者に有る自衛隊在籍経験も無く、不慣れの射撃技術は事務所内の空撃ちの練習で補完できない故、警備の際を衝いて不安定な態勢で連発するのは一か八かの賭けである。

平成終盤の現行憲法実施40周年時の朝日新聞社阪神支局記者殺傷は犯人が分らないが、至近距離からの散弾発射は強固な必殺の意志と的確な完遂の技量を感じさせた。8年後の警察庁長官狙撃も遠距離から射止めた下手人と背後の勢力は正体が現れないが、連射4発中3発を腹部等に命中させ危篤に至らせた事は、平成初の意志・腕前とも最強級の謀殺に当る。

「能有る鷹は爪を隠す」に当る中国語は、「会咬的狗不叫」（きつく咬む犬は吠えない）と言う。強い犬は弱い犬の様に吠えて虚勢を張る必要が無く、黙って襲い掛り咬み付くのである。金丸信銃撃犯が空しく感じた「金丸死ぬ！金丸殺せ！」の怒号も、「大山鳴動して鼠一匹」

にも及ばぬ前触れの騒ぎの不発で、本当に恐いのは言わば「深山に潜伏す一匹狼^{ローン・ウルフ}」である。

命を奪わぬ岸首相刺傷、凶器を使わぬ三木首相殴打、銃を向けぬ細川前首相威嚇と違って、河上顧問刺傷、浅沼委員長刺殺、金丸副総裁銃撃は右翼の末端成員の仕業である。警察の特定の相手に対する注意・警戒の欠如も、彼等の暴走を許した一因と成る。戦後初の要人狙撃である1992年「3.20」事件は、無名の素人の安易な殺傷暴挙の危害を示す意義が有る。

23日後に浅沼稲次郎・丹羽兵助に次ぐ現行憲法下の現職国会議員殺害が起き、11代目山村新治郎（元農林水産相・運輸相、旧名直義、1933.4.28～92.4.12）が、母富美子（81歳）も居る自宅で精神病患者の次女（24歳）に出刃包丁で殺された。彼女は心神喪失に由る責任能力無しの判断で不起訴と成ったが、政治家としての家系の継承を一挙に絶った4年後に自殺した。

山村は日本初の飛行機乗っ取り（共産主義者同盟赤軍派 [1969.9.2 結成] 犯行、70.3.31、福岡）で、運輸政務次官として漢城停留中の日本航空（53.10.1 設立）「よど号」に乗り込み（4.1）、後着の橋本登美三郎運輸相（元建設相・内閣官房長官、01.3.5～90.1.19）を交えた交渉の結果、乗客の代りに人質と成り亡命先の北朝鮮まで同行し（4.3）、2日後に残りの乗員と共に帰国した。

乗客解放の為に我が身を差し出した彼は一躍「男やましん」「身代り新治郎」の英名を博し、その功績で日本初の航空機乗っ取り事件の22年後に自民党訪朝団団長と成ったが、犯行集団（9人）の頭目田宮高磨（同派軍事委員会議長、1943.1.29～95.11.30）との再会も実らず、出発の前日の未明0時半に寝室で首・腹等に数十ヵ所の刺し傷を負い悲愴な末路を迎えた。

不気味に包丁と同音の訪朝は金丸信も1年半前に代表団を引率し、その関連で先月に銃撃された。よど号事件の交渉責任者橋本も全日空からの収賄で逮捕され（1976.8.21）、被告の身で衆院議員再選を果たした（12.5）後の76歳の誕生日（77.3.5）に、故郷（茨城県行方町潮来町 [現潮来市]）の慈母観音で先祖を供養中、暴漢に登山洋風小刀で左胸を刺され軽傷を負った。

犯歴が無く警察防備対象外の飛□某（無職、26歳）は、汚い野郎だから刺したと自供した。思想・組織の背景が無い彼の最終学歴（大洗中卒）は、同県別町の血盟団大洗組を連想させる。同じく関連しない恐怖犯行の連鎖は、直前（3日16:10～4日3:05）の経団連事務局襲撃に見られた。財界総本山の会長室に突入した右翼は、常務・職員を人質に籠城し威嚇発砲もした。

4人組の野村秋介と元「楯の会」（三島由紀夫が創設した私兵集団、1968.10.5～71.2.28）の元実動部隊班長伊藤好雄（30歳）・会員西尾俊一（27）、「大東塾」（右翼団体、39.4.3 結成）成員森田忠明（26）は、平岡瑤子（三島の妻、37.2.13～95.7.31）の説得で投降した。楯の会に続き財界への闘争を執行すると檄文で啖呵を切った彼等は、銃を人に向けず傷害の意志も無かった。

橋本は自民党幹事長（田中角栄総裁時代の1972.7.7～74.11.11）退任後に警護を断った故、ロッキード事件に不満を抱く青年に襲われた時は周りの参拝客に救われた。抑々殺意が弱い御蔭で恰度45年前の団琢磨銃殺の様な絶命に成らず、1・2審判決（懲役2年6ヵ月執行猶予3年・追徴金500万円、1982.6.8、86.5.16）への上告中、本島等長崎市長狙撃の翌日に物故した。

本島は橋本より4歳長い享年92で天寿を全うしたが、歿8年前の前日（1996.10.30）に、柳川喜郎（岐阜県可児郡御嵩町町長、前NHK解説委員、33.1生）が自宅附近の昇降機^{エレベーター}を降りた処、2人の暴漢に棒^{バット}で数十回殴られ頭蓋骨・肋骨骨折等の重傷で重体に陥った。産業廃棄物処理場建設反対を唱えた故に恨みを買ったとされるが、未解決の儘15年後に時効が成立した。

65日後（1997.1.3）に羽田空港の全日空貴賓専用搭乗口^{VIP}の昇降機^{エレベーター・ホール}広間で、中西啓介（衆院議員、元防衛庁長官、41.2.6～2002.1.27）が2人組の男にゴルフ棒^{クラブ}で殴られ、足や顔に約1週間の怪我をした。逃走後に逮捕された広島県在住の花□某（24）・平□某（23）は中西代議士とは知らず、空港の近くで車が接触しそうに成ったので追い掛けて行って殴ったと供述した。

彼は曾て憲法改正是認の失言で防衛庁長官（1993.8.9～12.2）を辞任し、長男□□（電通社員、25歳）の大麻所持（サリン厳戒中の車輛検問で酒気運転と共に発覚・逮捕、95.4.28）で議員を辞した（5.12）。7回目当選（1996.10.20）後に別の運転絡みの厄介で因縁を付けられたが、自民党→新生党→新進党→自由党→保守党（2000.4.3結成）の転身後に落選（同6.25）・引退・早逝した。

丹羽・山村は更に低次元・不条理な原因で殺され、同じ精神異常者の狂暴でも後者の病は誰にも気付かれず余計に悔まれる。「1度有る事は2度有る」の通り浅沼の悲劇も再演され、10年後に4人目の石井紘基（民主党所属衆院議員、1940.11.6～2002.10.25）刺殺が白昼堂々と起き、自宅駐車場で迎える車へ乗り込む際に無言で駆け寄る男が柳刃包丁で胸等を斬った。

翌日に出頭した伊藤白水（守皇塾〔右翼団体、本部=東京、1985年結成〕代表、本名泉、48歳）は、資金提供の仲介の恩を仇で返す言動や家賃工面の要請への拒絶が単独犯行の動機とした。政・官界の腐敗を暴き続けた石井は3日後の国会質問でも切り込む予定らしい故、犯人の無期懲役（東京地裁2004.6.18判決、最高裁05.11.15確定）服役中も黒幕を巡る疑惑が消えない。

戦後の政治家を狙う恐怖犯行は新憲法公布後・実施前の1947年1月20日に始まり、聴濤克巳（朝日新聞記者→論説委員、全日本産業別労働組合会議〔46.8.21設立〕議長、後に衆院議員・共産党中央幹部会員兼書記局長、04.1.11～65.8.30）が東京の宿泊先で、新鋭大衆党（右翼団体、46.6結成、本部=東京）成員（大□某・佐□□某〔24・21歳〕）に包丁で頭等を6回切られ重傷を負った。

「仁義の世界」の者が多い任侠右翼集団（約150人）は解散を命じられ（1947.12）、眞木康年（無頼漢出身の右翼運動家、13～49）党首も恐喝等による懲役3年（48.10.14判決）服役中に獄死した。「1.20」白色恐怖^{テロ}で阻止を強要された反政府「2.1」総罷業^{ゼネスト}は、結局前日の占領軍の中止令で断念せざるを得なかったが、14年後の「2.1」嶋中事件の様に死者が出ずに済んだ。

翌年7月19日、徳田球一（共産党書記長・衆院議員、1894.9.12～1953.10.14）が佐賀市公会堂で、手製手榴弾の投擲で38ヵ所の傷を負ったが直ぐ講演を続行した。犯人（反共連盟〔結成年未詳、本部=福岡市〕所属の炭鉱夫古賀一郎〔48歳〕）は、「5.1」^{メーデー}徳田・志賀義雄（共産党政治局委員・衆院議員、1901.1.12～89.3.6）等の暗殺を企てたが、旅費が無い故に代議士殺害が回避された。

右翼の派手な要人襲撃は干支1巡後に下火が烈火と化し、1960年の河上顧問・岸首相刺

傷と浅沼委員長刺殺で高揚を呈した。平成0年代の金丸副総裁・國松長官狙撃は恐怖犯行の新時期を開け、丹羽・山村・石井の不慮の死で現職代議士の他殺は4例に増えた。新憲法下の60年中の平均15年で1回の惨劇は、周期の暗示と見れば現実的な脅威を感じさせる。

浅沼・丹羽・石井刺殺(1960.10.12, 90.10.21, 2002.10.25)は10月中・下旬の間に推移し、「10.25」は八海事件無罪確定(68)・國松長官狙撃第2容疑者不起訴決定(10)の日である。同句の山村刺殺(1992.4.12)・伊藤市長射殺(2007.4.17)は、血盟暗殺・「5.15」政変(32)と戦後の政治家襲撃第1号(47)と共に、西暦の末尾が2・7の年の凶変多発を印象付けた。

附 記

連載第4回は筆者来日(1987.6.30, 韓国民主化宣言の翌日)35周年時に書き上げ、本誌前号(10月)掲載の校正時附記(7.25)で言及した様に、本部分で取り上げた日本・韓国・日本・独逸・米国の暗殺劇は、図らずも脱稿後の「7.8」安倍晋三元首相狙撃と繋がった。

天數乱舞・符合続出に際会する歴史・現実探訪の今回分の内、師走初頭の校正で改めて気付いた暗号・暗合も有る。日本の現職首相の暗殺犠牲第1号(原敬, 1921.11.4)は本稿主題の「2021:変」の100年前に現れ、安倍暗殺の令和4年は政界要人への恐怖殺傷が擡頭→尖鋭化した明治/昭和/平成4年と重なる。

安倍射殺は岸信介首相・前総裁刺傷(1960.7.14)→五十嵐一助教授刺殺(91.7.11)の延長線に、31年に3日未満の等間隔で並ぶ。ヒトラー総統暗殺未遂(1944)の「7.20」→岸遭難の「7.14」→安倍死去の「7.8」は、専制党・国の独裁者と平和国家の任期最長の首相が両端に在る対極でも日付が均等に分布する。

浜田幸一自民党副幹事長が暴漢に殴打された日(1990.2.13)に、『悪魔の詩』和訳出版発表会で巴基斯坦人が暴れ発行人に死刑宣告を言い放った。1年5ヵ月後の筑波大学構内での訳者五十嵐怪死に次いで、禁断の小説の著者ラシュディは本部分完成後に米国で講演前に暴漢(24歳)の凶刃で重傷を負った(2022.8.12)。

石井紘基代議士刺殺(2002.10.25)の丸15年後の習近平党首・軍統帥再任は、中澤克二の「習近平帝国の暗号2035」読解と筆者の系列論説を触発した。同日は志願軍朝鮮参戦(1950)記念日と中共政権の国連加盟(71)日の他に、後述の通り解放軍全滅で終わった金門島上陸作戦(49.10.25~27)の初日でもある。

直近の「20大」(10.16~22)は初原爆実験成功58周年の吉日に開幕したが、閉会式に胡錦濤前党首が隣席の指図で退場させられ、党大会史上空前の不祥事と成った。翌日の1中全会選出の政治局常委は習派一色で、政治局委員も「肅青」(共青团系肅清を表す造語)の直前除外からか掟破りの偶数構成に成った。

本稿の副題中の「百周年の再起動」は建党(1921.7.23)100年時の再出発を意味し、昨今の「新政」は電腦の再起動の際の系統終了→手順指示再実行とも似て、「防疫」(新型コロナウイルス)に止まらぬ政治的な「清零」(零に帰す純化)等で、改革・開放の既定路線を止揚し毛沢東時代への先祖返りを進めて来た。

副題の後半の「紅羊劫の前奏曲」が当たった様に、「文革」勃発・内戦激化(1966・67)の丙午・丁未の60

年毎の再来の不穏の予感として、丙・丁の陽火・陰火と午・未の馬・羊が投影する形で、遊牧地域の新疆の首府烏魯木齊で起きた火事（11.24）の犠牲多数が、都市封鎖の自由抑制への広汎な反撥の発火点を成した。

「11.24」は劉少奇生誕124周年・毛沢東記念堂定礎式46周年に当り、前の「紅羊劫」に政争で毛に敗れた劉は「辛い歴史は人民が書くのだ」と言い遣した。前回の附記で「茶番劇」と喝破した乱暴・迷妄・徒勞の「清零」は「14億総迷惑」（造語）の限界に達し、「超限戦」の蛮勇も遂に大衆反抗の英勇に屈した。

世紀の「魔疫」（悪魔の疫病を表す造語）の武漢発（2019.12.8）と「紅羊劫」再来（西/旧暦の26.1.1/2.17）の中点は、早い方が今年の一陽来復に近い12月20日である。全国初の武漢「封城」（2020.1.23～4.7）後の1千日（22.10.17～12.1）超の消耗だけでなく、陽への反転を待つ陰の極みの時節は元々暗くて辛い。

当局は出口封鎖で焼死した維吾爾族住民の自助力不足に責任を転嫁し、26日の上海を皮切りに各地で義憤の追悼・抗議が多発した。部分緩和の20条措置（11.10政治局常委会決裁）の空文化に対する失望、サッカーワールドカップ（華太瑠、11.20～12.18）の映像で海外の脱マスクの常態を見た衝撃も、「休眠火山」爆発の背景に有る。

「11.10・24」は筆者に纏わる天数として、父夏正行の生誕100周年・逝去49周年に当る。父は国民党時代末期の上海で同済大学学生自治会主席を務め、飢餓・内戦・迫害に抗し民主・自由を求める学生運動を命懸けで仕切ったが、黄泉の下で今回の凄惨な受難を知れば正義漢の满腔の熱血が沸騰するに違いない。

当局が迷走を始めた「11.10」は「文革」前哨戦開始（上海発の姚文元『海瑞罷官』批判、楊尚昆党中央辦公庁主任更迭）57周年、国民に開眼させた蹴球世界カップの開幕日「11.20」は胡耀邦生誕107周年と林彪・江青集団裁判開始42周年に巡り合せ、歴史の年輪・「時環」には新たな転換点と連絡線が付け加えられた。

当局が民意に圧されて過剰規制の是正を強いられる最中、96歳の元元首江沢民が30日に上海で他界した。53年前の同日に61歳で18日前の劉少奇と同じ迫害死を遂げた陶鑄（劉失脚後のNo.4）の悲劇が想起されるが、陶の娘斯亮（41.4.4生）は11月5日に電腦網上で過度検疫の恣意・杜撰・無益を指弾した。

「20大」開幕と江沢民病没は武漢「封城」開始と解除の999日後に当り、「久久久」との同音は無期「長えき疫」（「懲役」を振った造語）を思わせる。全国的規制緩和の初日「12.1」は武漢解禁の1千日後に巡り合せ、人類初体験の1世紀前の西班牙風邪（1918～20）並みの世界的大流行も策源地で天数の配置に沿う。

江の逝去はその時代に礎が固まった経済成長の黄金期の終焉を象徴し、本年の経済成長率目標（5.5%前後）大幅未達は、日中の社会発展の時間差の起点を成す明治維新→戊戌変法等の30年強差に当て嵌れば、31～29年前の日本の泡沫経済崩壊（1991.3～93.10）の二の舞を演じているとしても可笑しくない。

この警世論説の重点対象は当初の東京五輪・中共建党100年・「小室劇場」に、中共再起動の翌年の3大変事を加え、題も将来『変：2021～22』に改めたい。露西亜の烏克蘭侵攻・安倍晋三暗殺に次ぐ中共「20大」と反「清零」封鎖抗争は、44・33年前の改革・開放始動と天安門事件以来の突然変異・変調と言える。

1932年の血盟団暗殺と「5.15」政変・首相射殺の60年後、92年に戦後初の政界要人（金丸信副総裁）狙撃が起き、又30年後に安倍元首相が凶弾に斃れた。間隔の半分短縮も西暦の末尾が2・7の年の凶変多発（本部分の最後の推論）も不吉で、中共大会開催年や「紅羊劫」終結年と重ねれば増々危うさを感じる。

2002.12.7 (COVID-19 発生 3 周年の前日。江沢民追悼大会と同日の「12.6」政治局決定で全国的「清零」緩和が始動し、60 年前の「3 年自然災害」を彷彿させた「3 年自燃災害」(中国語の「然・燃」同音 [rán] に因んだ造語、自ら点火・燃焼・消耗する災害の意) は、民衆の抗議で到頭隧道トシネルの出口が見えて来た。)

(夏 剛, 立命館大学国際関係学部教授)

2021：变 ——百周年の再起動 “红羊劫”的前奏曲？（4）

本部分从伊藤博文饮弹身亡、齐奥塞斯库夫妇突被处决、布托父女死于非命，及战后动乱期日本国铁3大奇案、韩国独裁统治对民主化抗争，引出韩国多届总统就任日“2.25”暗含凶咒，进而审视历代韩国总统多灾多难、下场不妙的宿命，借《红楼梦》的《好了歌》讽喻深层败因之一端。

由朴正熙毙命于中央情报局长枪击，牵出1944年“7.20”将校集团暗杀希特勒、政变未遂，联系令毛泽东遁走的67年武汉“7.20兵变”虚惊。随父被迫亡命、丧生的林立果所率“联合舰队”的“武装起义”狂想，所含“江田岛精神”又使人联想三岛由纪夫煽动自卫队政变未果自裁诱发“军国主义复活”危机感。

回顾江户末期的1860年至平成中期的21世纪头10年的武士、右翼、神经病患者等所为暗杀、恐怖袭击，对照多位美国总统或海外要人、名人遇刺事件，试论日本历来疏于严防政治家等固有的人身安全危险性，并在诸多案例的年月相关或日期重合中发现一连串“天数”、周期乃至魔咒、凶兆。

（夏 刚，立命馆大学国际关系学院教授）